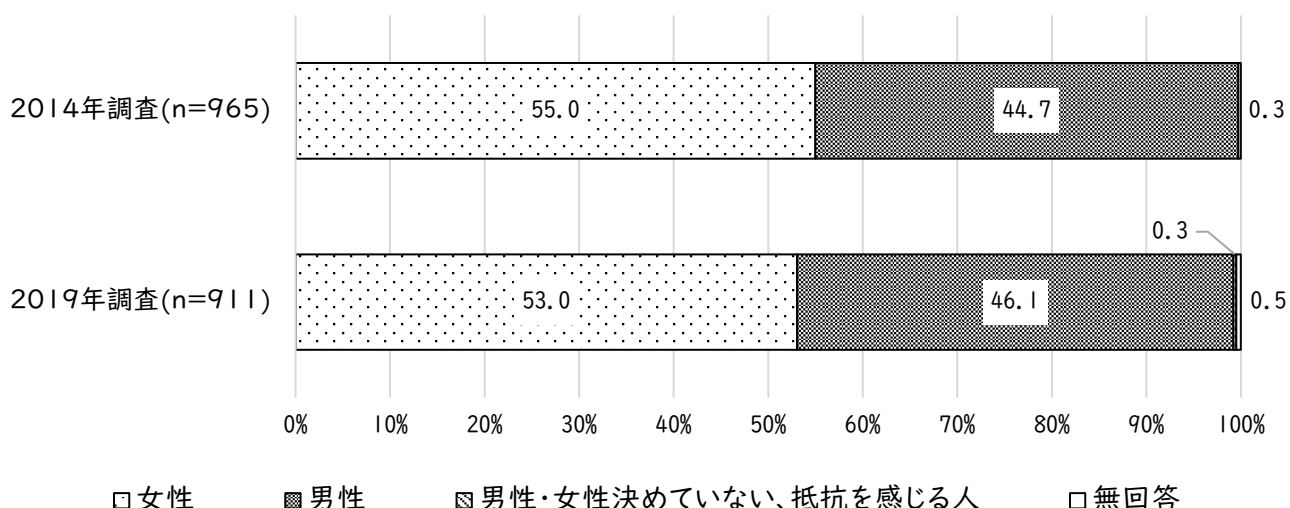


Ⅲ.市民意識調査の結果

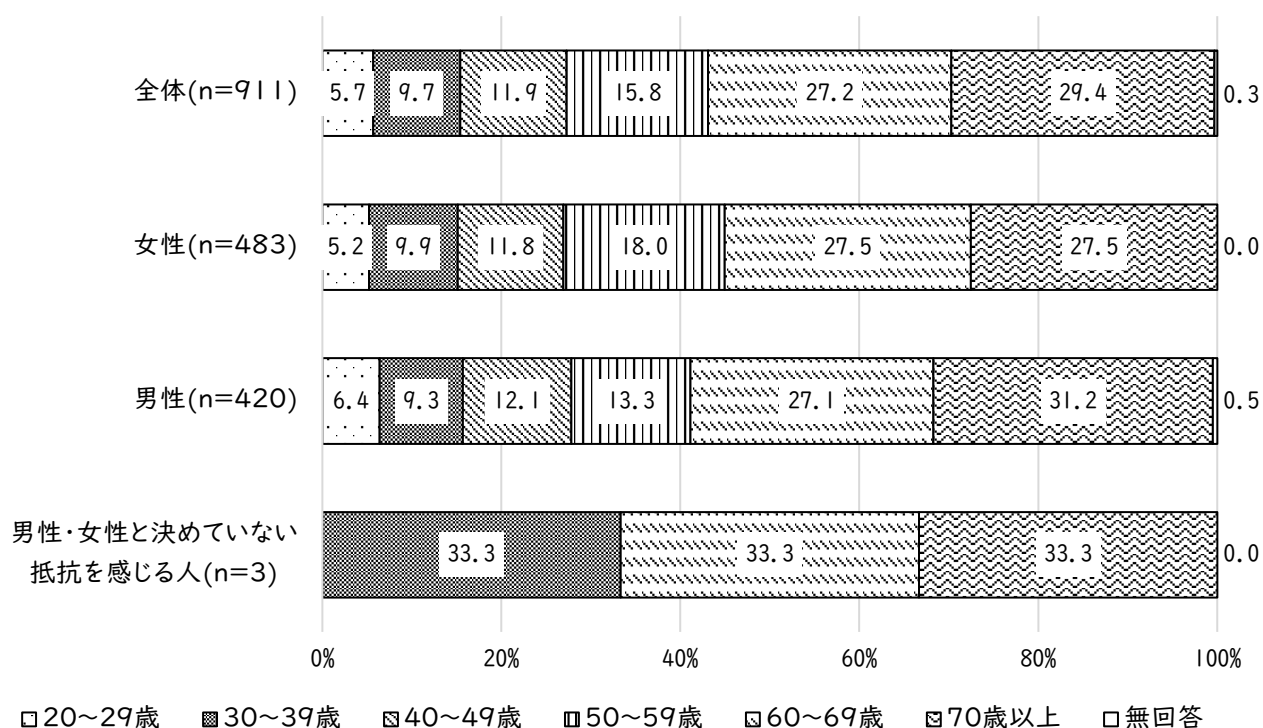
1.回答者の属性

問 1.性別(自認している性別)

有効回収数911人の内、「女性」53.0%(483人)、「男性」46.1%(420人)、「男性・女性と決めていない、抵抗を感じる人」0.3%(3人)、「無回答」0.5%(5人)。また、「男性・女性決めていない、抵抗を感じる人」は2019年調査より新たに追加した項目のため前回調査との比較はありません。



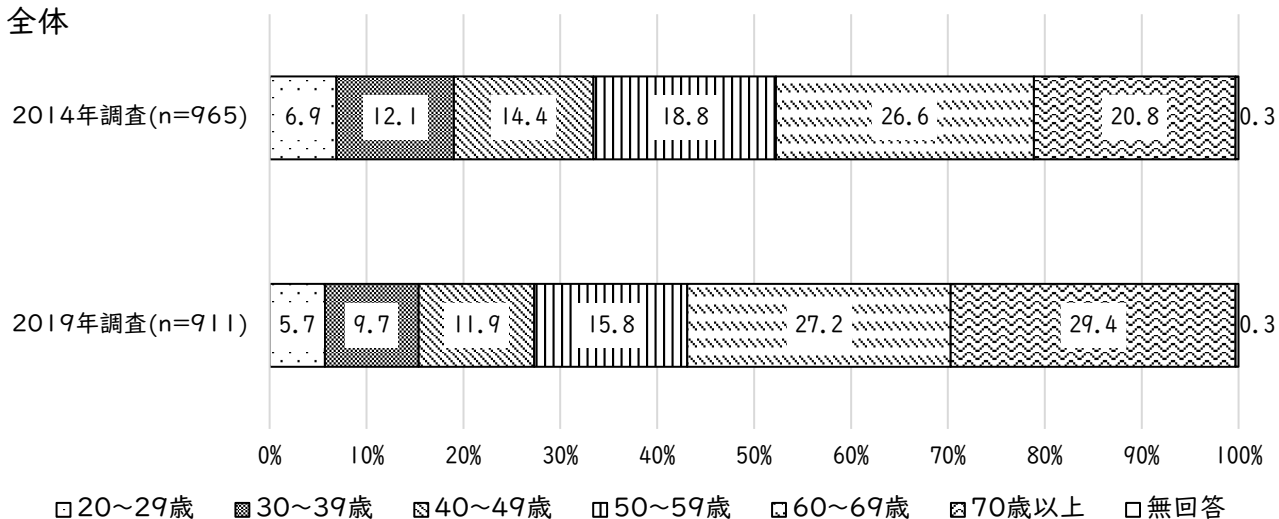
問 2.年代



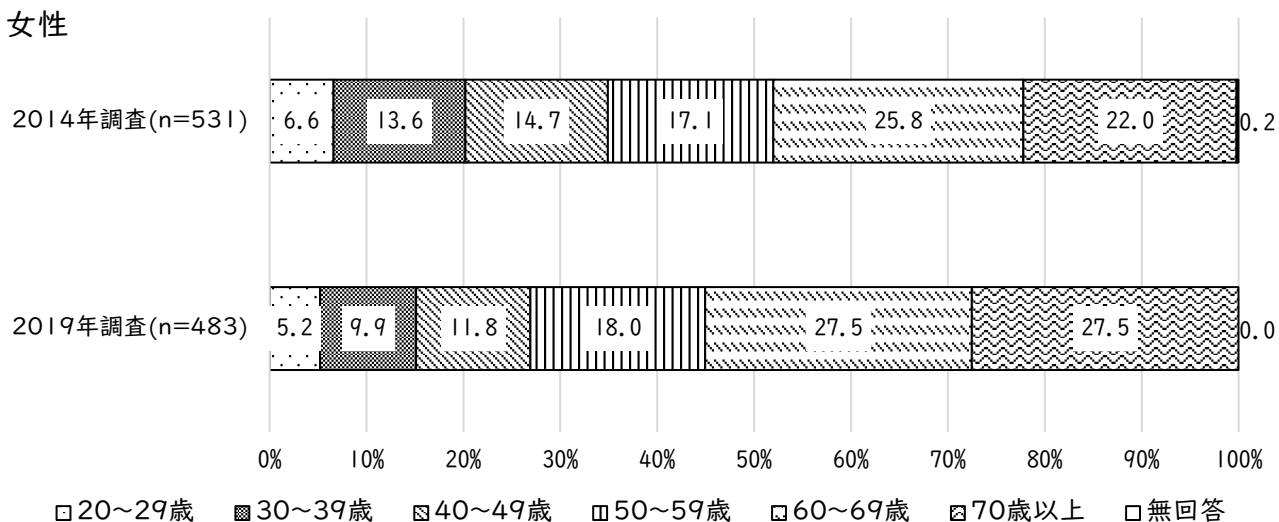
問 1.性別(自認している性別)で、「無回答」0.5%(5人)は除いています。

問 2.年代(2014 年調査との比較)

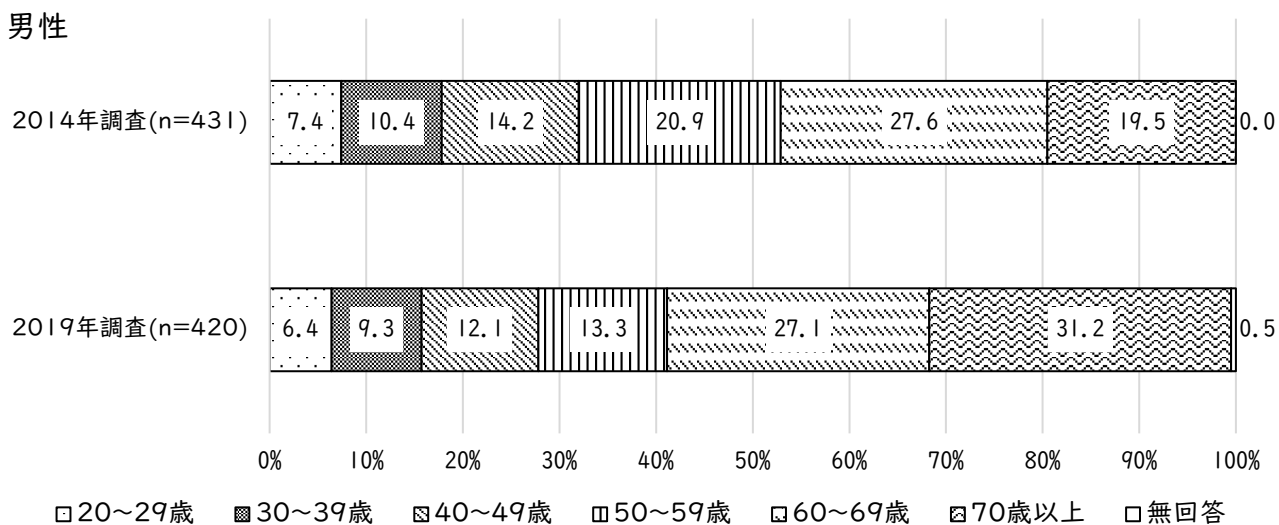
全体



女性

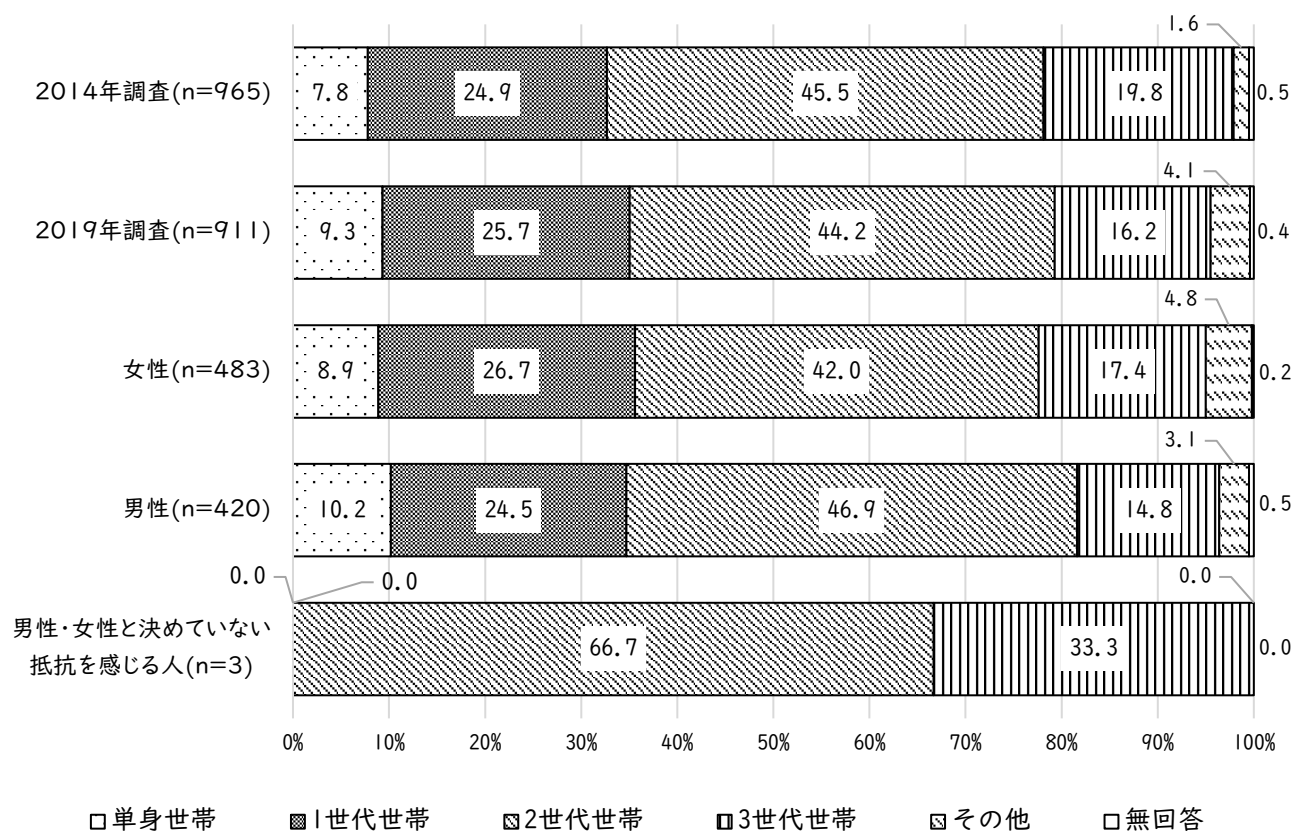


男性

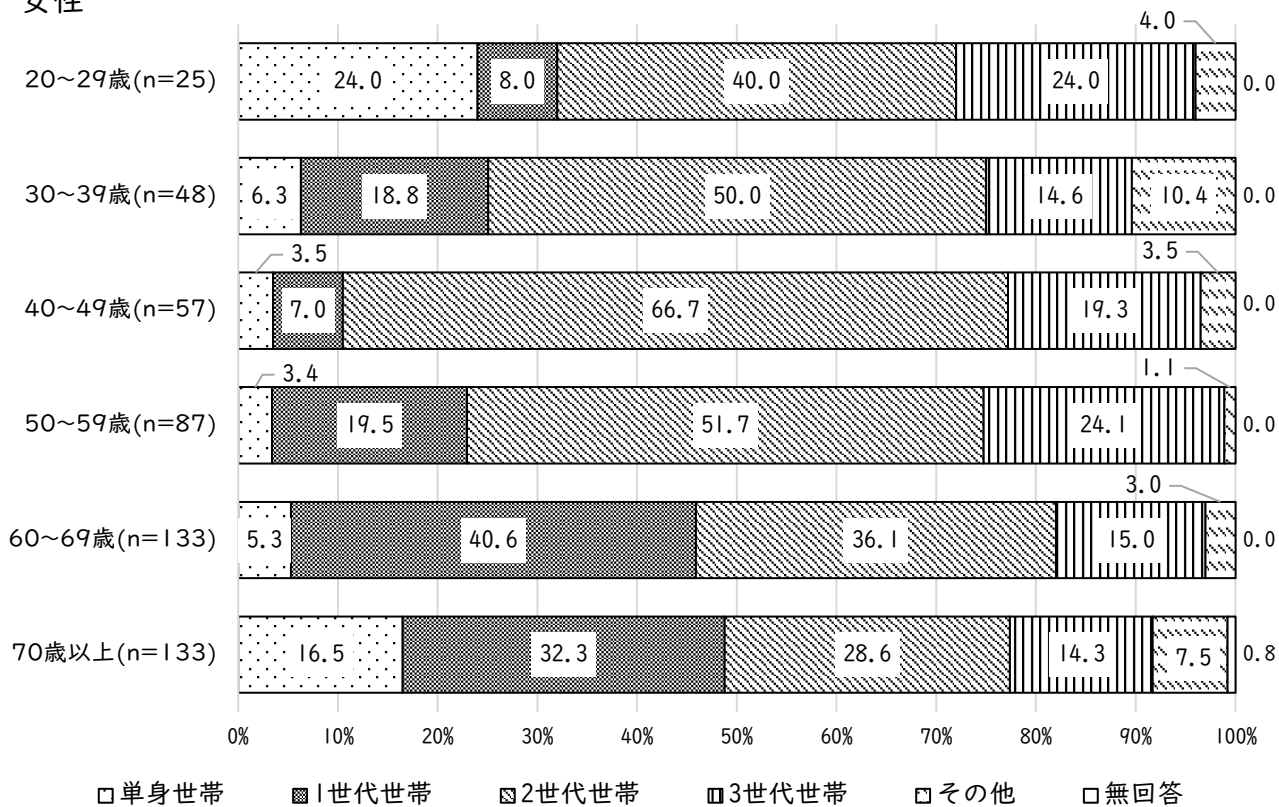


問1. 性別(自認している性別)で、「男性・女性決めていない、抵抗を感じる人」は2019年調査より新たに追加した項目のため前回調査との比較はありません。また「無回答」0.5%(5人)は除いています。

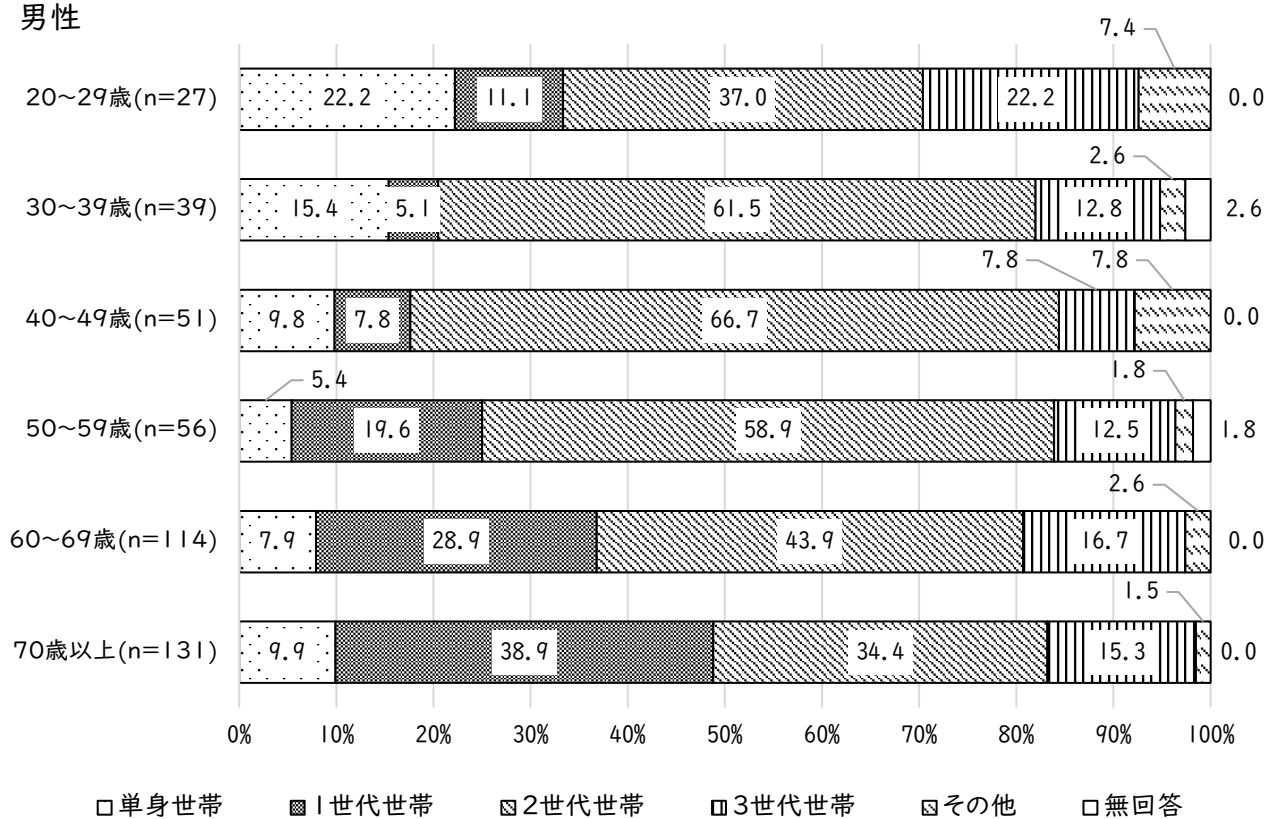
問3.家族構成



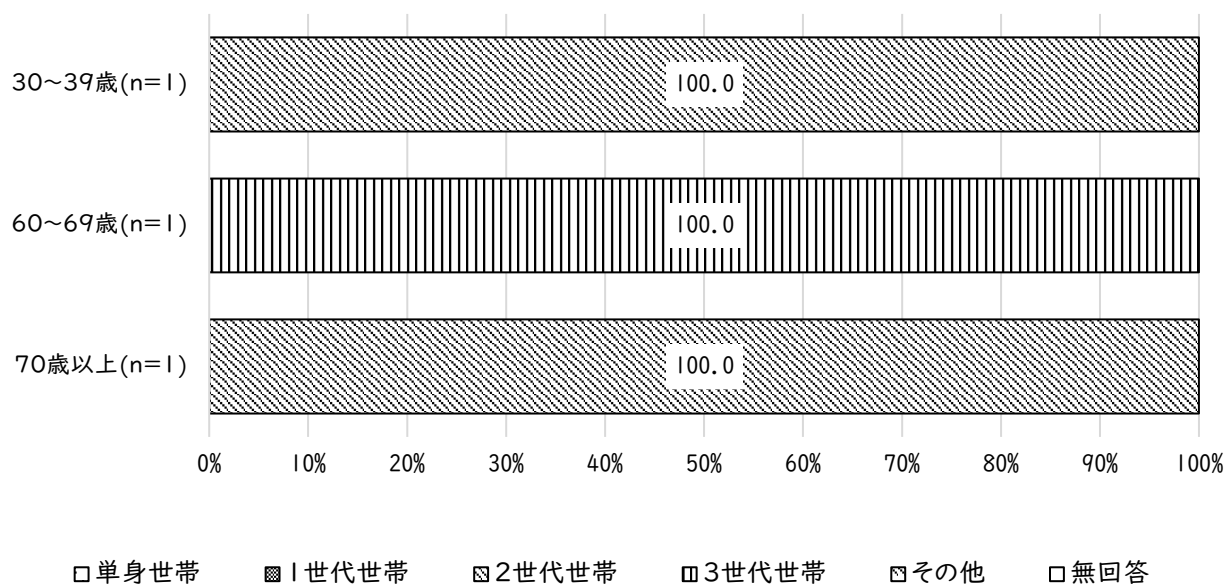
女性



男性

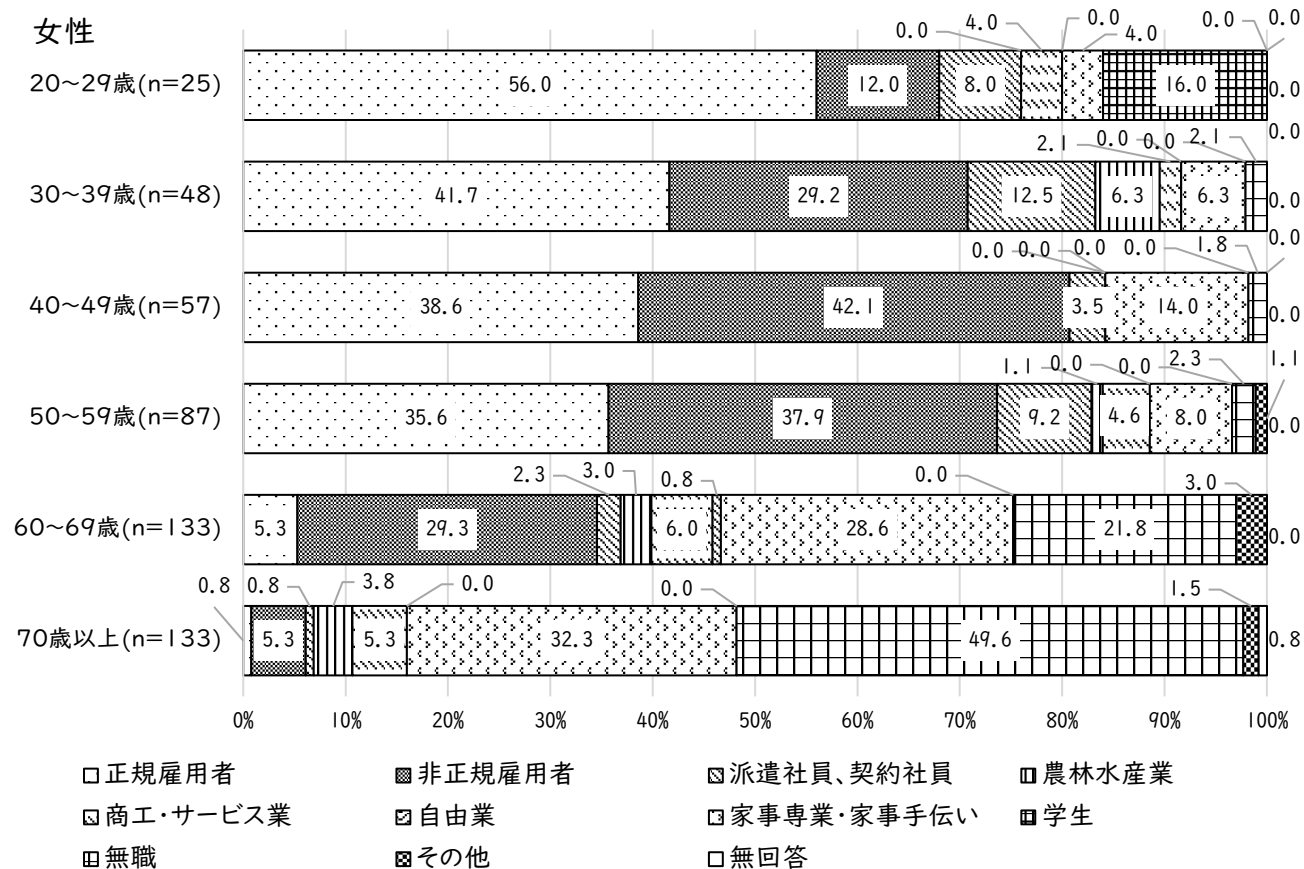
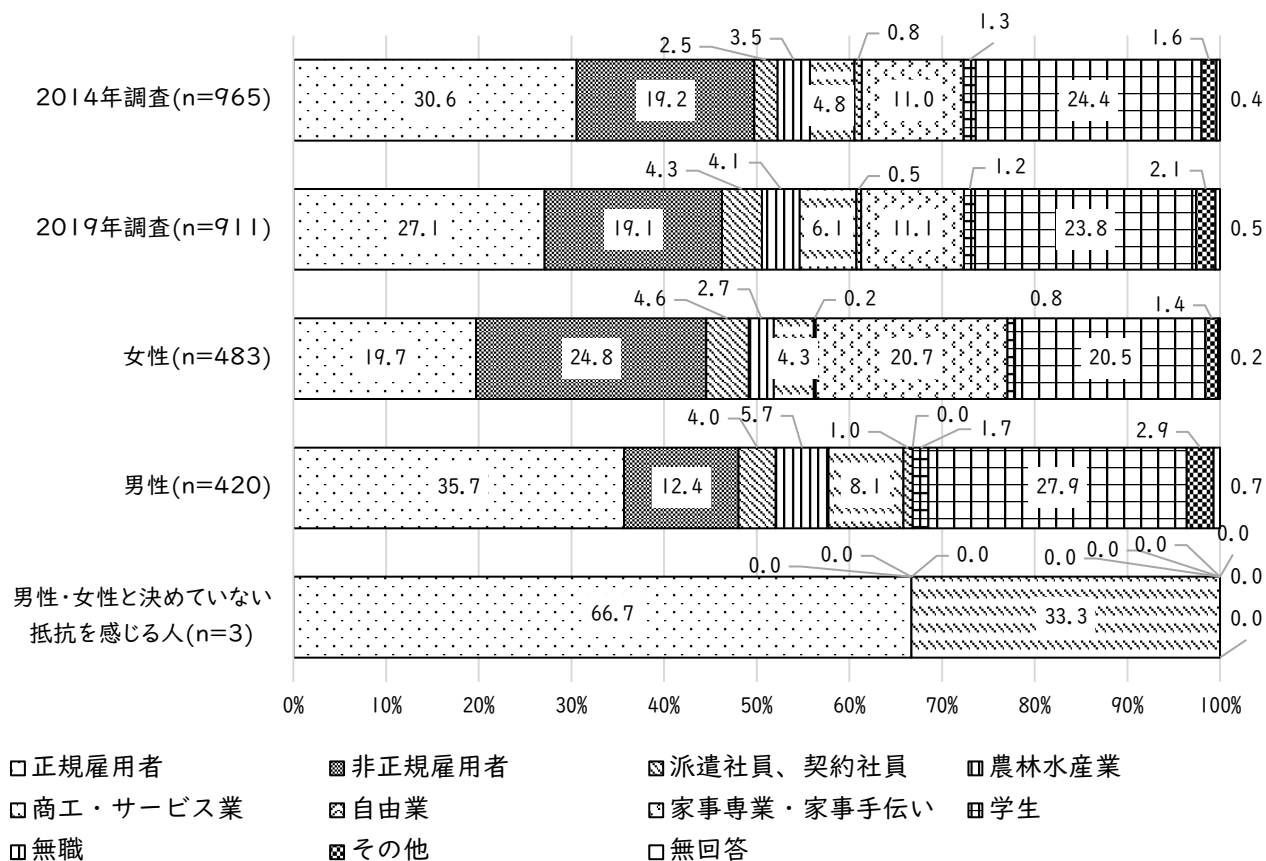


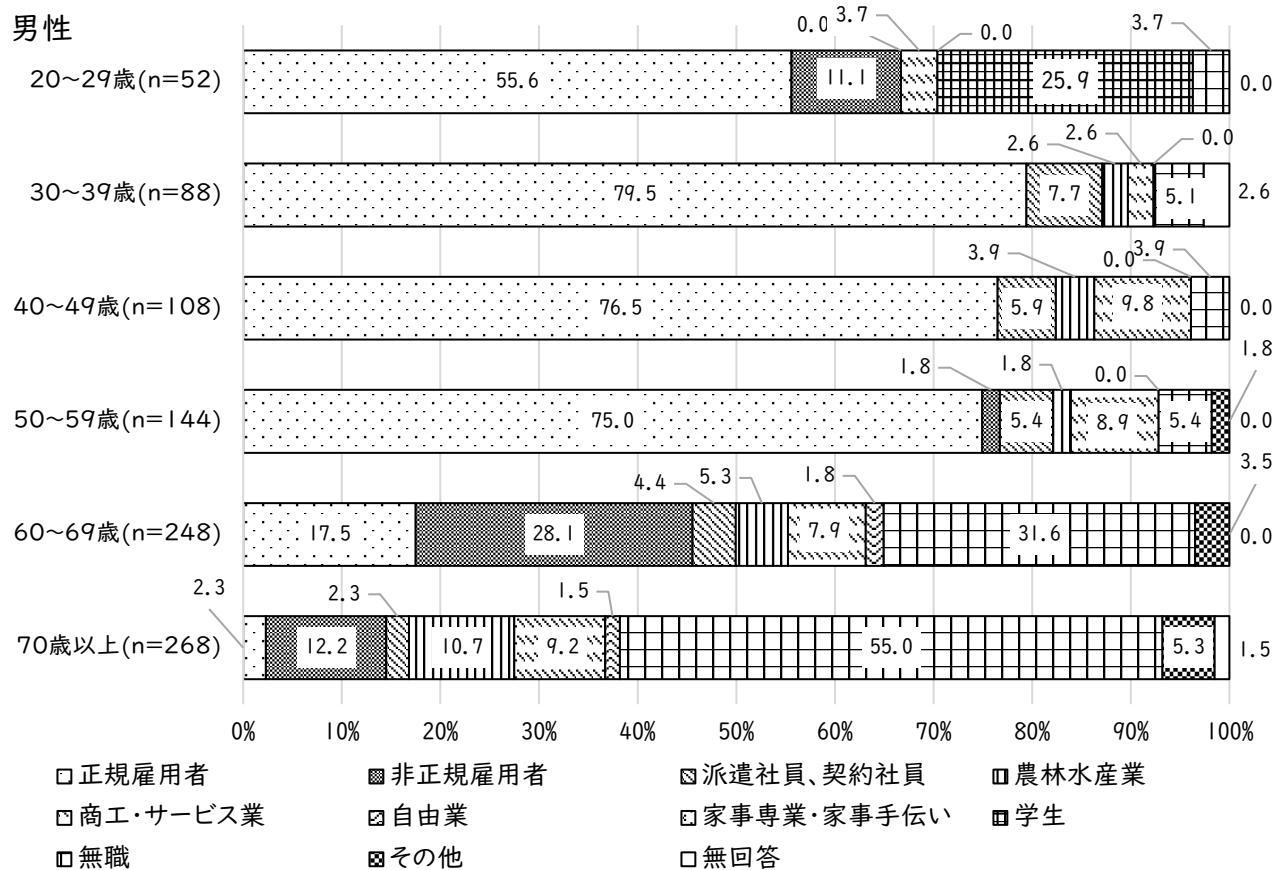
男性・女性と決めていない、抵抗を感じる人



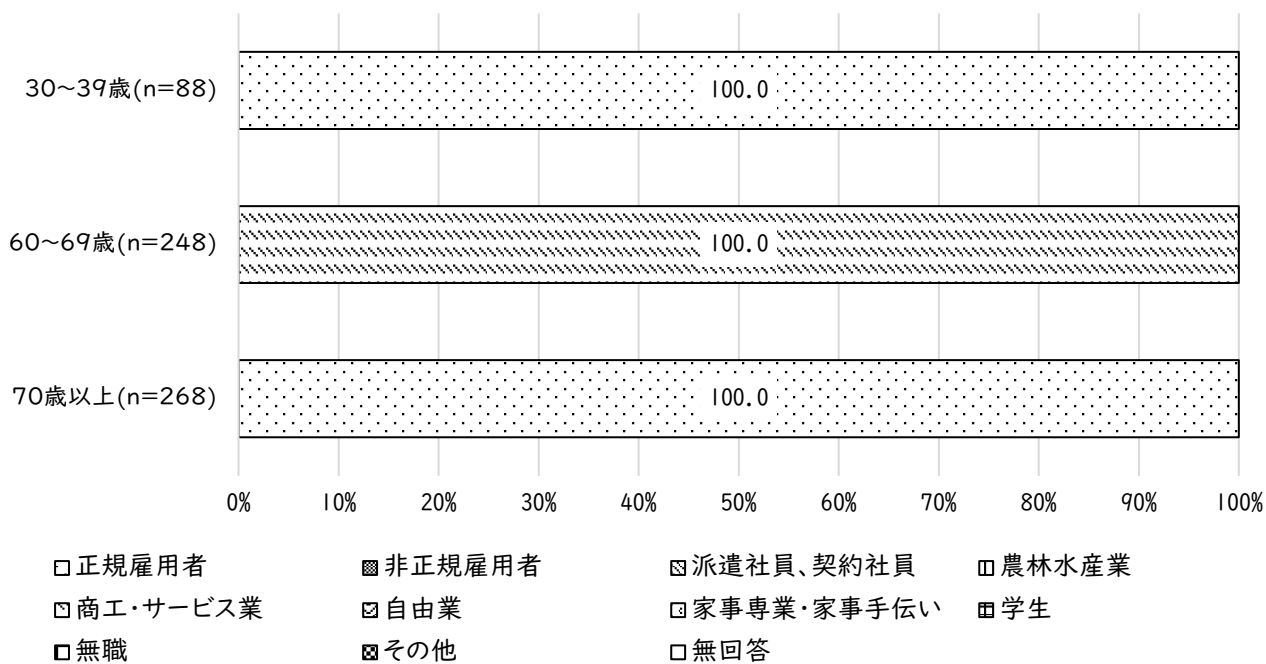
問1.性別(自認している性別)で、「無回答」0.5%(5人)は除いています。

問 4.就業状況



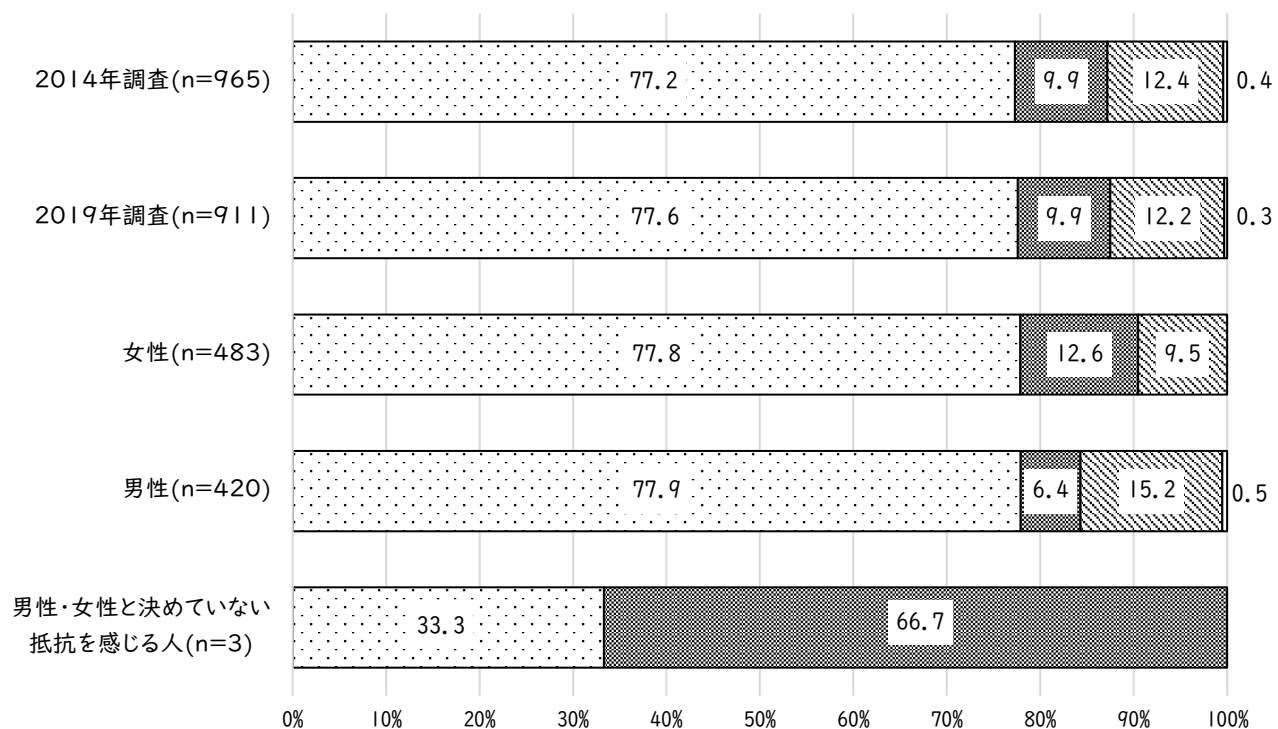


男性・女性と決めていない、抵抗を感じる人



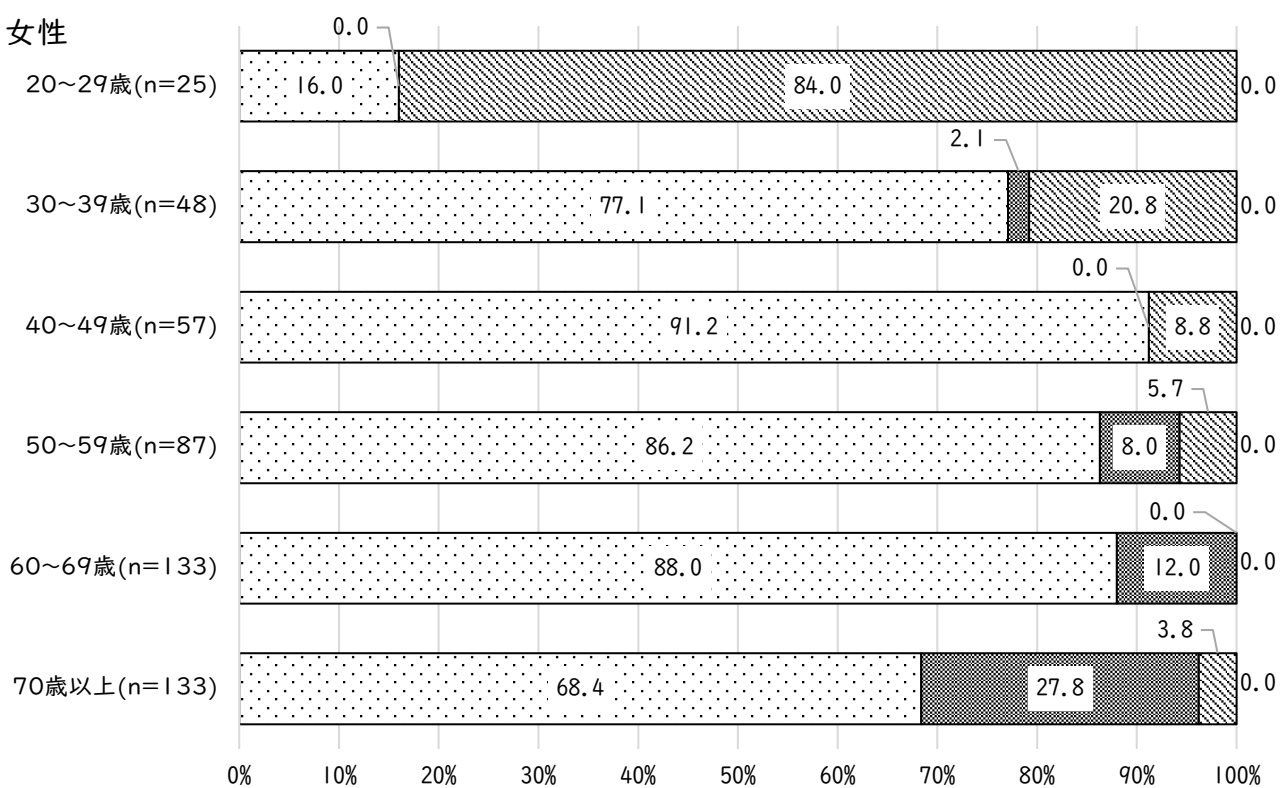
問 1.性別(自認している性別)で、「無回答」0.5%(5人)は除いています。

問 5.結婚の有無



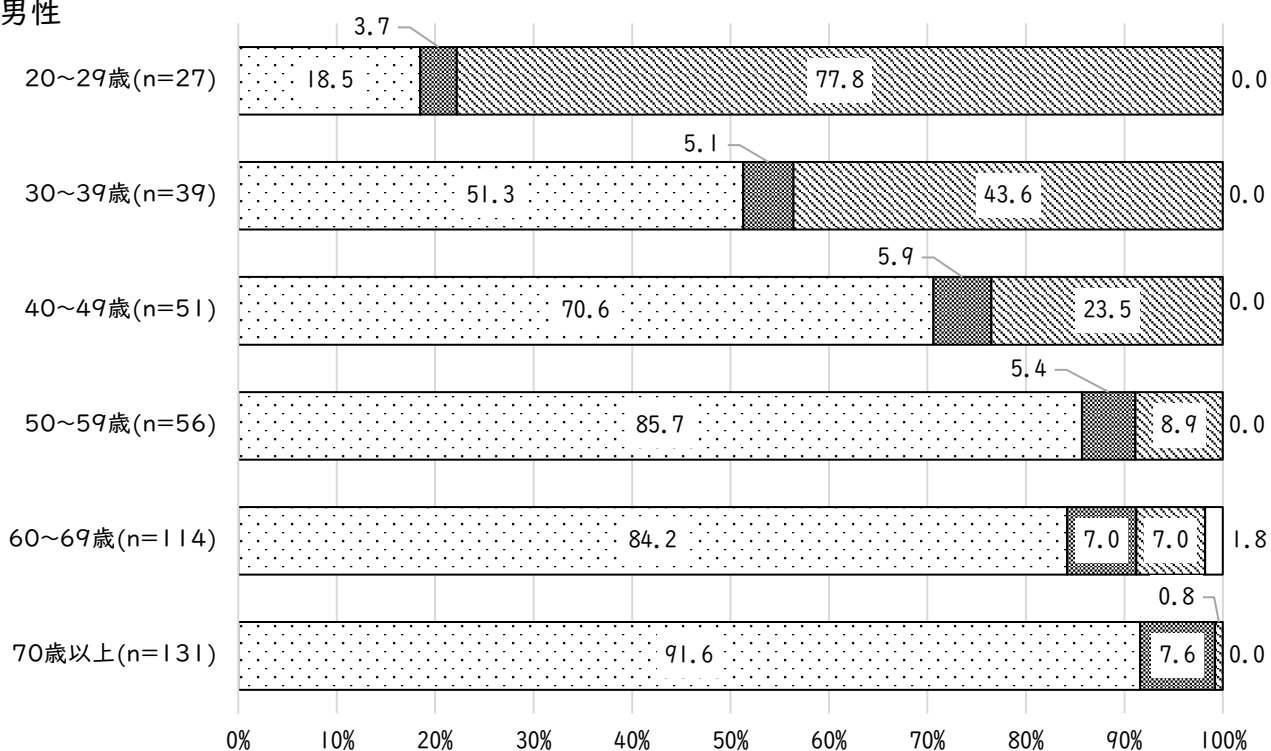
□ 結婚している(事実婚含む) ■ 結婚していたが、離婚・死別などで現在は夫・妻はいない ▨ 結婚していない □ 無回答

女性



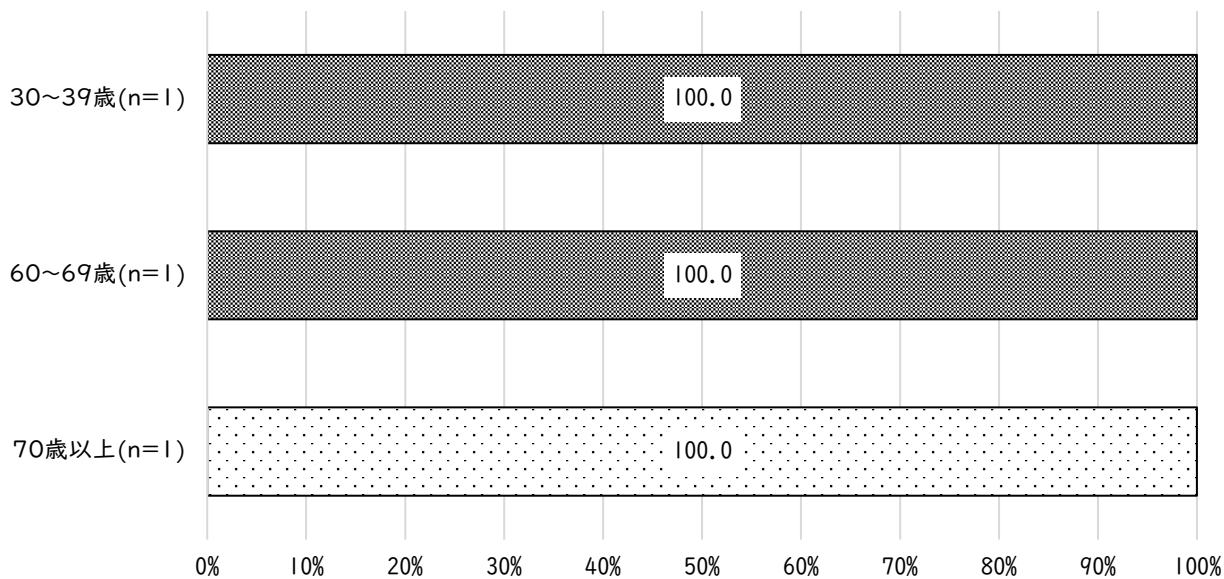
□ 結婚している(事実婚含む) ■ 結婚していたが、離婚・死別などで現在は夫・妻はいない ▨ 結婚していない □ 無回答

男性



□結婚している(事実婚含む) ■結婚していたが、離婚・死別などで現在は夫・妻はいない ▨結婚していない □無回答

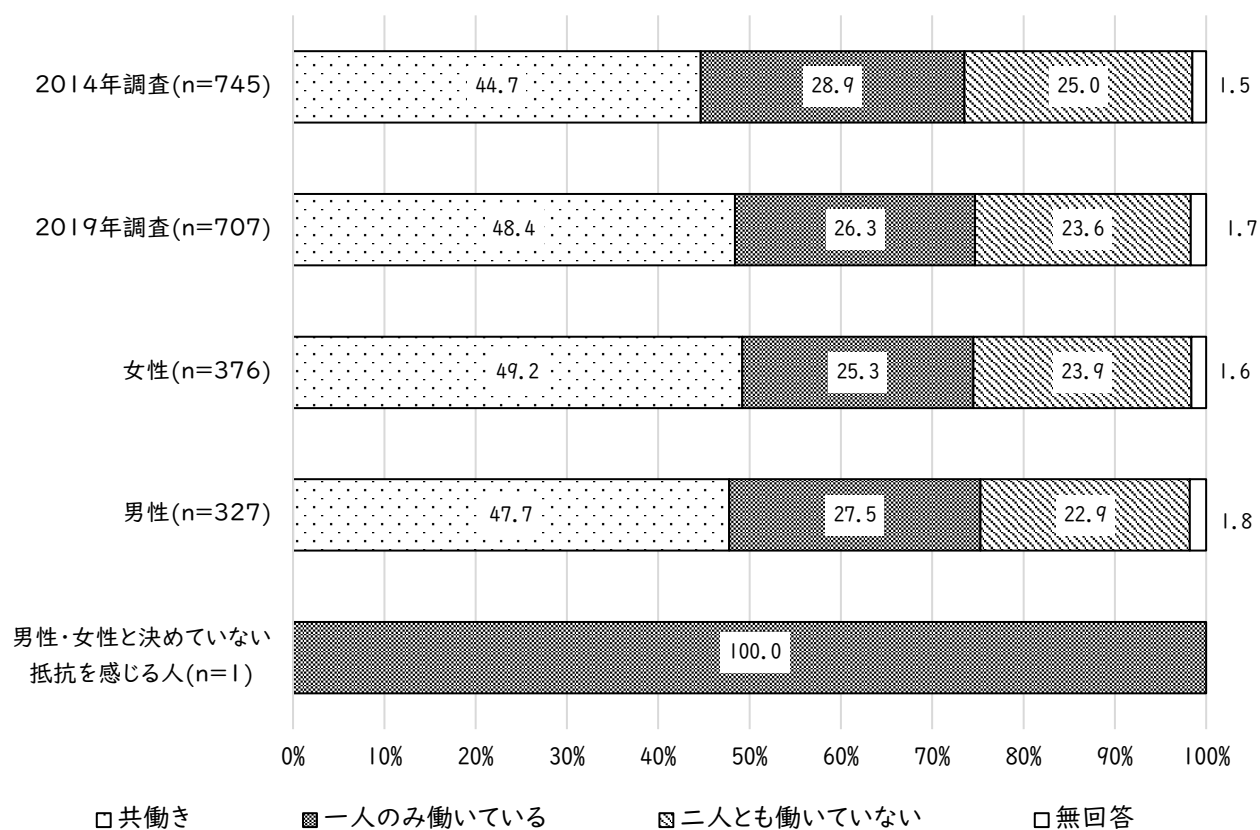
男性・女性と決めていない、抵抗を感じる人



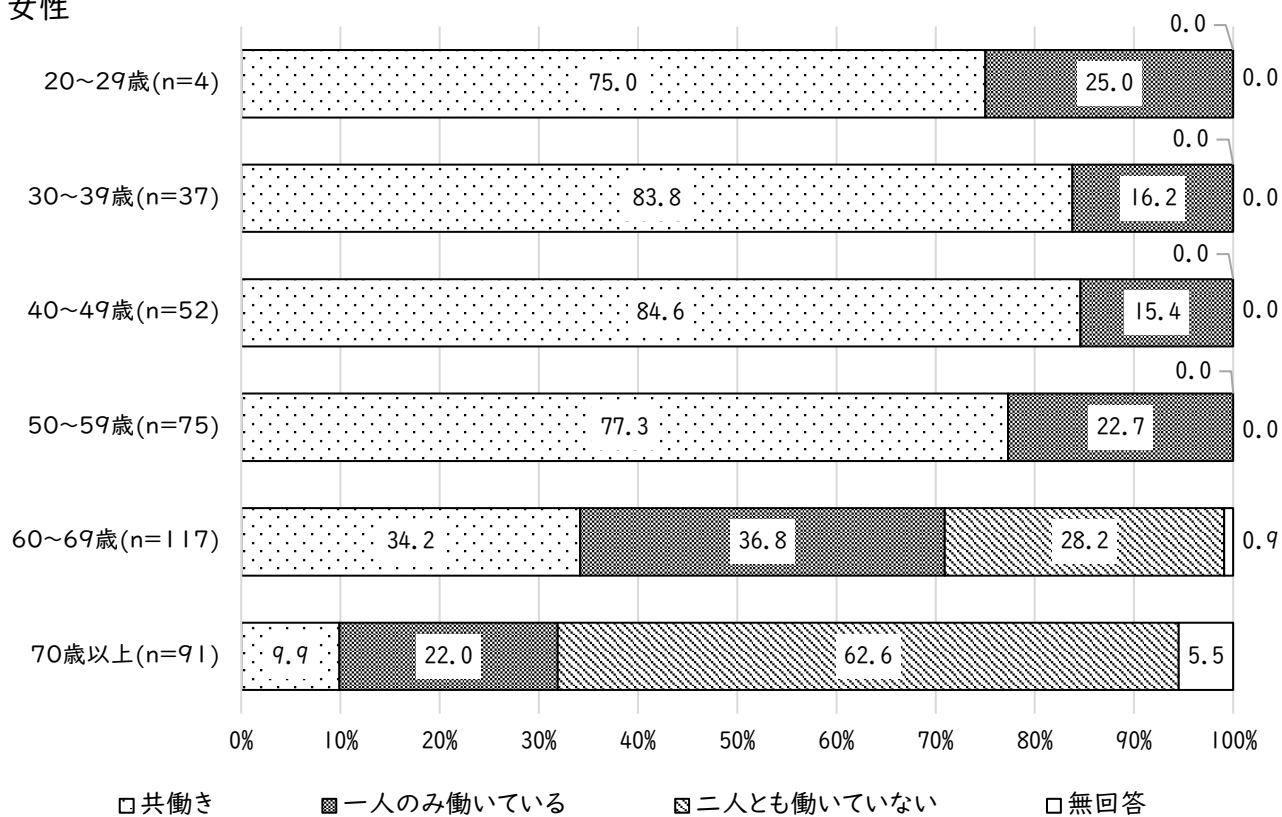
□結婚している(事実婚含む) ■結婚していたが、離婚・死別などで現在は夫・妻はいない ▨結婚していない □無回答

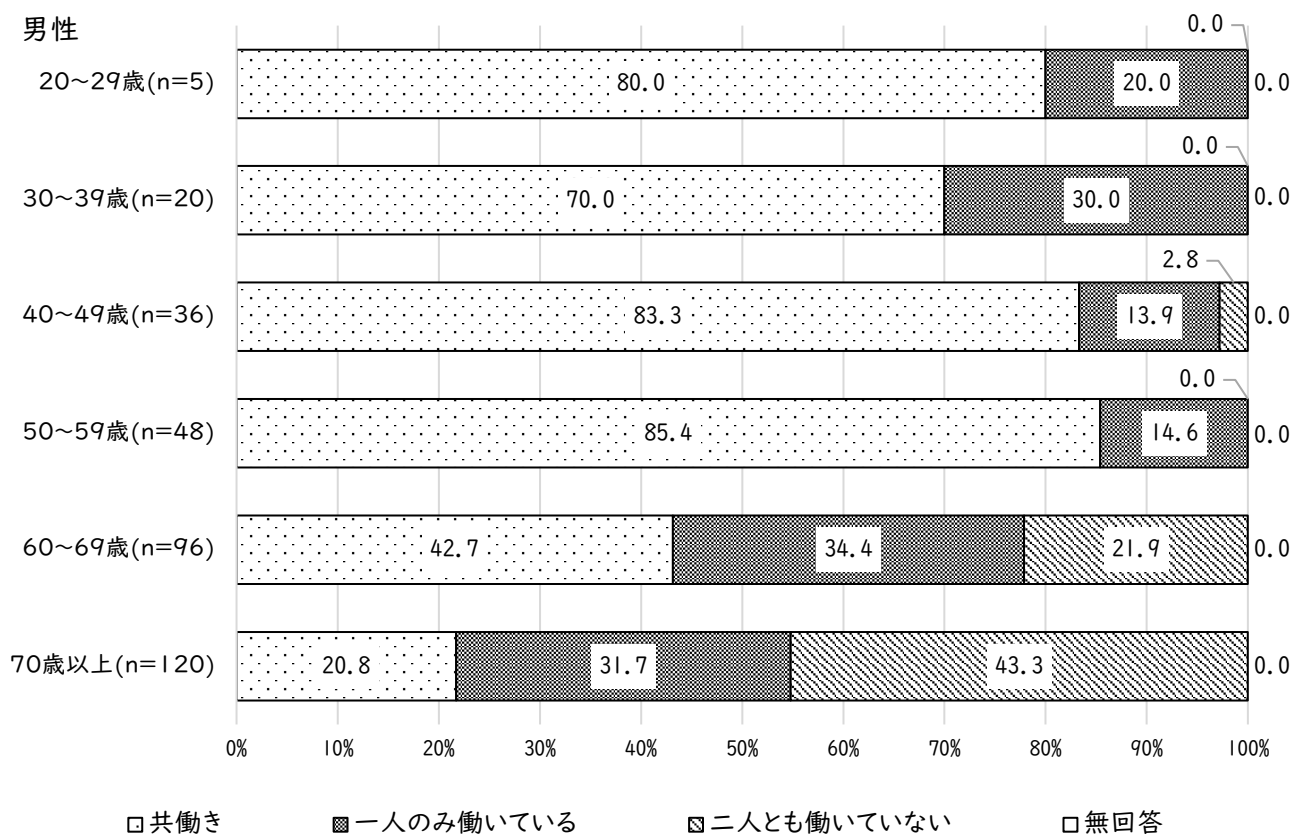
問 1.性別(自認している性別)で、「無回答」0.5%(5人)は除いています。

問 6.配偶者の就労状況(問 5 で「1.結婚している(事実婚含む)」に○印をつけた方のみ)

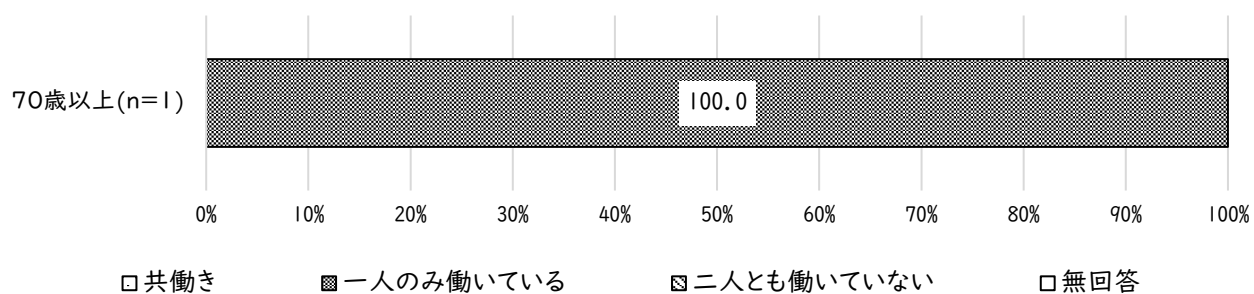


女性



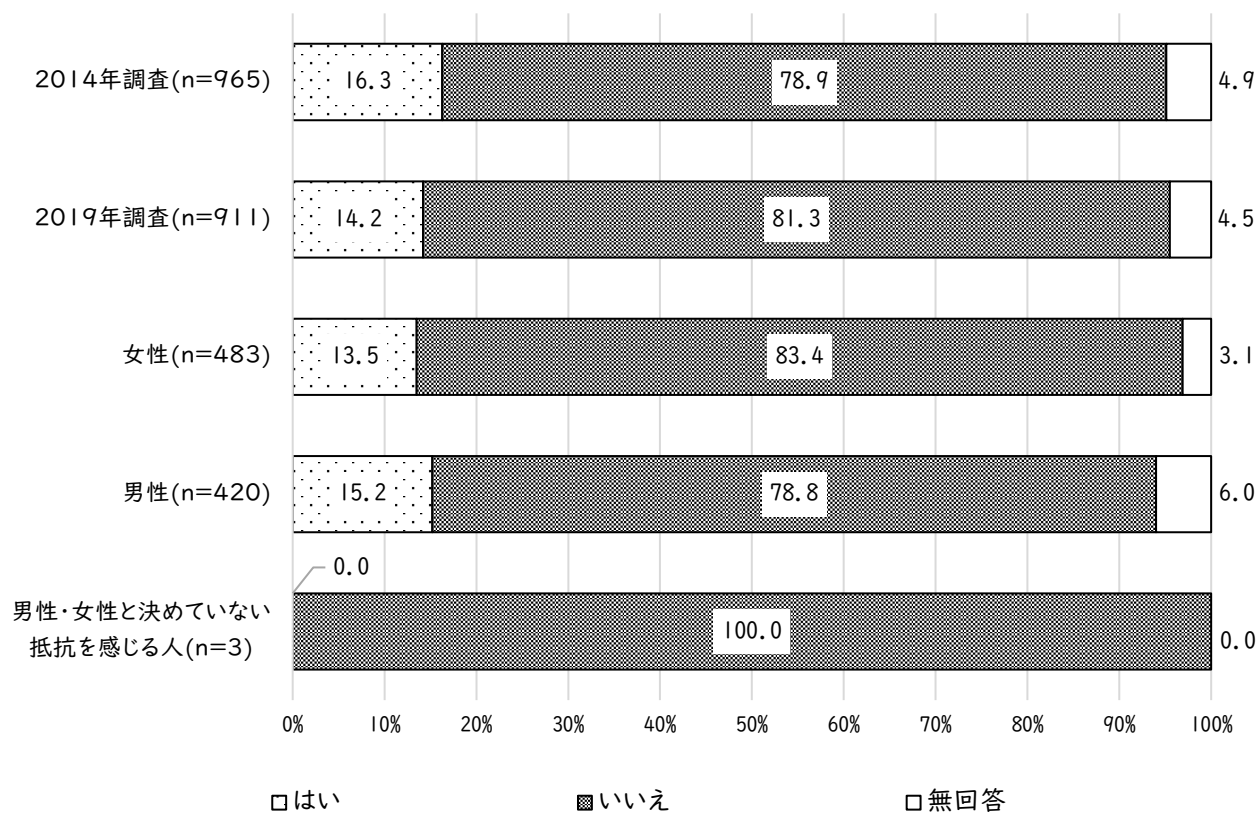


男性・女性と決めていない、抵抗を感じる人

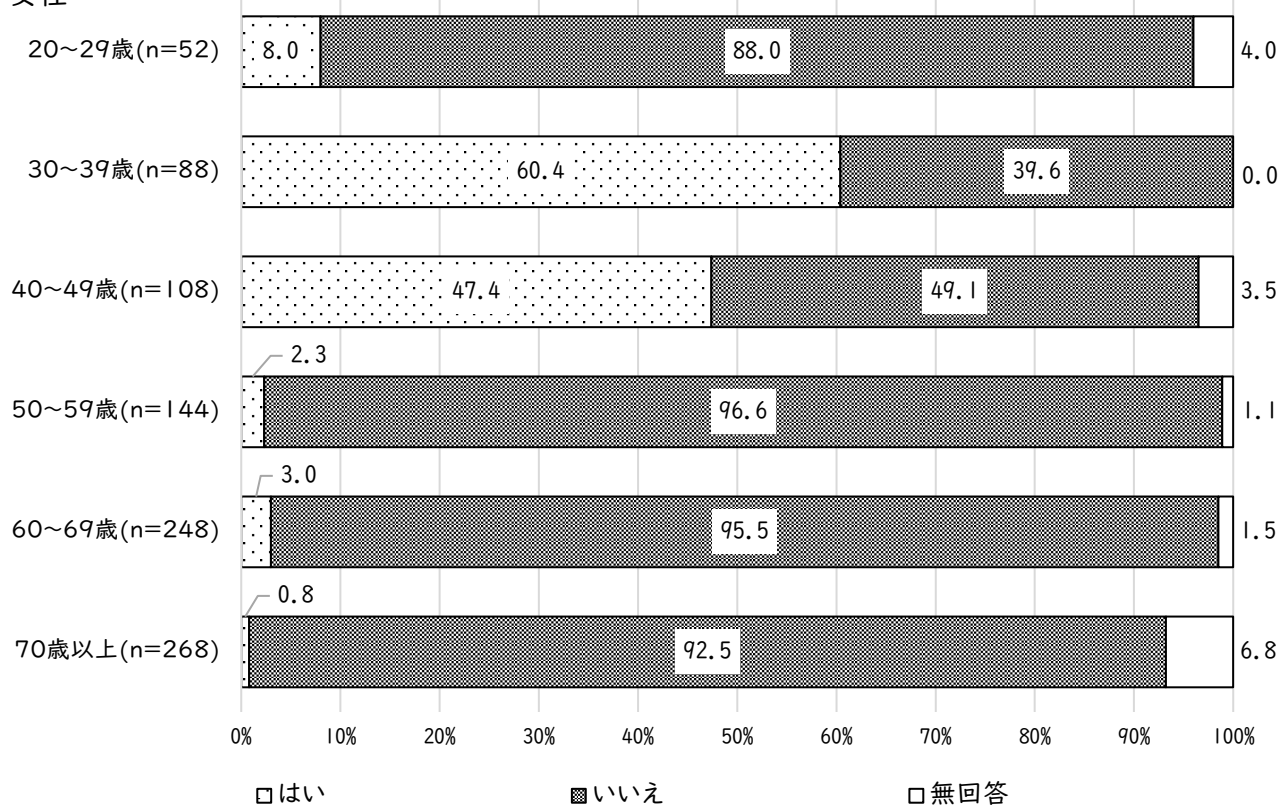


問 1.性別(自認している性別)で、「無回答」0.5%(5人)は除いています。

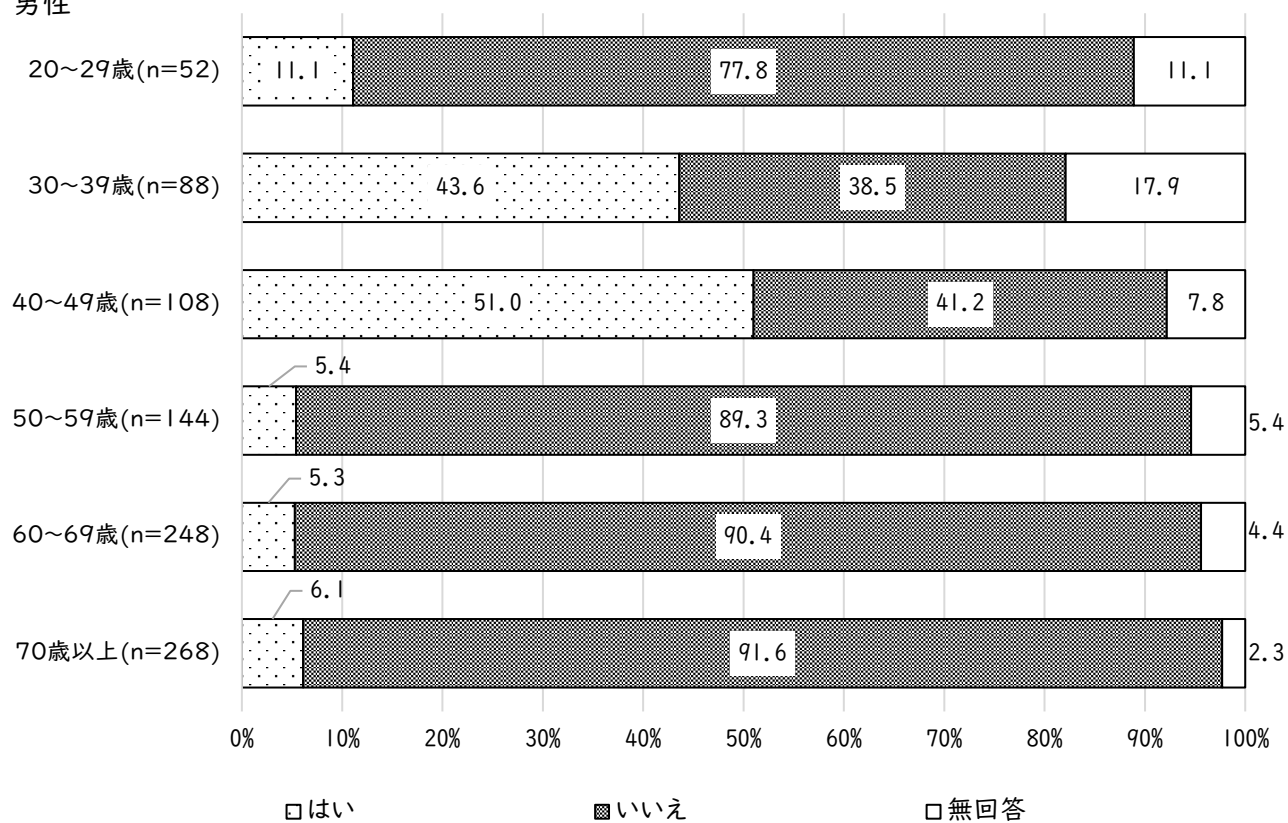
問 7.同居している小学生以下の子どもの有無



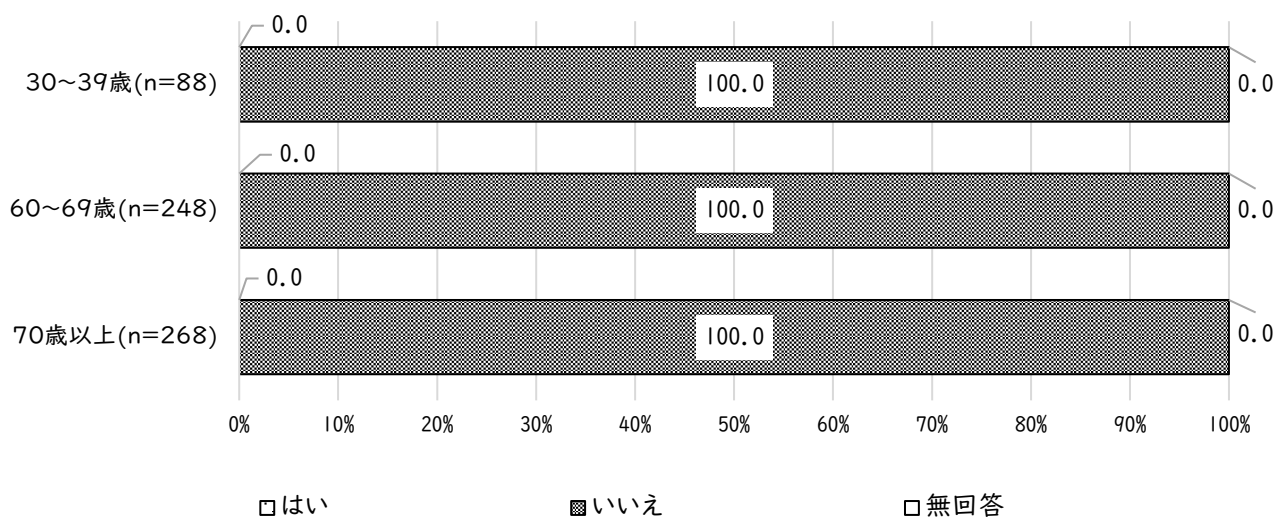
女性



男性



男性・女性と決めていない、抵抗を感じる人

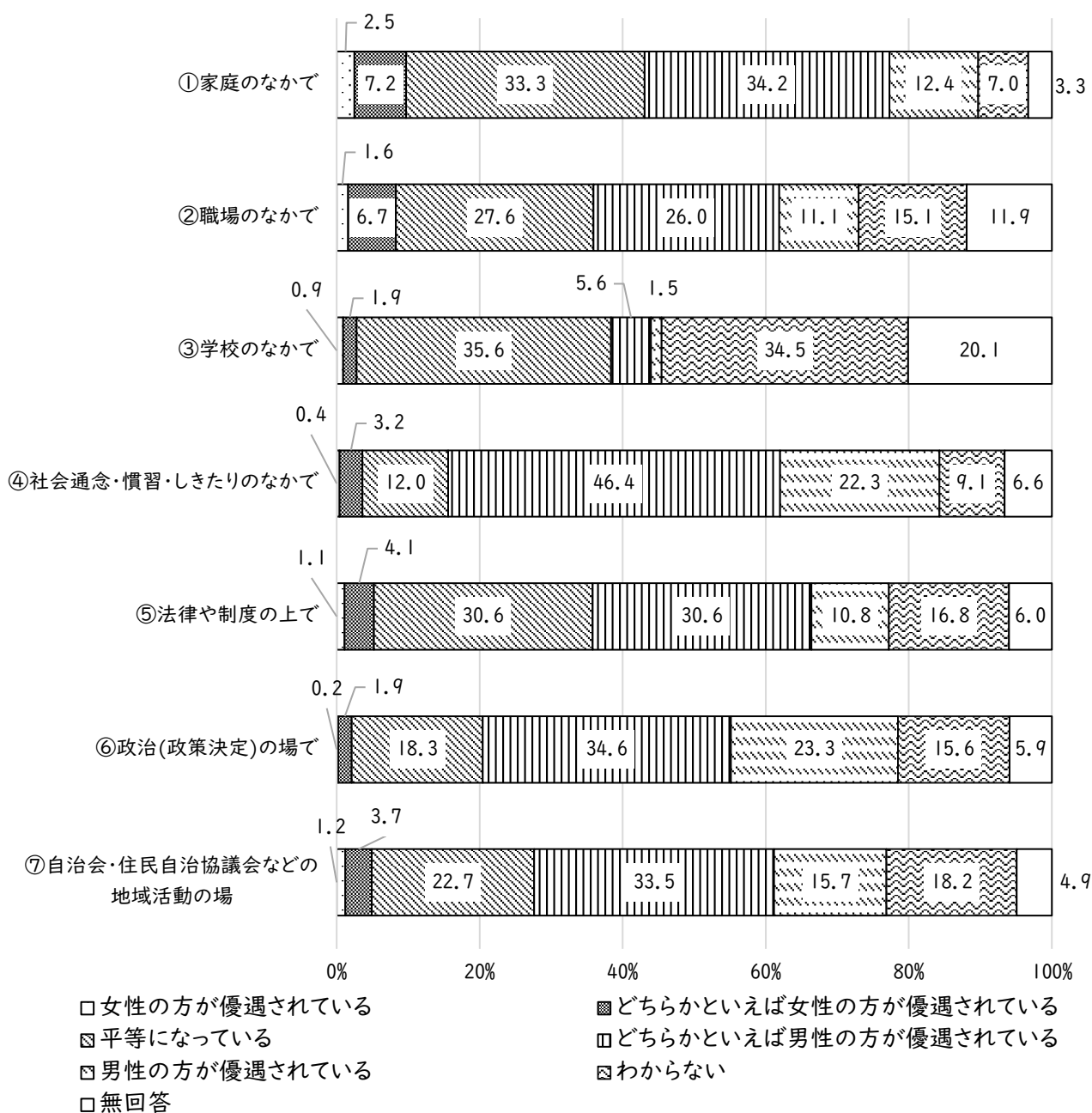


問 1.性別(自認している性別)で、「無回答」0.5%(5 人)は除いています。

2.男女平等について

問8 あなたは、次にあげる分野において男女の地位が平等になっていると思いますか。①～⑦の項目について、あてはまる回答の数字に1つだけ○をつけてください。

男女の地位の平等について聞いたところ、「男性の方が優遇されている・どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせて最も割合が高かったのは、「④社会通念・慣習・しきたりのなかで」68.7%、次いで「⑥政治(政策決定)の場で」57.9%、「⑦自治会・住民自治協議会などの地域活動の場」49.2%となっています。「平等になっている」で最も割合が高かったのは、「③学校のなかで」35.6%でした。



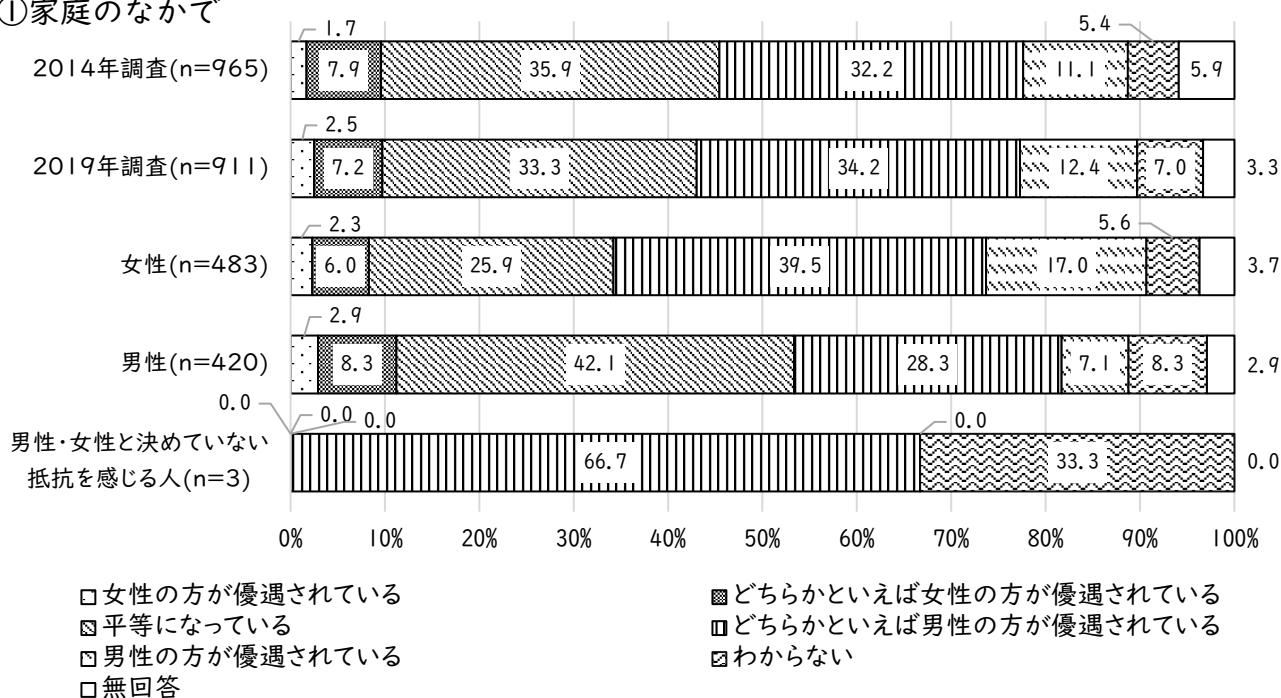
「どちらかといえば女性の方が優遇されている」「女性の方が優遇されている」を合わせる場合は、『女性の方が優遇』と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」「男性の方が優遇されている」を合わせる場合は、『男性の方が優遇』と記載します。

「①家庭のなかで」

前回調査との比較では、大きな差は見られません。

性別でみると、「平等になっている」について、女性は25.9%と男性42.1%より16.2ポイント低くなっています。

①家庭のなかで

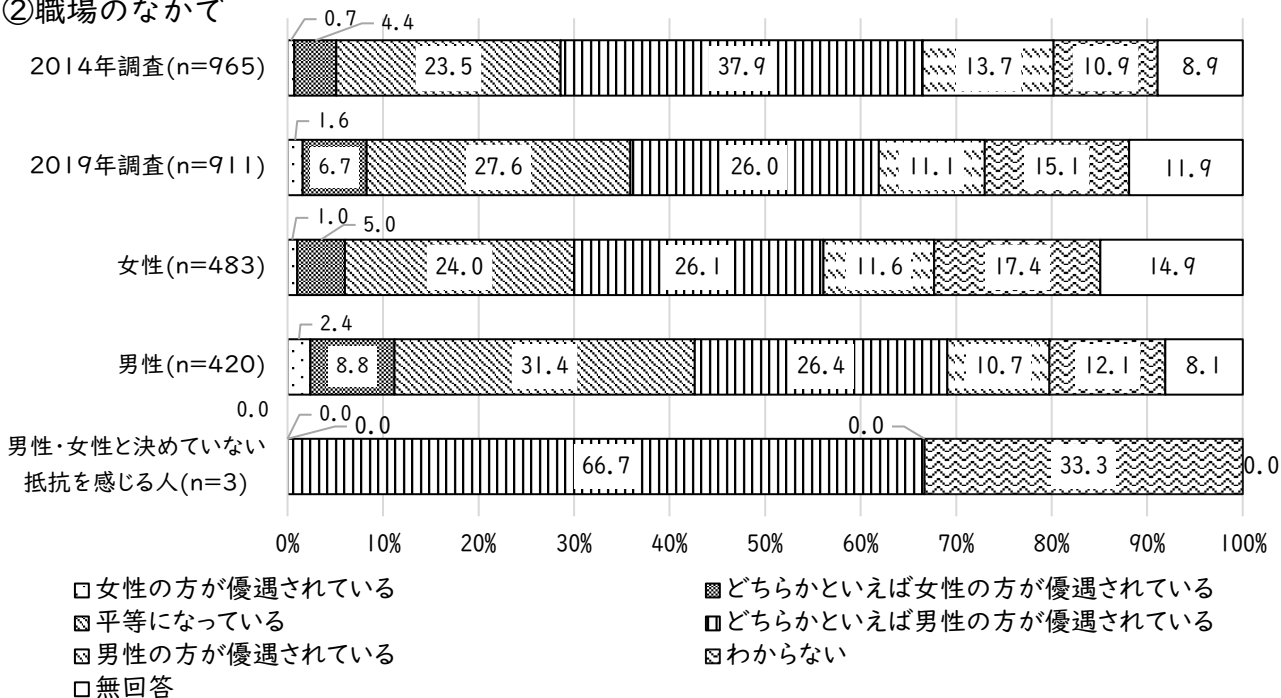


「②職場のなかで」

前回調査との比較では、『男性の方が優遇』について、2019年調査が37.1%と2014年調査51.6%より14.5ポイント低くなっています。

性別でみると、「平等になっている」について、女性は24.0%と男性31.4%より7.4ポイント低くなっています。

②職場のなかで

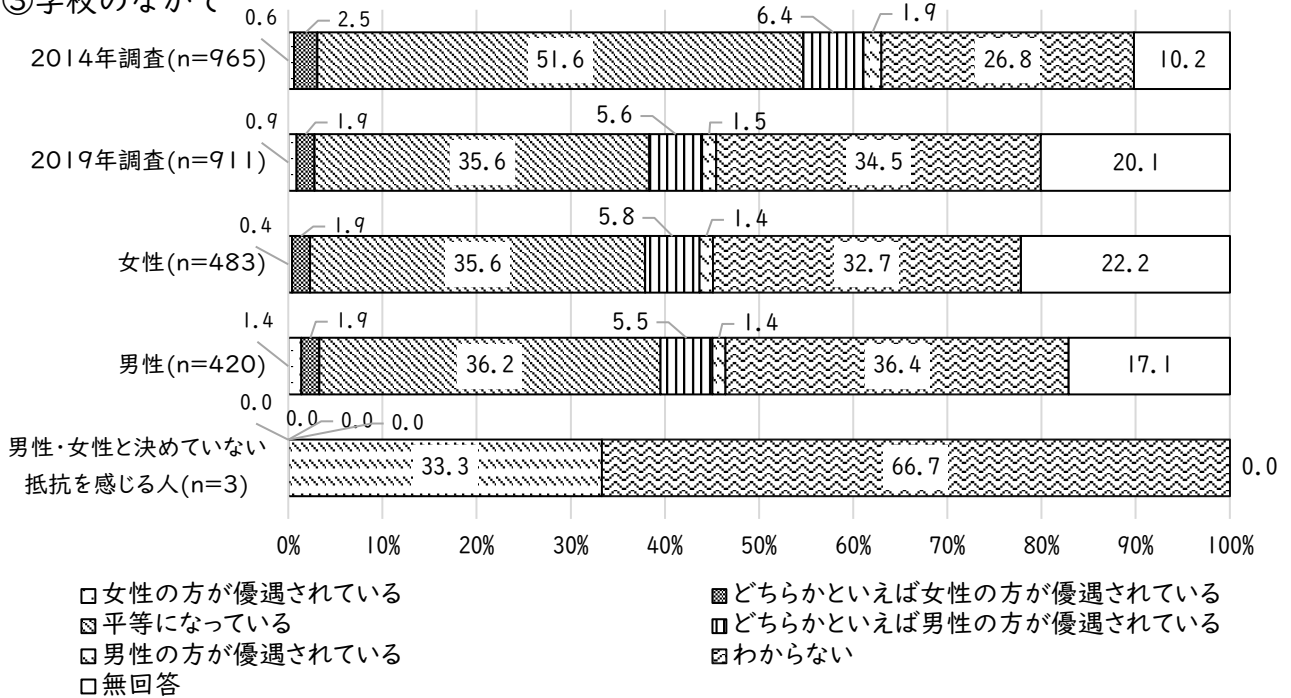


「③学校のなかで」

前回調査との比較では、「平等になっている」について、2019 年調査が 35.6%と 2014 年調査 51.6%より 16.0 ポイント低くなっています。

性別でみると、大きな差は見られません

③学校のなかで

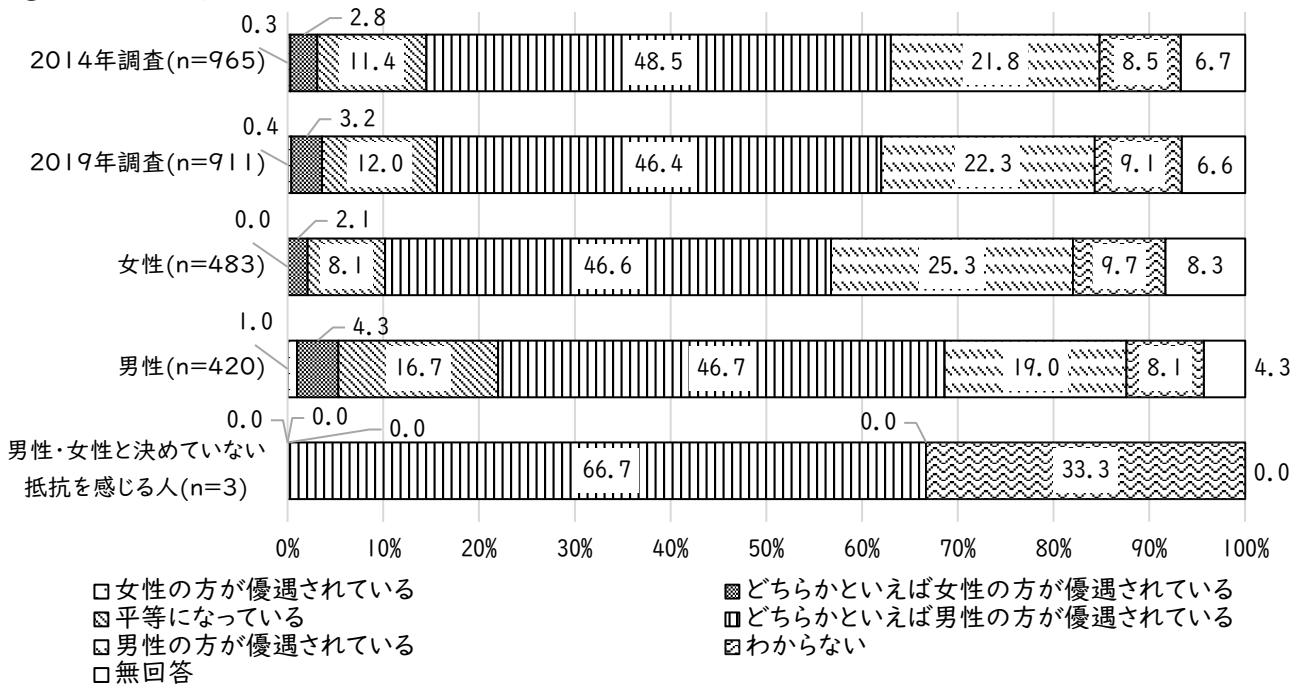


「④社会通念・慣習・しきたりのなかで」

前回調査との比較では、大きな差は見られません。

性別でみると、『男性の方が優遇』について、女性は71.9%と男性65.0%より6.9ポイント高くなっています。

④社会通念・慣習・しきたりのなかで

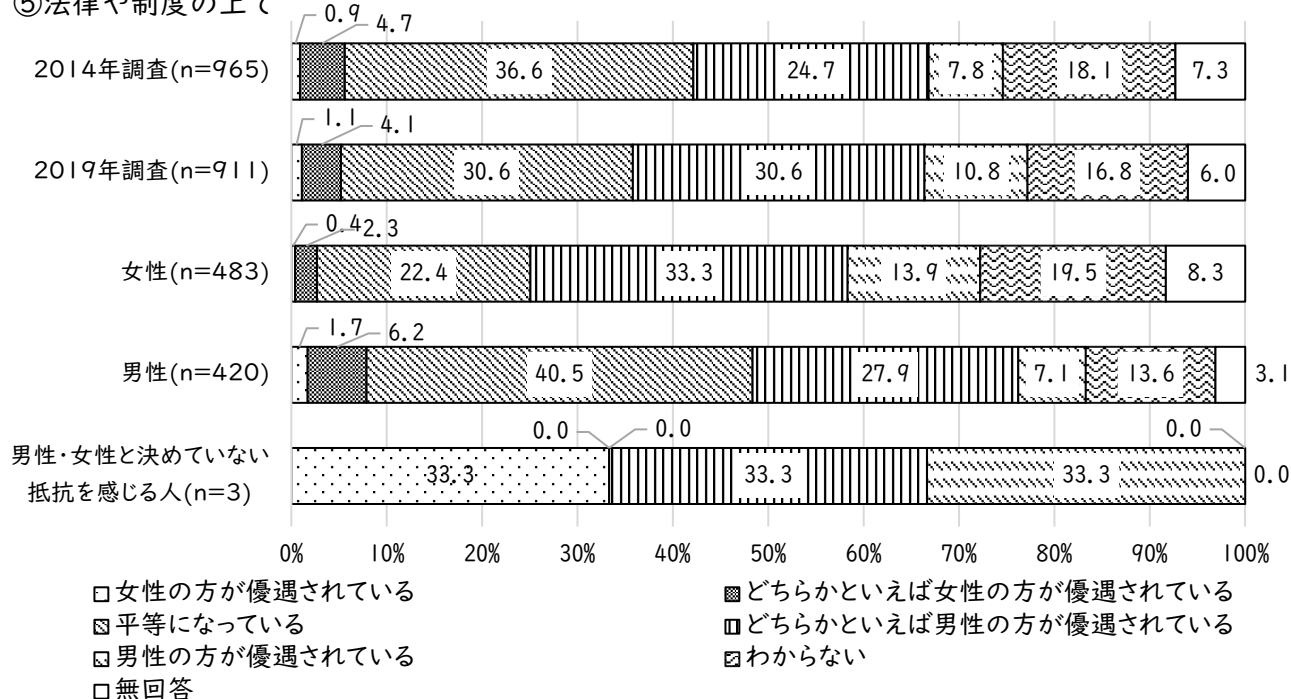


「⑤法律や制度の上で」

前回調査との比較では、『男性の方が優遇』について、2019 年調査が 41.4%と 2014 年調査 32.5%より 8.9 ポイント高くなっています。

性別でみると、「平等になっている」について、女性は 22.4%と男性 40.5%より 18.1 ポイント低くなっています。

⑤法律や制度の上で

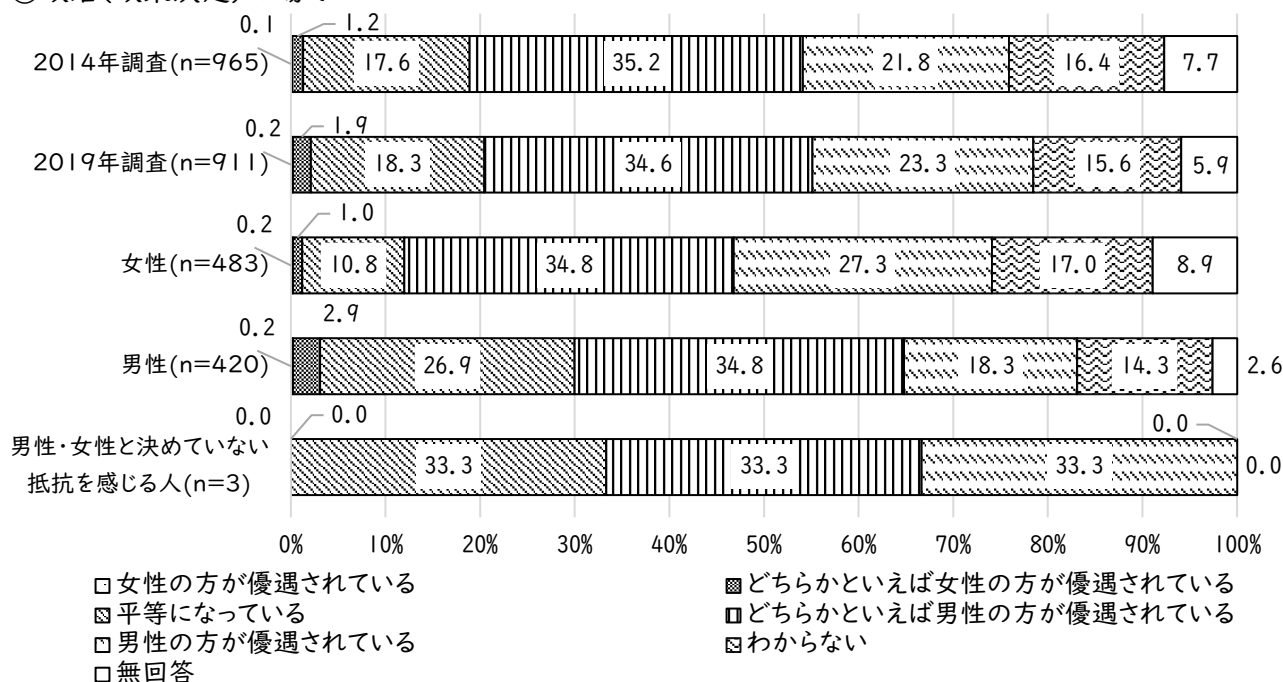


「⑥政治(政策決定)の場で」

前回調査との比較では、大きな差は見られません。

性別でみると、「平等になっている」について、女性は 10.8%と男性 26.9%より 16.1 ポイント低くなっています。

⑥政治(政策決定)の場で

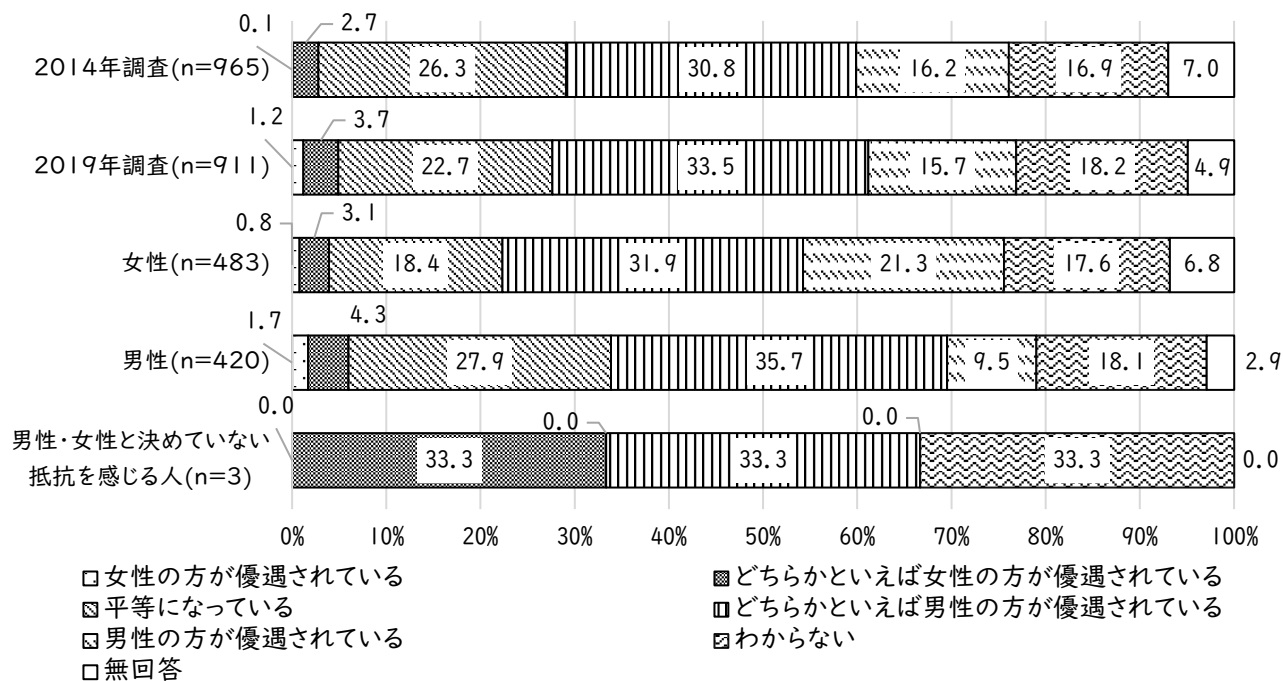


「⑦自治会・住民自治協議会などの地域活動の場で」

前回調査との比較では、大きな差は見られません。

性別でみると、「平等になっている」について、女性は18.4%と男性27.9%より9.5ポイント高くなっています。

⑦自治会・住民自治協議会などの地域活動の場で

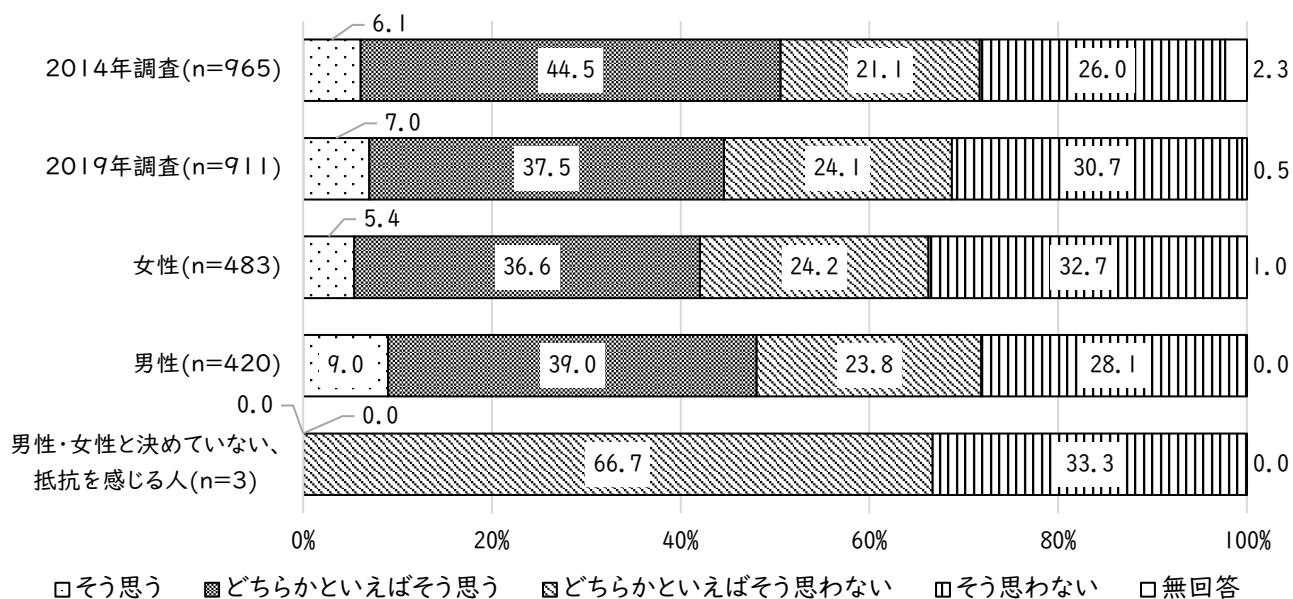


問9 「男は仕事、女は家庭・育児・介護」という考え方がありますが、あなたはと思いますか。

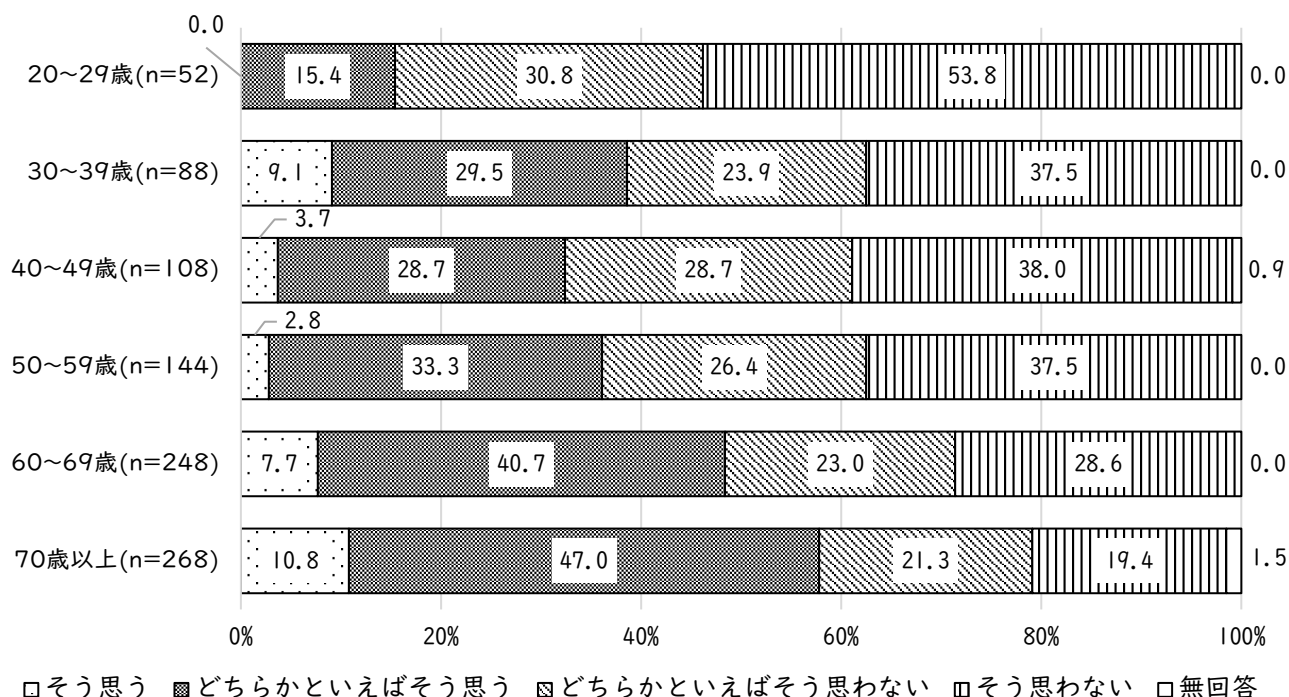
「男は仕事、女は家庭・育児・介護」という考え方については、全体では「そう思う・どちらかといえばそう思う」と性別役割分担に肯定的な人は 44.5%、「そう思わない・どちらかといえばそう思わない」と性別役割分担に否定的な人は 54.8%と、否定的な人が肯定的な人に比べて 10.3 ポイント高くなっています。

前回調査との比較では「そう思わない・どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合について、2019 年調査が 54.8%と 2014 年調査 47.1%より 7.7 ポイント高くなっています。

性別による大きな差は見られません。



年齢別では、20 歳代は「そう思わない・どちらかといえばそう思わない」と性別役割分担に否定的な人が 8 割を超えています。一方年齢が上がるにつれて「そう思う・どちらかといえばそう思う」と性別役割分担に肯定的な人の割合が高くなる傾向があり、特に 70 歳以上の人は、5 割を超えています。



性別・年齢別でみると、男性の20歳代から50歳代と女性の20歳代から60歳代は、「そう思わない・どちらかといえばそう思わない」と性別役割分担に否定的な人が、「そう思う・どちらかといえばそう思う」と肯定的な人を上回っています。特に、女性の20歳代は、否定的な人が100%となっています。

		そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
全体		7.0%	37.5%	24.1%	30.7%
女性(n=483)	20～29歳	0.0%	0.0%	36.0%	64.0%
	30～39歳	4.2%	31.3%	22.9%	41.7%
	40～49歳	0.0%	26.3%	31.6%	40.4%
	50～59歳	3.4%	33.3%	26.4%	36.8%
	60～69歳	4.5%	42.9%	19.5%	33.1%
	70歳以上	11.3%	45.9%	22.6%	17.3%
男性(n=420)	20～29歳	0.0%	29.6%	25.9%	44.4%
	30～39歳	15.4%	28.2%	23.1%	33.3%
	40～49歳	7.8%	31.4%	25.5%	35.3%
	50～59歳	1.8%	33.9%	26.8%	37.5%
	60～69歳	11.4%	38.6%	27.2%	22.8%
	70歳以上	10.7%	48.9%	19.1%	21.4%
男性・女性決めている、抵抗を感じる人(n=3)	20～29歳	-	-	-	-
	30～39歳	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
	40～49歳	-	-	-	-
	50～59歳	-	-	-	-
	60～69歳	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	70歳以上	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%

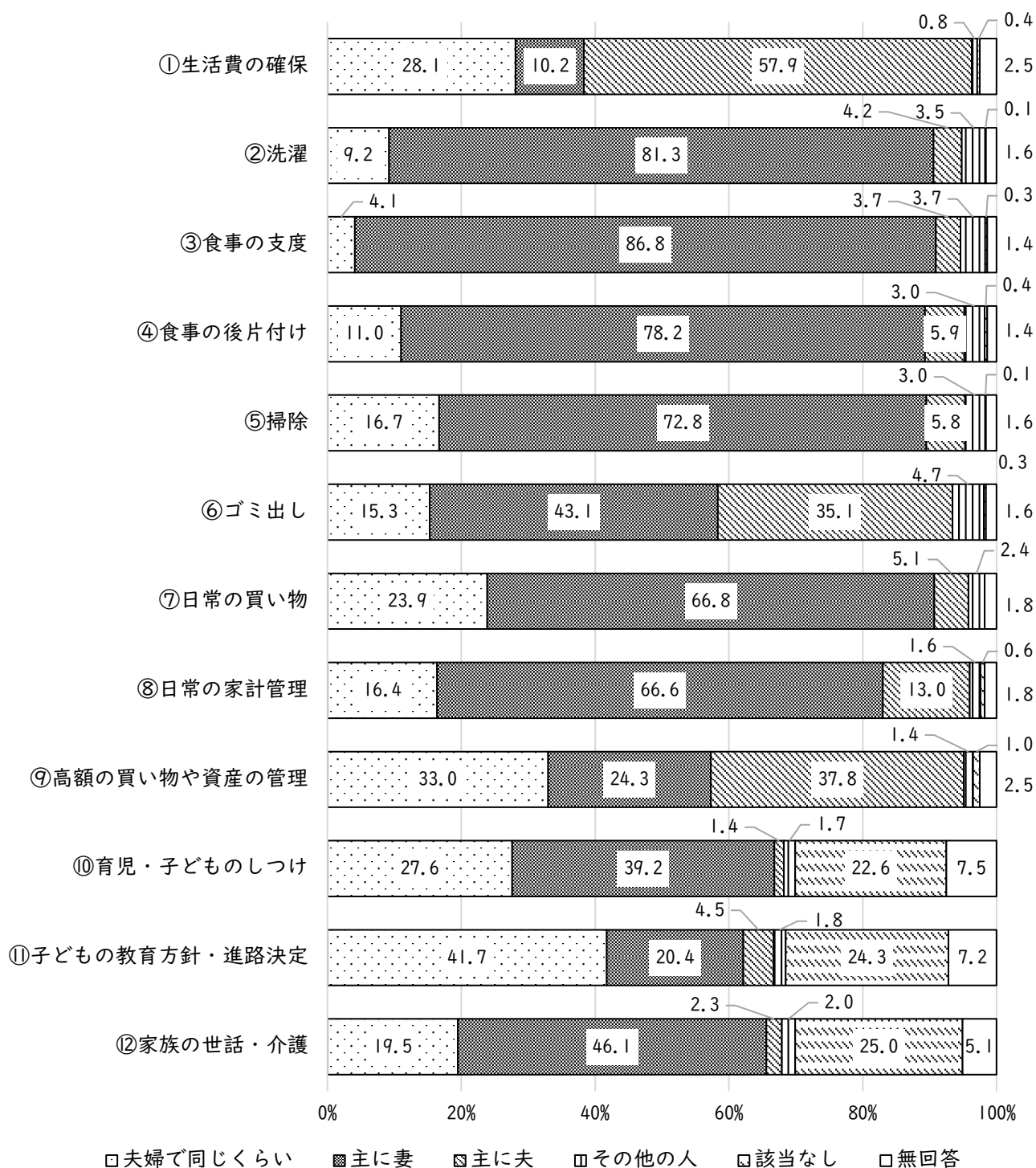
性別・結婚の有無でみると、結婚している人は、結婚していない人より性別役割分担に肯定的な人の割合が高くなっています。また、男性の結婚している人は「そう思う・どちらかといえばそう思う」と性別役割分担に肯定的な人が5割を超えています。

		そう思う	どちらかといえ ばそう思う	どちらかといえ ばそう思わない	そう思わない
全体		7.0%	37.5%	24.1%	30.7%
女性 (n=483)	結婚している	4.5%	38.6%	24.5%	31.6%
	結婚していたが、現在は夫・妻はいない	14.8%	34.4%	21.3%	26.2%
	結婚していない	0.0%	23.9%	26.1%	50.0%
男性 (n=420)	結婚している	9.5%	43.1%	20.5%	26.9%
	結婚していたが、現在は夫・妻はいない	14.8%	33.3%	25.9%	25.9%
	結婚していない	4.7%	20.3%	39.1%	35.9%
男性・女性決めている、抵抗を感じる人(n=3)	結婚している	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
	結婚していたが、現在は夫・妻はいない	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%
	結婚していない	-	-	-	-

3.家庭生活について

問10 問5で「1.結婚をしている(事実婚含む)」に○印をつけた方におたずねします。あなたの家庭では、次にあげる家庭の中での仕事は、現在だれが行っていますか。(n=707)

結婚している(事実婚含む)に○印をつけた707人(女性376人、男性327人、男性・女性と決めている、抵抗を感じる人1人、性別無回答3人)に、家庭生活での仕事分担について聞いています。「主に妻」で割合が高かったのは、「②洗濯」「③食事の支度」がそれぞれ8割を超えており、「④食事の後片付け」「⑤掃除」は7割を超えています。一方、「主に夫」で最も割合が高かったのは、「①生活費の確保」57.9%と6割近くとなっています。

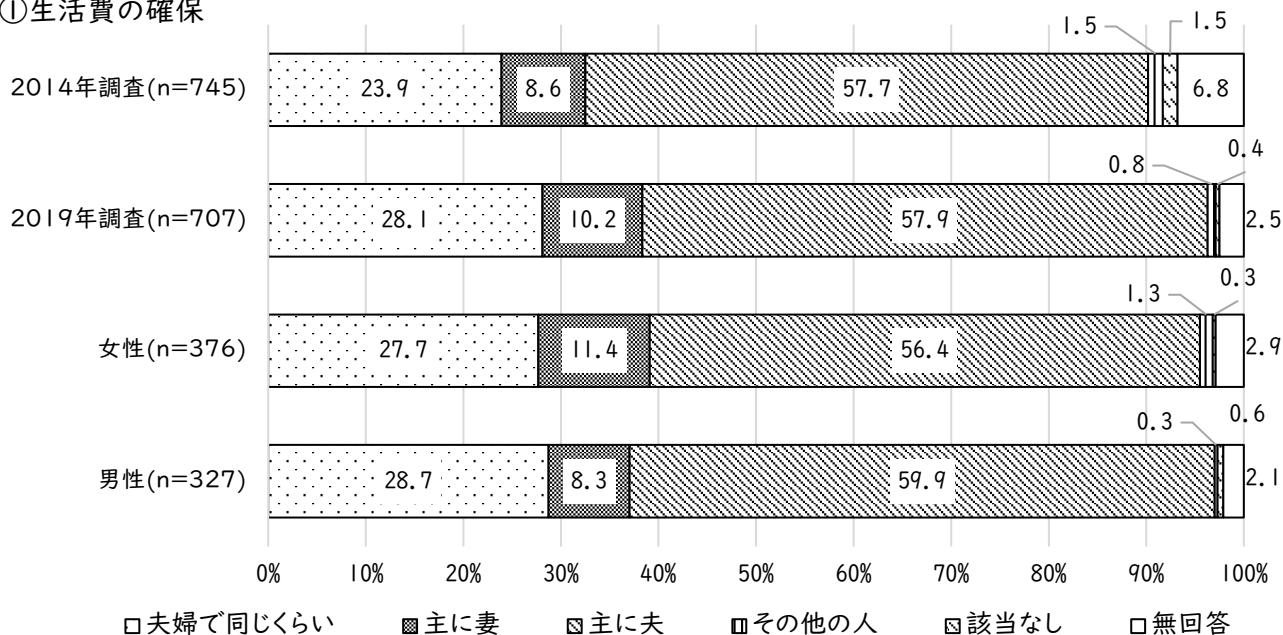


「①生活費の確保」

前回調査との比較では、「夫婦で同じくらい」について、2019 年調査が 28.1%と 2014 年調査 23.9%より 4.2 ポイント高くなっています。

性別でみると、「主に妻」について、女性は 11.4%と男性 8.3%より 3.1 ポイント高くなっています。

①生活費の確保

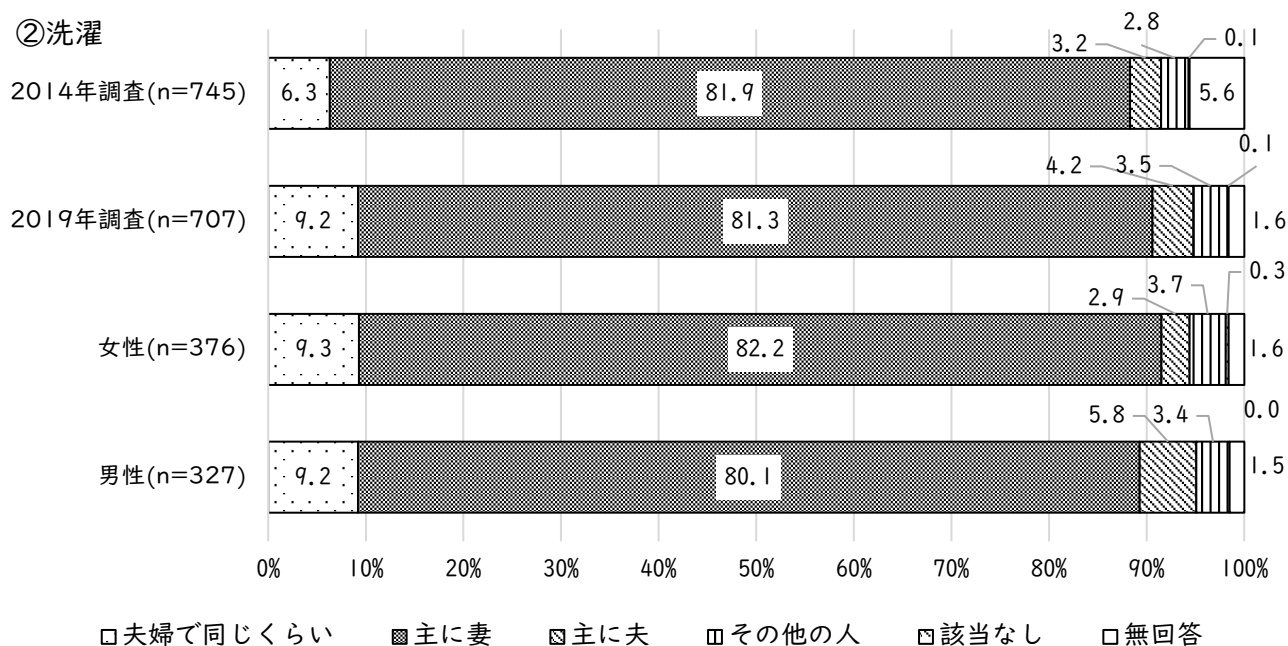


「②洗濯」

前回調査との比較では、「夫婦で同じくらい」について、2019 年調査が 9.2%と 2014 年調査 6.3%より 2.9 ポイント高くなっています。

性別でみると、「主に夫」について、女性は 2.9%と男性 5.8%より 2.9 ポイント低くなっています。

②洗濯

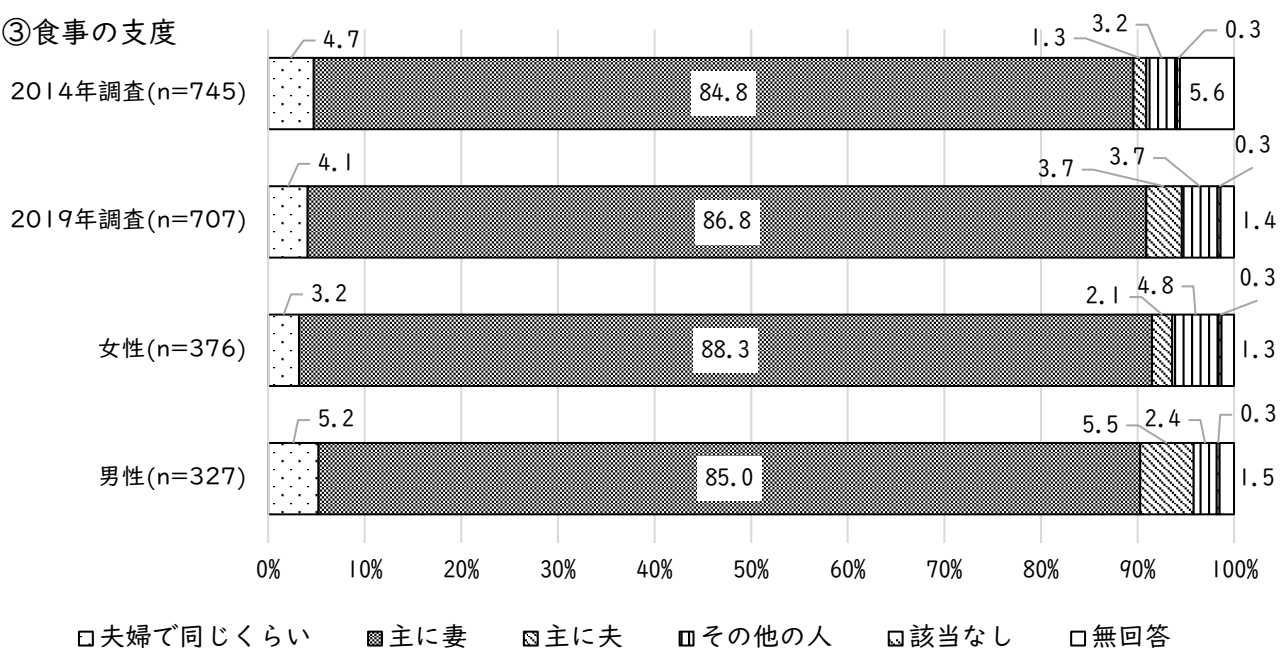


「③食事の支度」

前回調査との比較では、大きな差は見られません。

性別でみると、大きな差は見られません。

③食事の支度

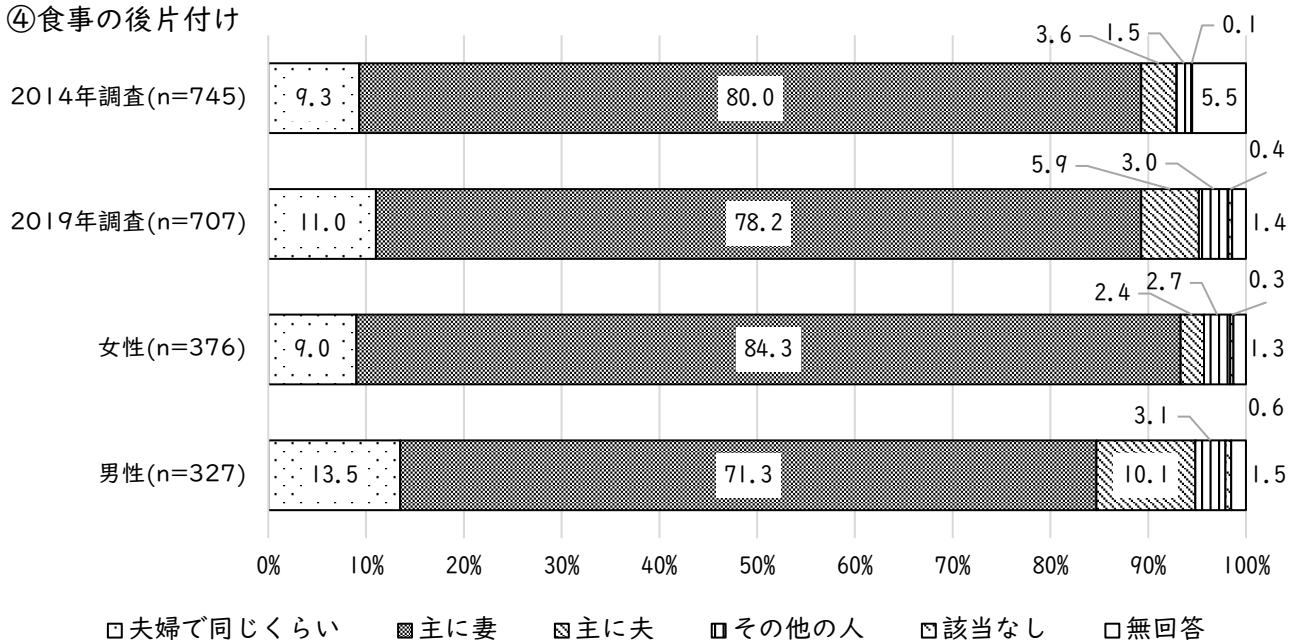


「④掃除」

前回調査との比較では、大きな差は見られません。

性別でみると、「主に妻」について、女性は84.3%と男性71.3%より13.0ポイント高くなっています。

④食事の後片付け

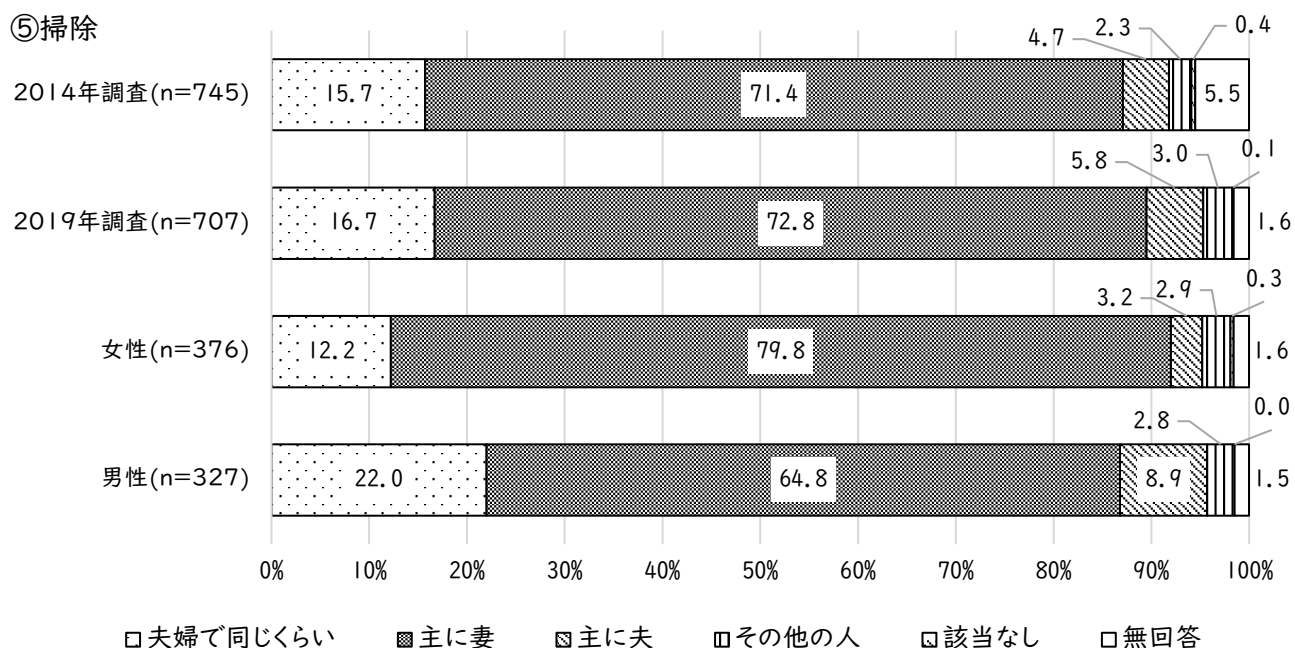


「⑤掃除」

前回調査との比較では、大きな差は見られません。

性別でみると、「夫婦で同じくらい」について、女性 12.2%と男性 22.0%より 9.8 ポイント低くなっています。

⑤掃除

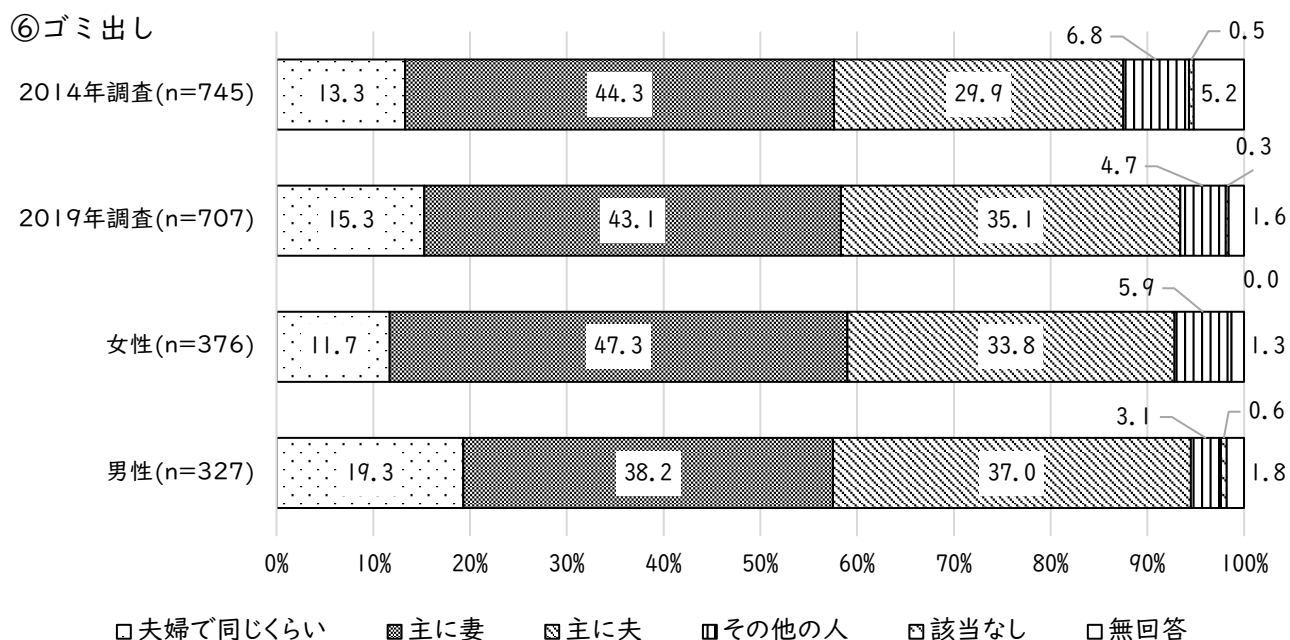


「⑥ゴミ出し」

前回調査との比較では、大きな差は見られません。

性別でみると、「主に妻」について、女性は 47.3%と男性 38.2%より 9.1 ポイント高くなっています。

⑥ゴミ出し

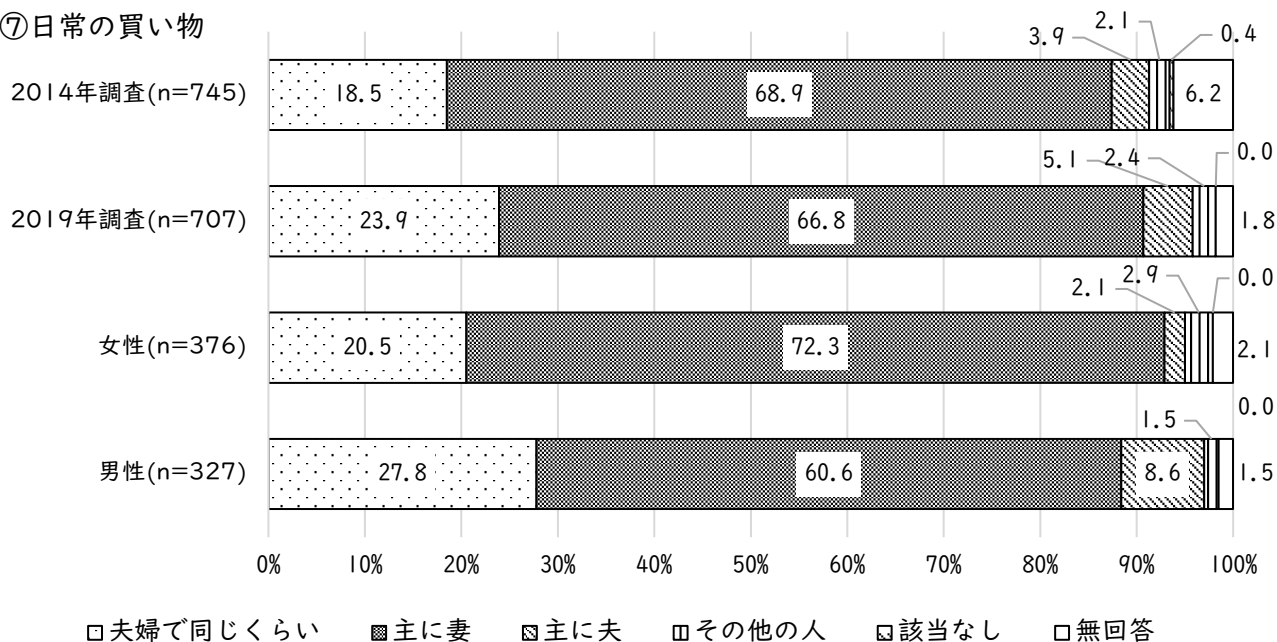


「⑦日常の買い物」

前回調査との比較では、「夫婦で同じくらい」について、2019 年調査が 23.9%と 2014 年調査 18.5%より 5.4 ポイント高くなっています。

性別でみると、「夫婦で同じくらい」について、女性は 20.5%と男性 27.8%より 7.3 ポイント低くなっています。

⑦日常の買い物

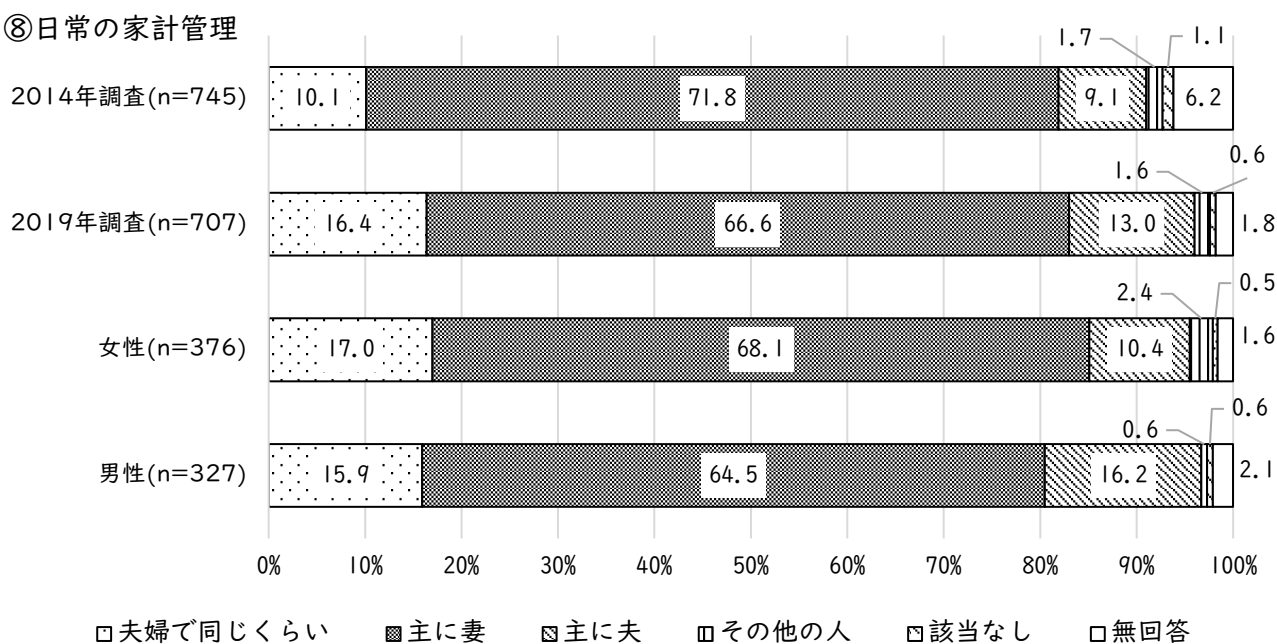


「⑧日常の家計管理」

前回調査との比較では、「夫婦で同じくらい」について、2019 年調査が 16.4%と 2014 年調査 10.1%より 6.3 ポイント高くなっています。

性別でみると、「主に夫」について、女性は 10.4%と男性 16.2%より 5.8 ポイント低くなっています。

⑧日常の家計管理

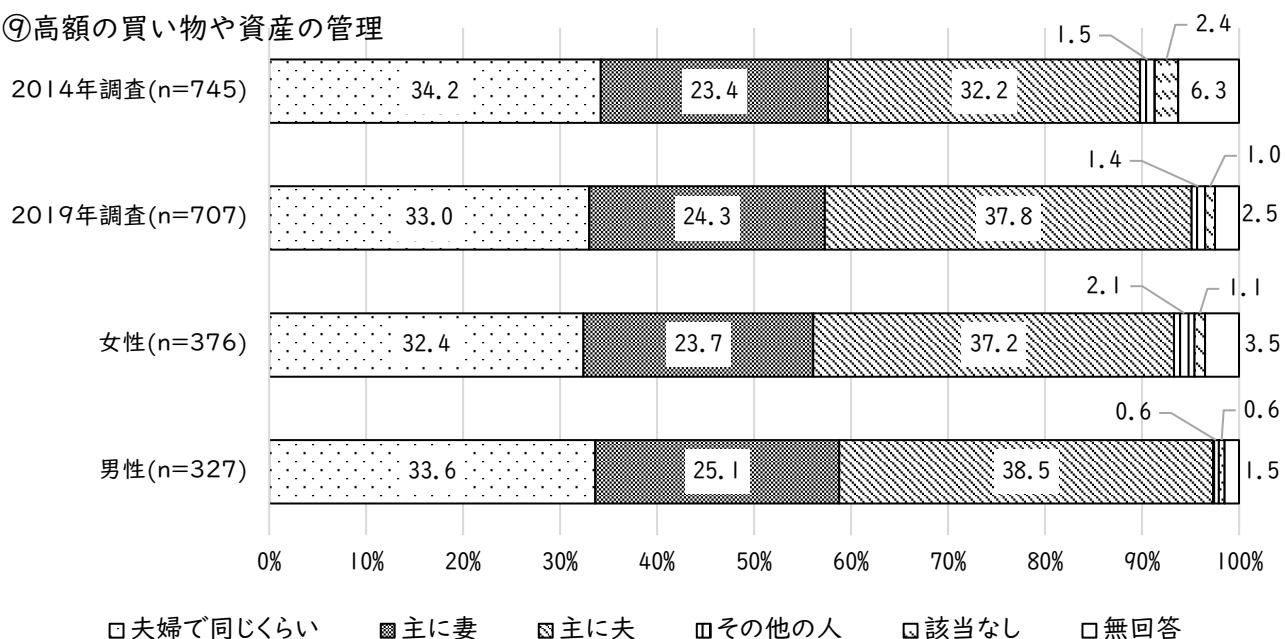


「⑨高額の買い物や資産の管理」

前回調査との比較では、「主に夫」について、2019 年調査が 37.8%と 2014 年調査 32.2%より 5.6 ポイント高くなっています。

性別でみると、大きな差は見られません。

⑨高額の買い物や資産の管理

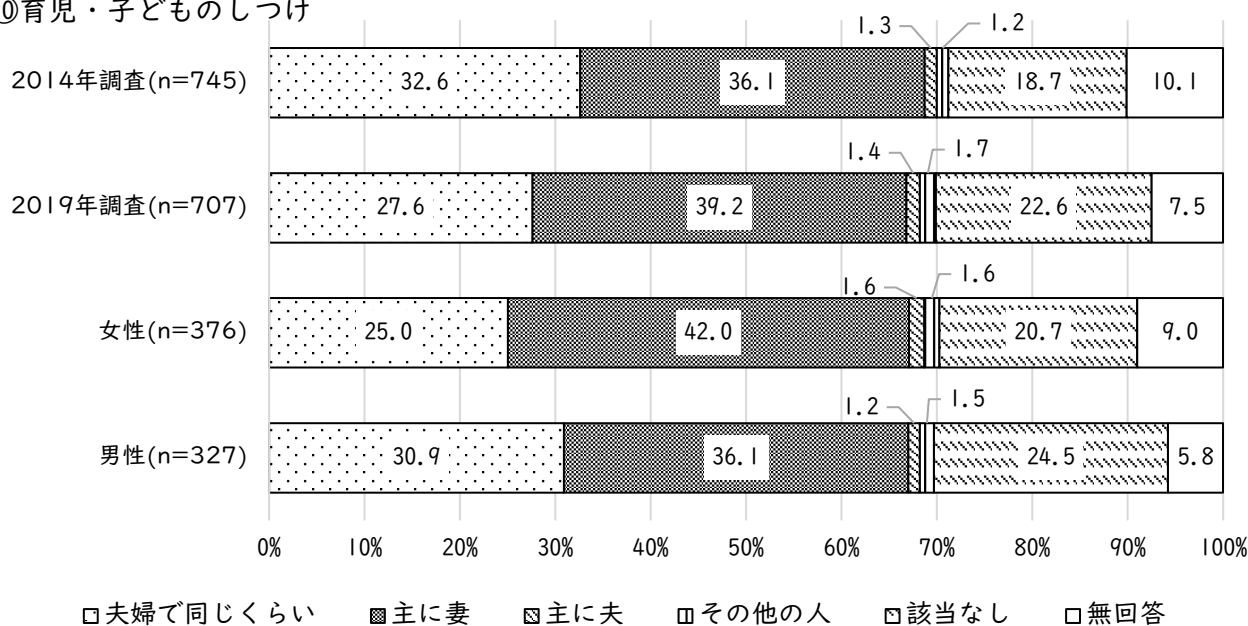


「⑩育児・子どものしつけ」

前回調査との比較では、「夫婦で同じくらい」について、2019 年調査が 27.6%と 2014 年調査 32.6%より 5.0 ポイント低くなっています。

性別でみると、「夫婦で同じくらい」について、女性は 25.0%と男性 30.9%より 5.0 ポイント低くなっています。

⑩育児・子どものしつけ

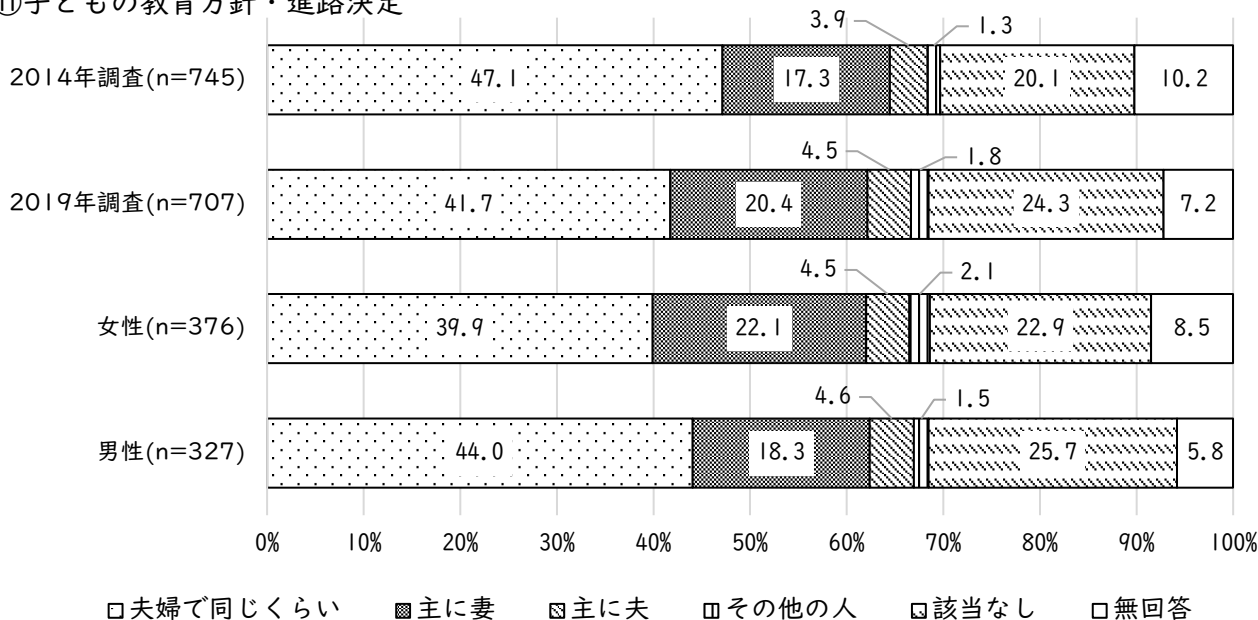


「⑪子どもの教育方針・進路決定」

前回調査との比較では、「夫婦で同じくらい」について、2019 年調査が41.7%と 2014 年調査 47.1%より 5.4 ポイント低くなっています。

性別でみると、「夫婦で同じくらい」について、女性は 39.9%と男性 44.0%より 4.1 ポイント低くなっています。

⑪子どもの教育方針・進路決定

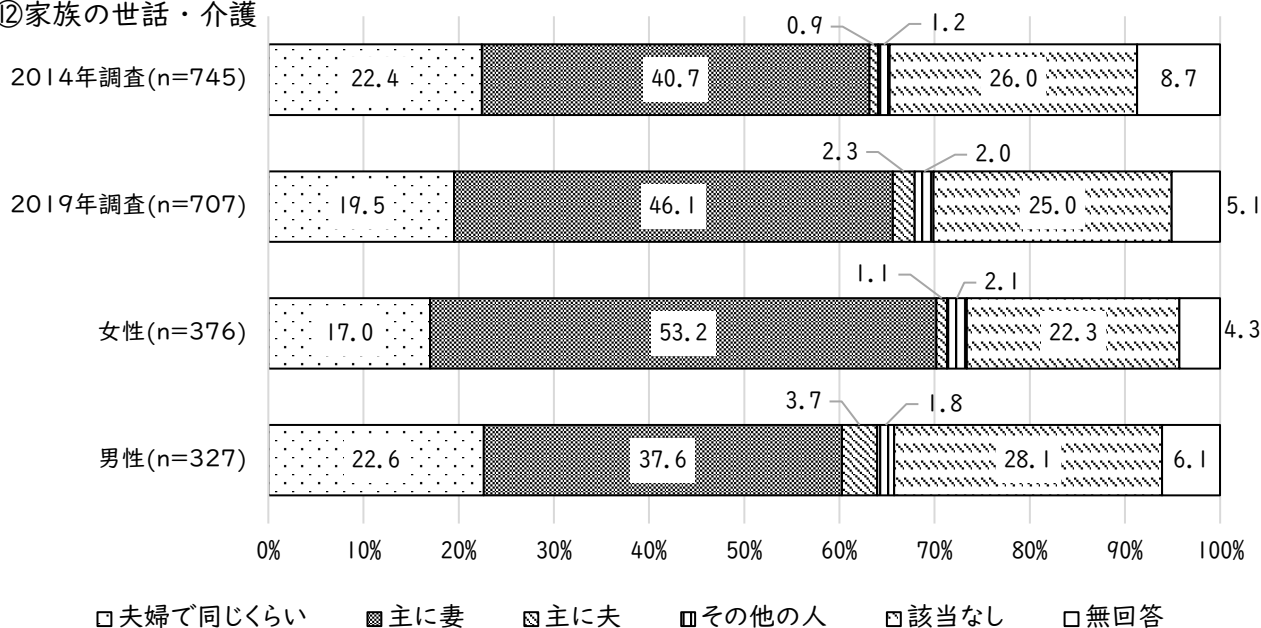


「⑫家族の世話・介護」

前回調査との比較では、「主に妻」について、2019年調査が 46.1%と 2014 年調査 40.7%より 5.4 ポイント高くなっています。

性別でみると、「主に妻」について、女性は 53.2%と男性 37.6%より、15.6 ポイント高くなっています。

⑫家族の世話・介護

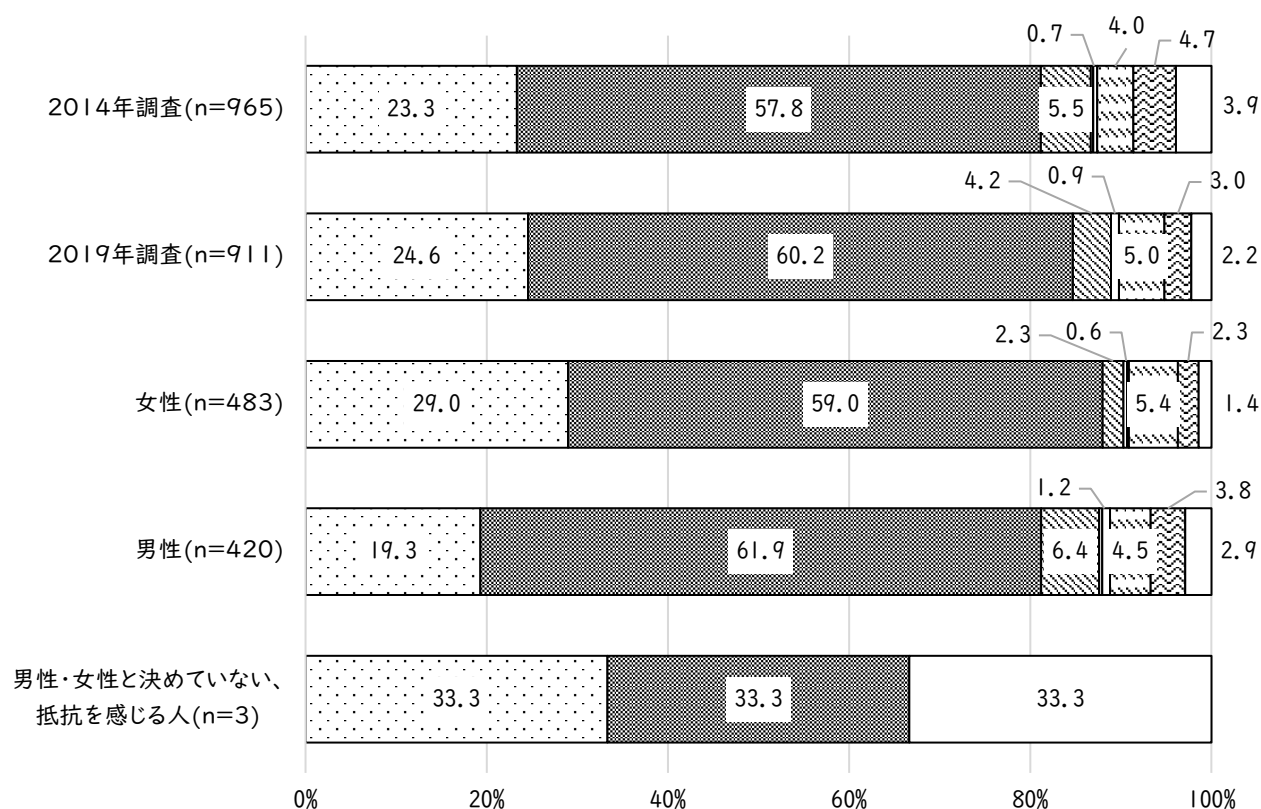


問11 あなたは、毎日の生活の中で男性が家事(炊事・洗濯・掃除)・介護・育児などをする事についてどう思いますか。

「男性が家事・介護・育児などをする事について」聞くと、全体で最も割合が高いのは「出来るだけ家事・介護・育児するほうがよい」が60.2%となっています。

前回調査との比較では、「積極的に家事・介護・育児をすべきだ」「出来るだけ家事・介護・育児するほうがよい」を合わせた割合について、2019年調査が84.8%と2014年調査81.1%より3.7ポイント高くなっています。

性別でみると、「積極的に家事・介護・育児をすべきだ」について、女性は29.0%と男性19.3%より、9.7ポイント高くなっています



□積極的に家事・介護・育児をすべきだ

■出来るだけ家事・介護・育児するほうがよい

▨なるべく家事・介護・育児をしないほうがよい

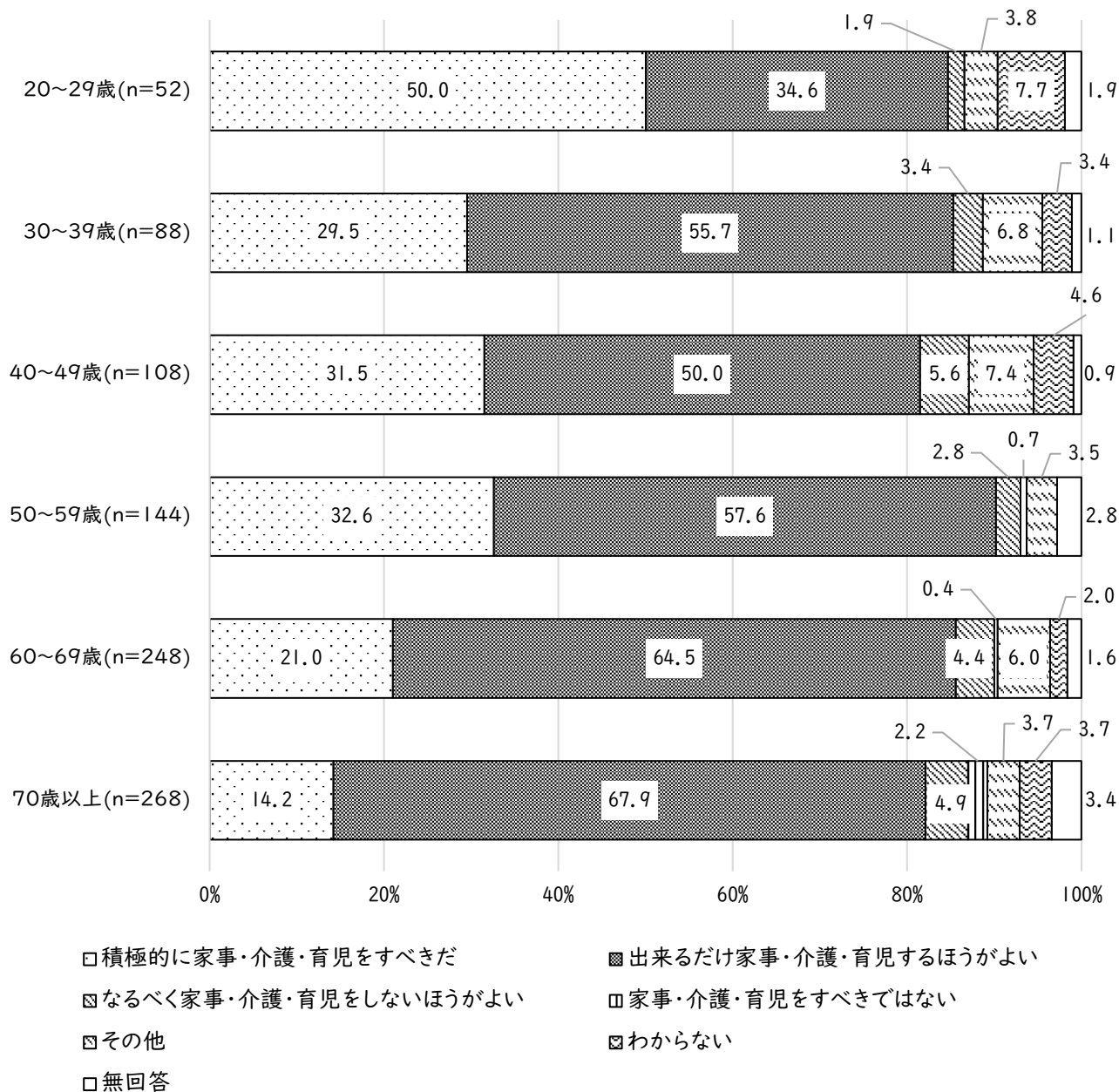
□家事・介護・育児をすべきではない

□その他

▨わからない

□無回答

年齢別では、すべての年代で「積極的に家事・介護・育児をすべきだ」「出来るだけ家事・介護・育児するほうがよい」を合わせた割合が、8割を超えています。その中でも、20歳代は「積極的に家事・介護・育児をすべきだ」が50%と、他の年代と比べ割合が高くなっています。



性別・年齢別でみると、女性の 20 歳代は「積極的にすべき」が 68.0%と高い割合になっています。男性のすべての年代、女性の 30 歳代と 50 歳代から 70 歳以上では「出来るだけするほうがよい」が 5 割を超えており、女性の 40 歳代が「積極的にすべき」と「出来るだけするほうがよい」が 42.1%と同割合となっています。

		積極的にすべき	出来るだけするほうがよい	なるべくしないほうがよい	すべきでない	その他	わからない
全体		24.6%	60.2%	4.2%	0.9%	5.0%	3.0%
女性(n=483)	20～29 歳	68.0%	16.0%	0.0%	0.0%	4.0%	8.0%
	30～39 歳	35.4%	54.2%	0.0%	0.0%	8.3%	2.1%
	40～49 歳	42.1%	42.1%	3.5%	0.0%	7.0%	5.3%
	50～59 歳	36.8%	60.9%	0.0%	0.0%	2.3%	0.0%
	60～69 歳	24.1%	60.9%	4.5%	0.8%	8.3%	0.0%
	70 歳以上	13.5%	72.9%	2.3%	1.5%	3.0%	3.8%
男性(n=420)	20～29 歳	33.3%	51.9%	3.7%	0.0%	3.7%	7.4%
	30～39 歳	23.1%	56.4%	7.7%	0.0%	5.1%	5.1%
	40～49 歳	19.6%	58.8%	7.8%	0.0%	7.8%	3.9%
	50～59 歳	26.8%	53.6%	7.1%	1.8%	3.6%	0.0%
	60～69 歳	16.7%	69.3%	4.4%	0.0%	3.5%	4.4%
	70 歳以上	14.5%	63.4%	7.6%	3.1%	4.6%	3.8%
男性・女性決めている、抵抗を感じる人(n=3)	20～29 歳	-	-	-	-	-	-
	30～39 歳	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	40～49 歳	-	-	-	-	-	-
	50～59 歳	-	-	-	-	-	-
	60～69 歳	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	70 歳以上	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

性別・子どもの有無でみると、女性の子どがいる人は、「積極的にすべき」が 47.7%、同性の子どがいなない人よりも、21.4 ポイント高くなっています。

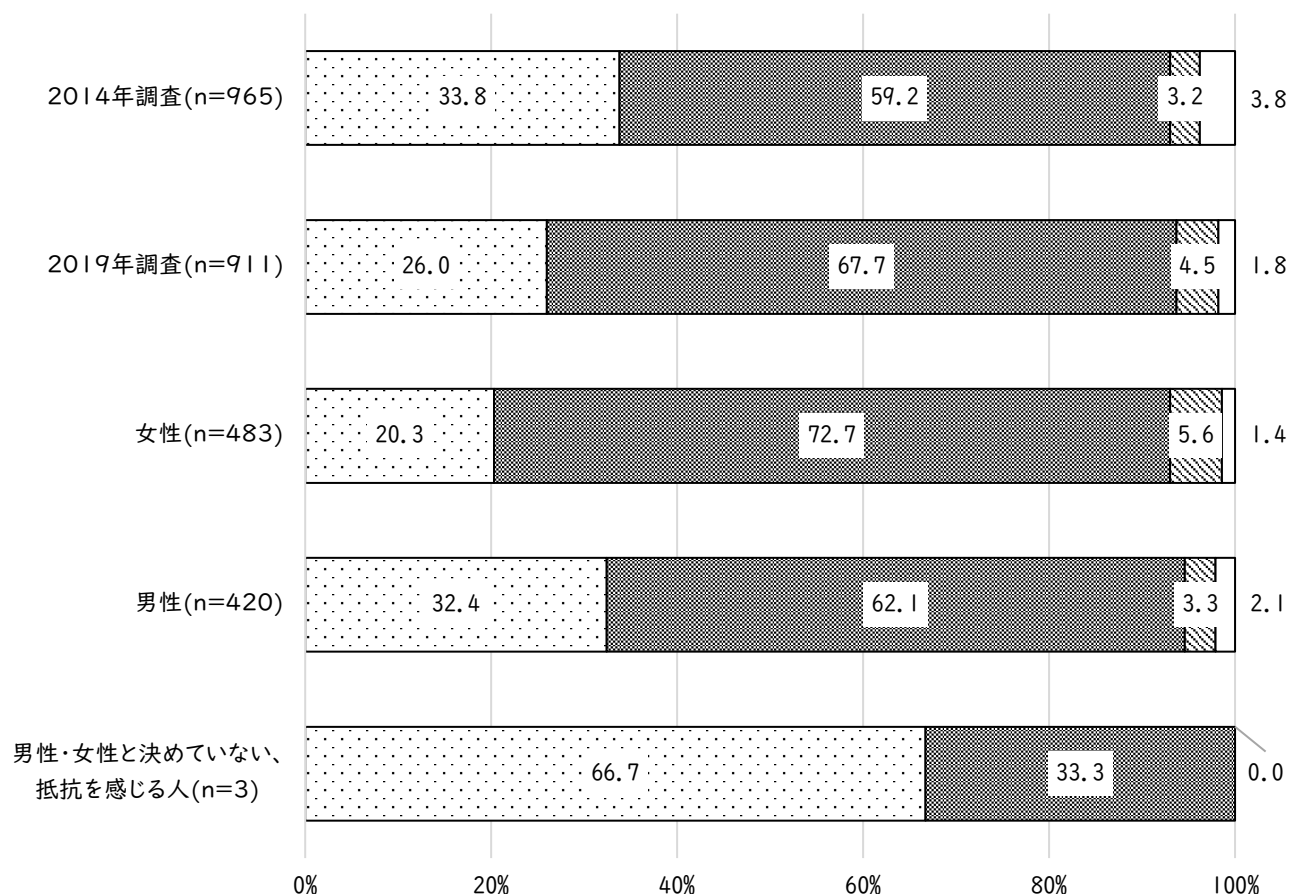
		積極的にすべき	出来るだけするほうがよい	なるべくしないほうがよい	すべきでない	その他	わからない
全体		24.6%	60.2%	4.2%	0.9%	5.0%	3.0%
女性(n=483)	子がいる	47.7%	46.2%	1.5%	0.0%	3.1%	1.5%
	子がいなない	26.3%	60.8%	2.2%	0.7%	6.0%	2.5%
男性(n=420)	子がいる	21.9%	60.9%	9.4%	0.0%	3.1%	3.1%
	子がいなない	19.9%	61.6%	6.3%	1.5%	4.8%	3.6%
男性・女性決めている、抵抗を感じる人(n=3)	子がいる	-	-	-	-	-	-
	子がいなない	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

問12 あなたは、女の子と男の子のしつけや教育についてどう思いますか。

「女の子と男の子のしつけや教育について」聞くと、全体で最も割合が高いのは「女の子も男の子も性による区別はせず、同じようにしつけや教育をする方がよい」が67.7%となっています。

前回調査との比較では、「女の子も男の子も性による区別はせず、同じようにしつけや教育をする方がよい」について、2019年調査が67.7%と2014年調査59.2%より8.5ポイント高くなっています。

性別でみると、「女の子も男の子も性による区別はせず、同じようにしつけや教育をする方がよい」について、女性は72.7%と男性62.1%より、10.6ポイント高くなっています。



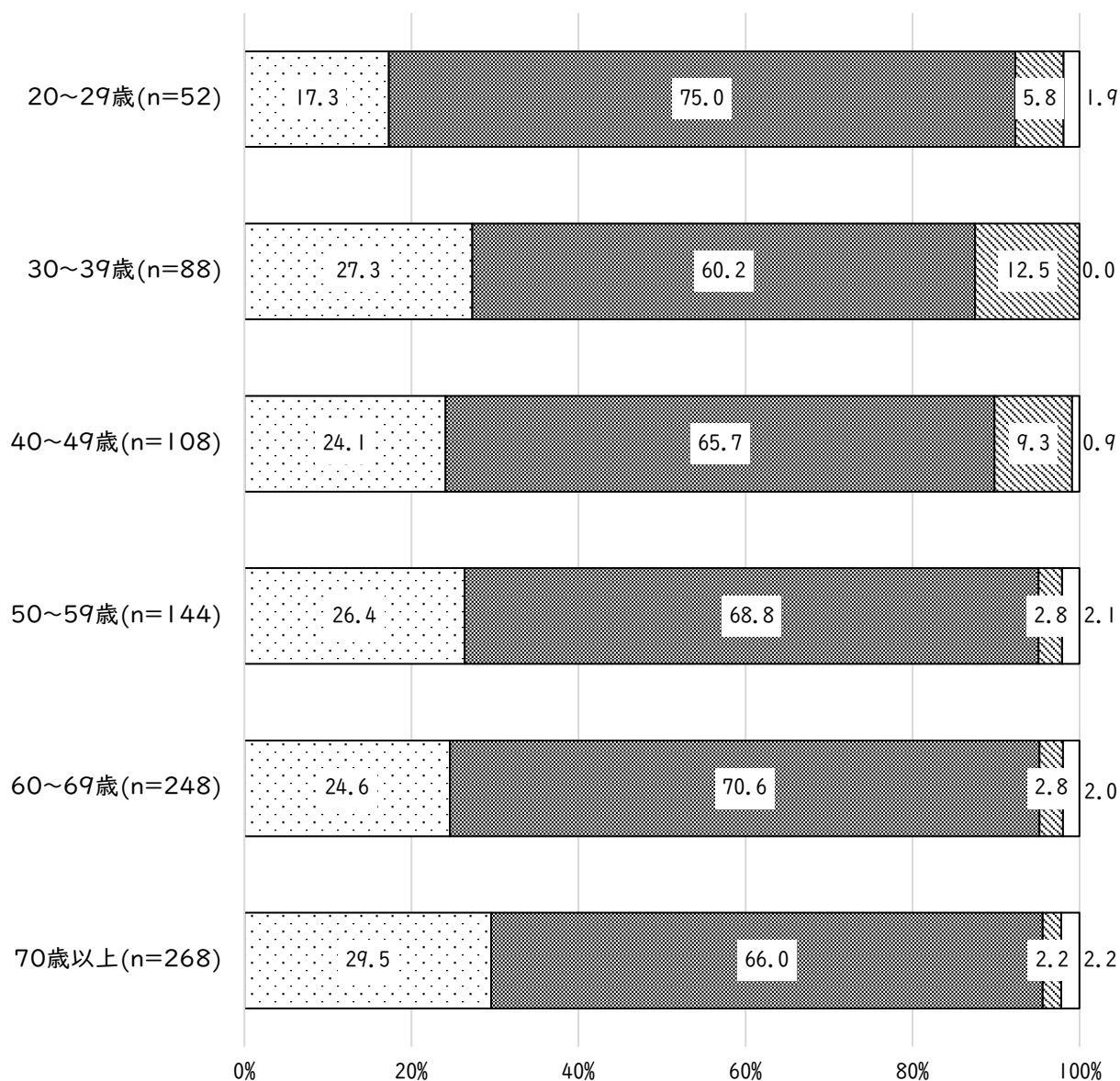
☐ 男女の役割を考え、女の子と男の子を性によって区別して、それぞれの性に応じたしつけや教育をする方がよい

☒ 女の子も男の子も性による区別はせず、同じようにしつけや教育をする方がよい

☐ その他

☐ 無回答

年齢別では、「女の子も男の子も性による区別はせず、同じようにしつけや教育をする方がよい」について、20歳代と60歳代で7割を超えています。また、「男女の役割を考え、女の子と男の子を性によって区別して、それぞれの性に応じたしつけや教育をする方がよい」について、最も割合の高い70歳以上(29.5%)と最も割合の低い20歳代(17.3%)との差は12.2ポイントありました。



- ☐ 男女の役割を考え、女の子と男の子を性によって区別して、それぞれの性に
応じたしつけや教育をする方がよい
- ☒ 女の子も男の子も性による区別はせず、同じようにしつけや教育をする方がよい
- ☐ その他
- ☐ 無回答

性別・年齢別でみると、女性のすべての年代と男性の 20 歳代では、「女の子も男の子も性による区別はせず、同じようにしつけや教育をする方がよい」が約 7 割となっています。

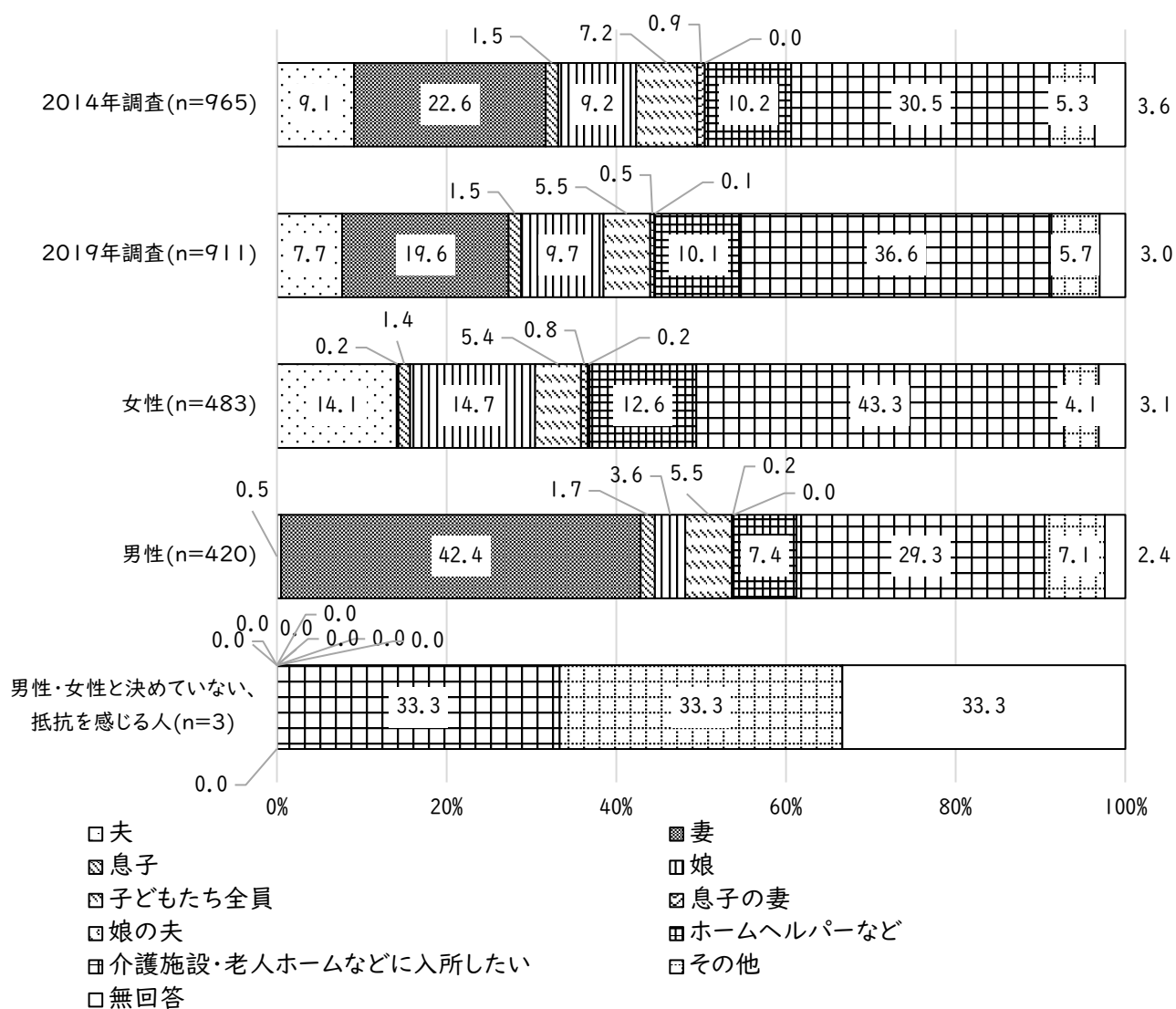
		男女の役割を考え、女の子と男の子を性によって区別して、それぞれの性に合ったしつけや教育をする方がよい	女の子も男の子も性による区別はせず、同じようにしつけや教育をする方がよい	その他
女性(n=483)	20～29 歳	12.0%	76.0%	8.0%
	30～39 歳	16.7%	68.8%	14.6%
	40～49 歳	15.8%	73.7%	10.5%
	50～59 歳	23.0%	72.4%	4.6%
	60～69 歳	18.8%	75.9%	3.8%
	70 歳以上	24.8%	69.9%	2.3%
男性(n=420)	20～29 歳	22.2%	74.1%	3.7%
	30～39 歳	38.5%	51.3%	10.3%
	40～49 歳	33.3%	56.9%	7.8%
	50～59 歳	32.1%	62.5%	0.0%
	60～69 歳	31.6%	64.0%	1.8%
	70 歳以上	33.6%	62.6%	2.3%
男性・女性決めていない、抵抗を感じる人(n=3)	20～29 歳	-	-	-
	30～39 歳	100.0%	0.0%	0.0%
	40～49 歳	-	-	-
	50～59 歳	-	-	-
	60～69 歳	0.0%	100.0%	0.0%
	70 歳以上	100.0%	0.0%	0.0%

問13 あなたは将来、主に誰に介護をしてほしいと思いますか。

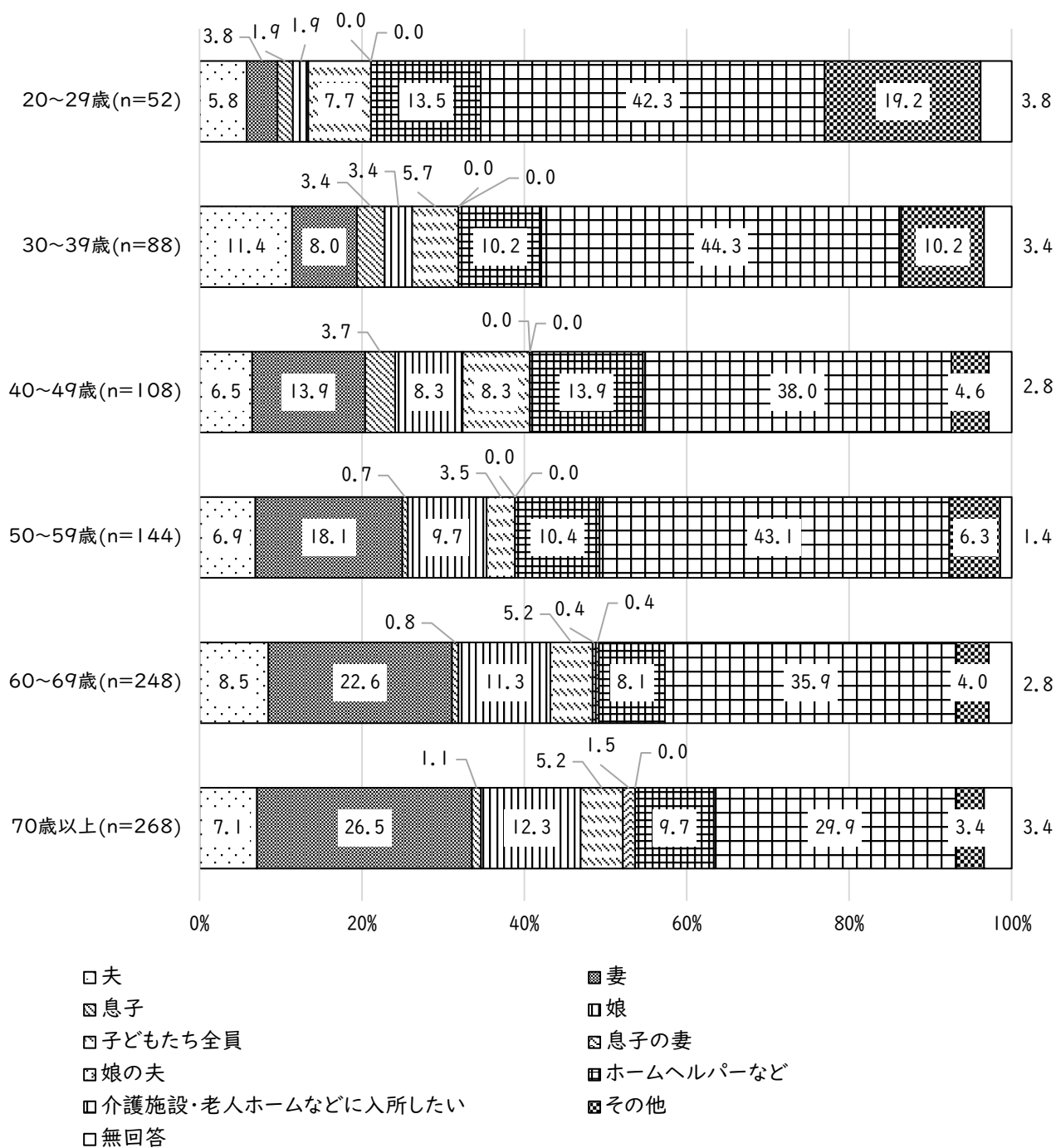
全体で最も高い割合は「介護施設・老人ホームなどに入所したい」が 36.6%、次いで「妻」が 19.6%となっています。

前回調査との比較では、「介護施設・老人ホームなどに入所したい」について、2019 年調査が 36.6%と 2014 年調査 30.5%より 6.1 ポイント高くなっています。

性別でみると、女性は「介護施設・老人ホームなどに入所したい」が 43.3%と最も割合が高く、次いで「娘」14.7%となっています。男性は「妻」が 42.4%と最も割合が高く、次いで「介護施設・老人ホームなどに入所したい」29.3%となっています。



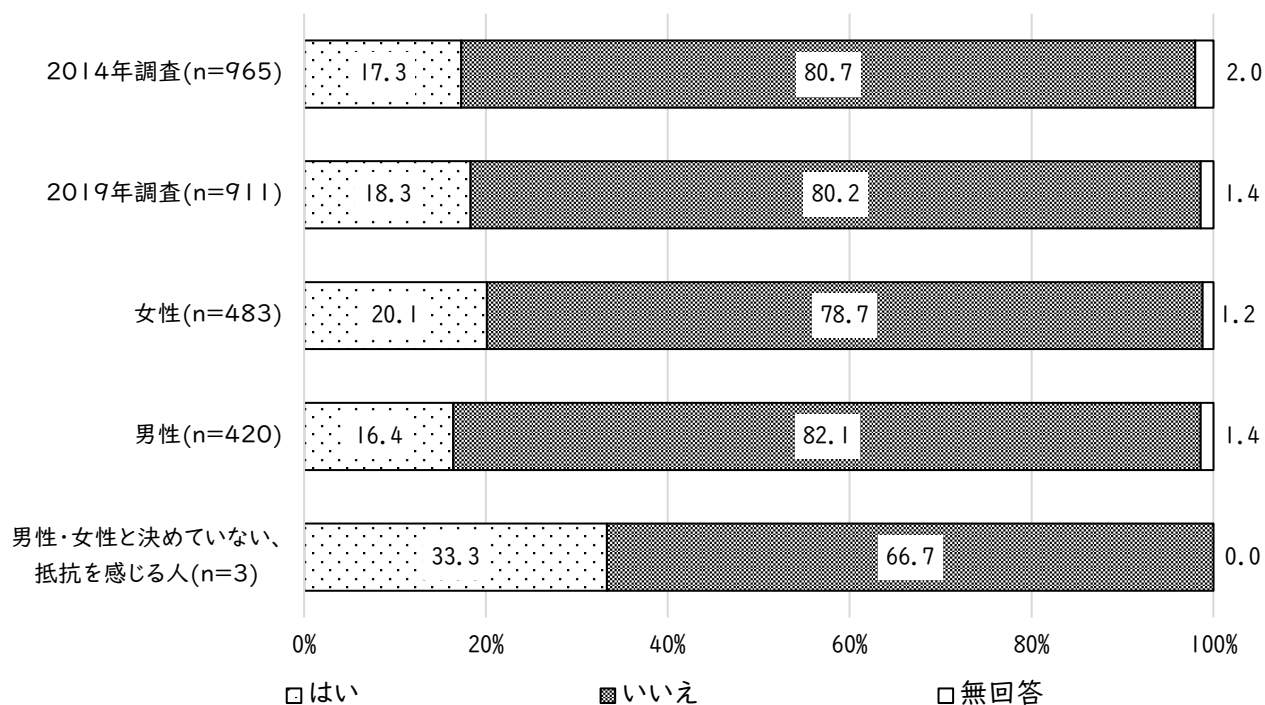
年齢別では、20 歳代、30 歳代、50 歳代では「介護施設・老人ホームなどに入所したい」が 4 割を超えています。60 歳代と 70 歳以上では「妻」が 2 割を超えています。



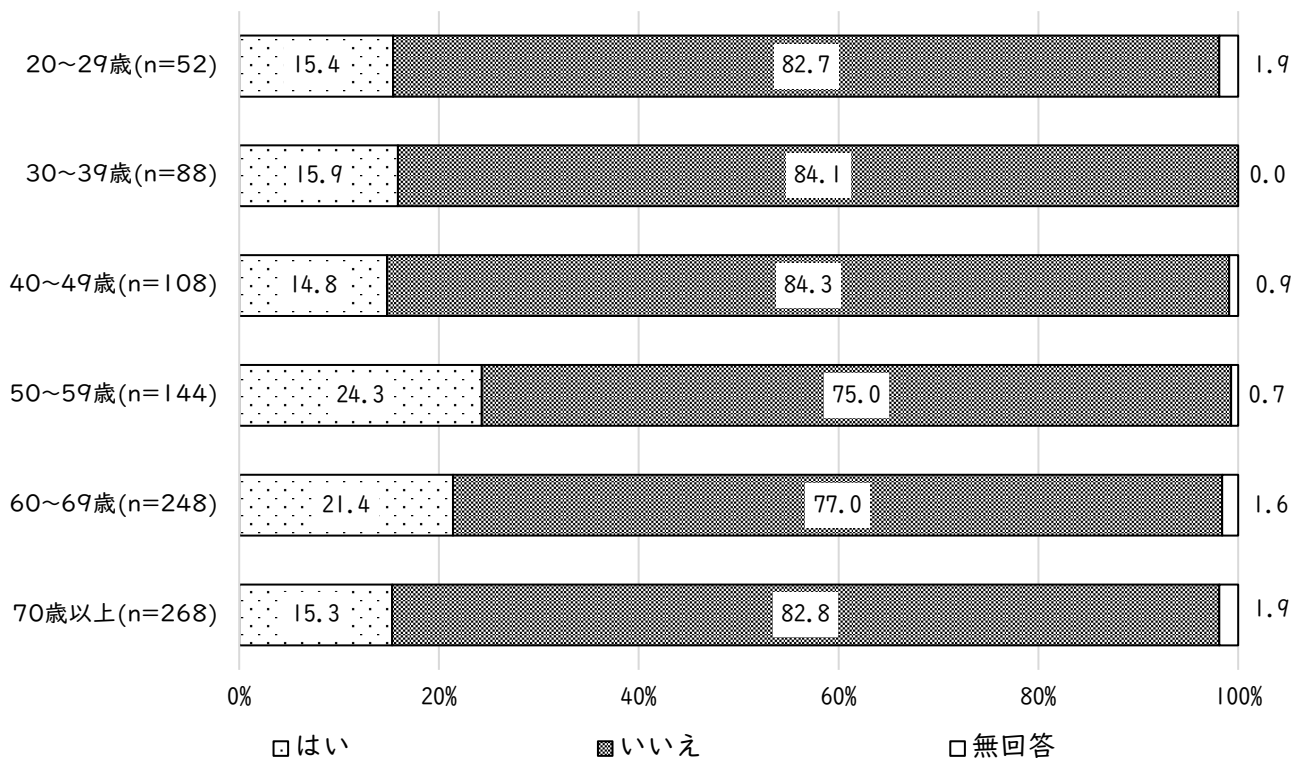
問14 あなたの家族(同居・別居に関わらず)で、常時介護の必要な方はいますか。

全体では、「はい」の割合が18.3%、「いいえ」の割合が80.2%となっています。

前回調査ならびに性別での差はありません。



年齢別では、「はい」の割合が50歳代と60歳代で2割を超えています。

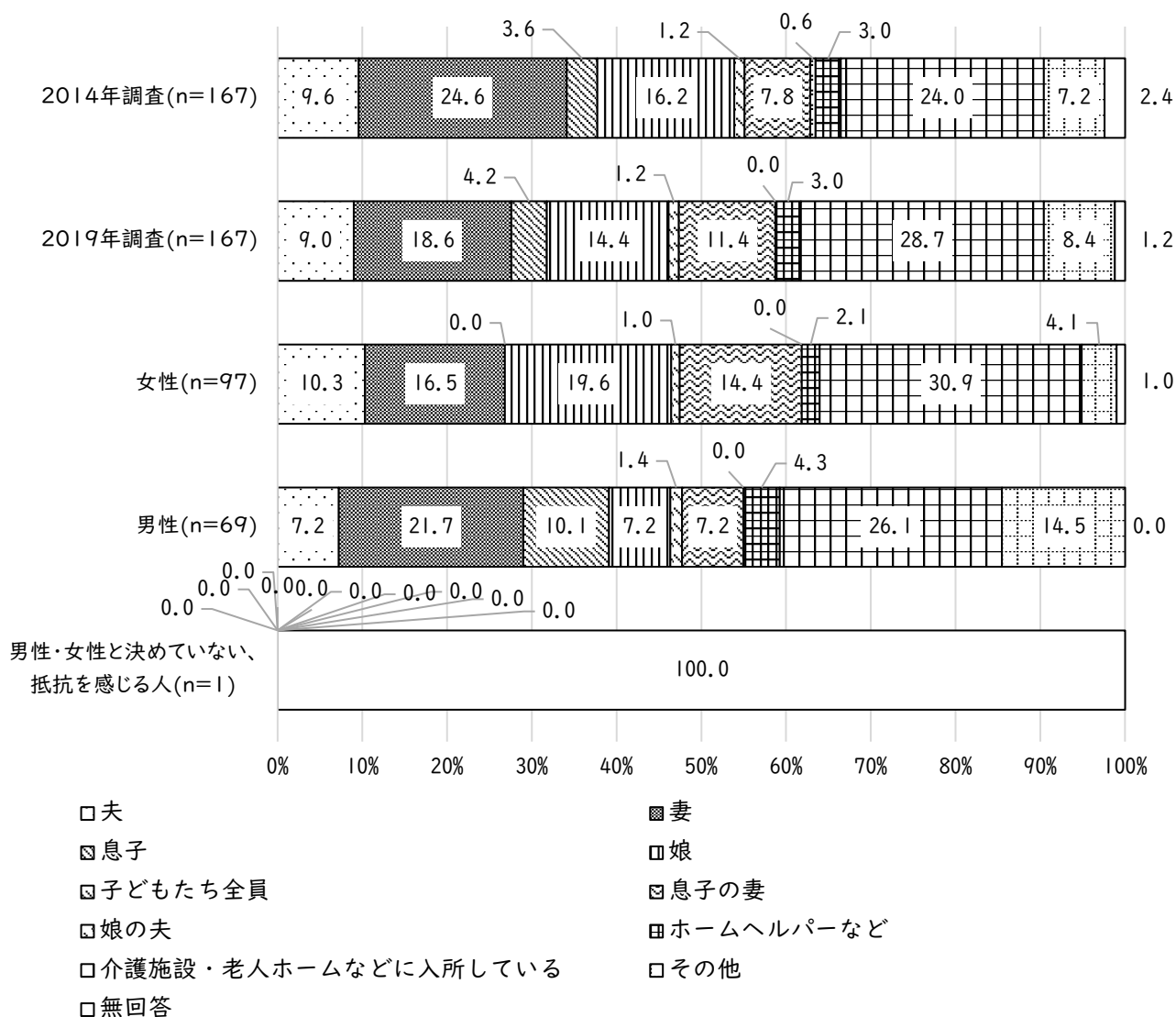


問15 問14で「1.はい」に○印をつけた方におたずねします。その方の世話は、要介護者から見て主に誰がしていますか。(n=167)

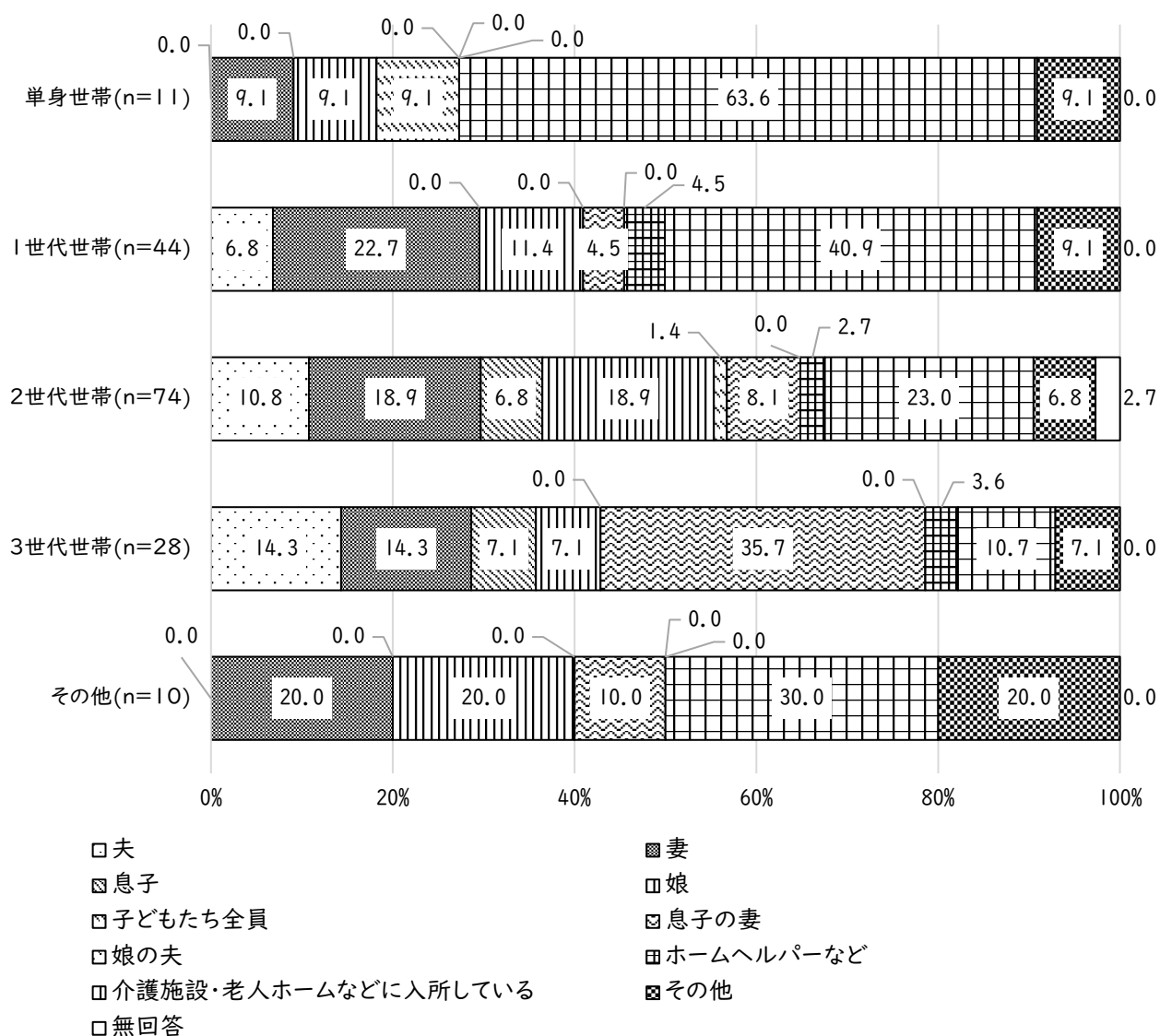
問14で「1.はい」に○印をつけた167人(女性97人、男性69人、男性・女性と決めていない、抵抗を感じる人1人)に、要介護者から見て誰が世話をしているか聞いています。全体で最も高い割合は「介護施設・老人ホームなどに入所している」が28.7%、次いで「妻」が18.6%となっています。

前回調査との比較では、「妻」について、2019年調査が18.6%と2014年調査24.6%より6.0ポイント低くなっています。

性別でみると、「娘」について、女性は19.6%と男性7.2%より12.4ポイント高くなっています。



家族構成別でみると、単身世帯、1世代世帯、2 世代世帯では「介護施設・老人ホームなどに入所している」の割合が最も高く、3 世代世帯では「息子の妻」の割合が最も高くなっています。また同居している世帯の数が多くなるほど「夫」の割合が高くなっています。



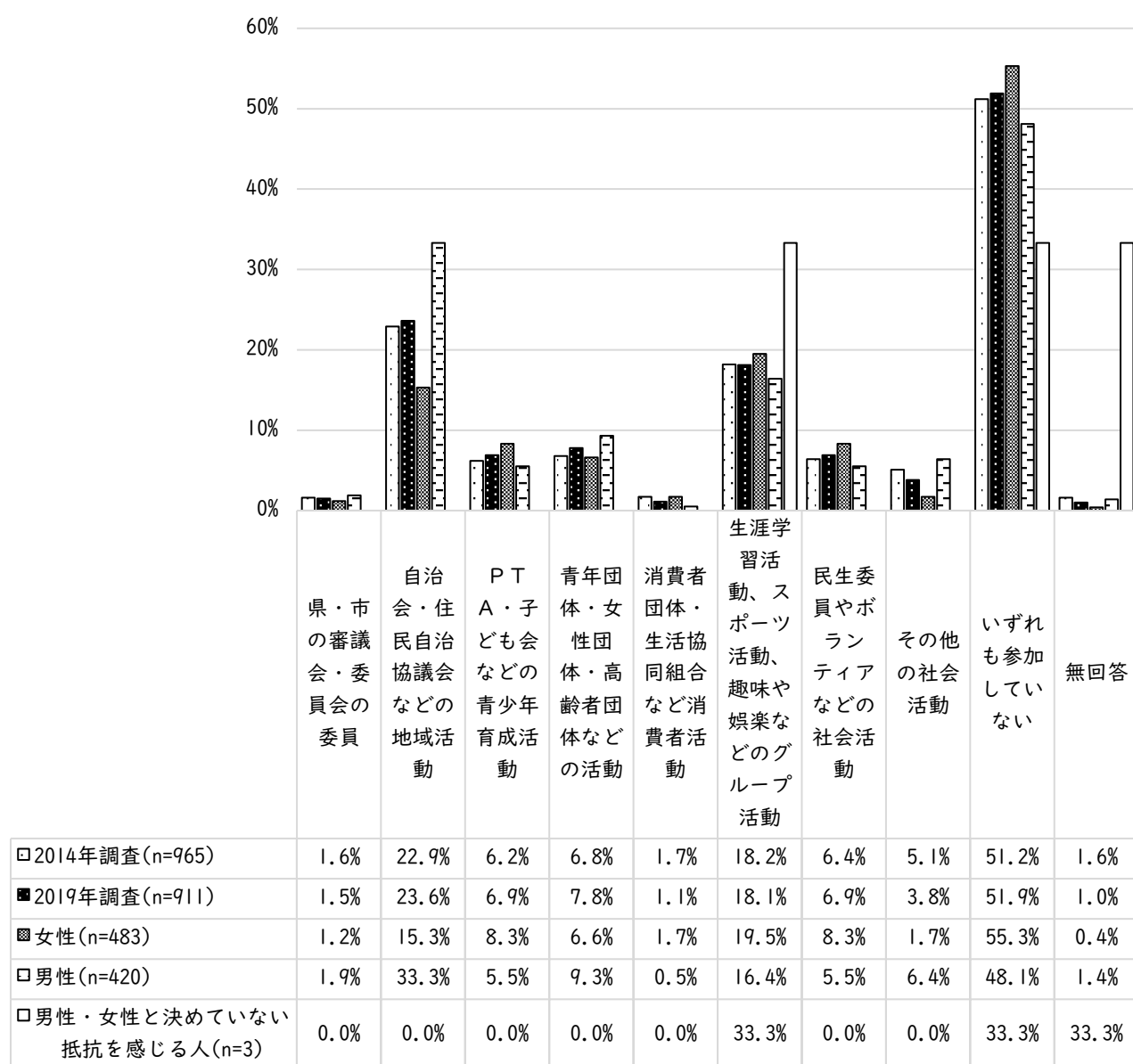
4.社会活動について

問16 あなたは、つぎのような活動をしていますか。(〇はいくつでも)

全体で最も割合が高いのは「いずれも参加していない」が 51.9%、次いで「自治会・住民自治協議会などの地域活動」が 23.6%となっています。

前回調査との差はありません。

性別では、女性・男性ともに「いずれも参加していない」が最も割合が高くなっています。「いずれも参加していない」について、女性は 55.3%と男性 48.1%より、7.2 ポイント高くなっています。また、「自治会・住民自治協議会などの地域活動」について、女性は 15.3%と男性 33.3%より、18.0 ポイント低くなっています。



年齢別では、すべての年代で「いずれも参加していない」が最も割合が高く、20歳代は73.1%と、どの世代よりも高くなっています。「自治会・住民自治協議会などの地域活動」については、40歳代以上で2割を超えています。「生涯学習活動、スポーツ活動、趣味や娯楽などのグループ活動」については、60歳代以上で2割を超えています。

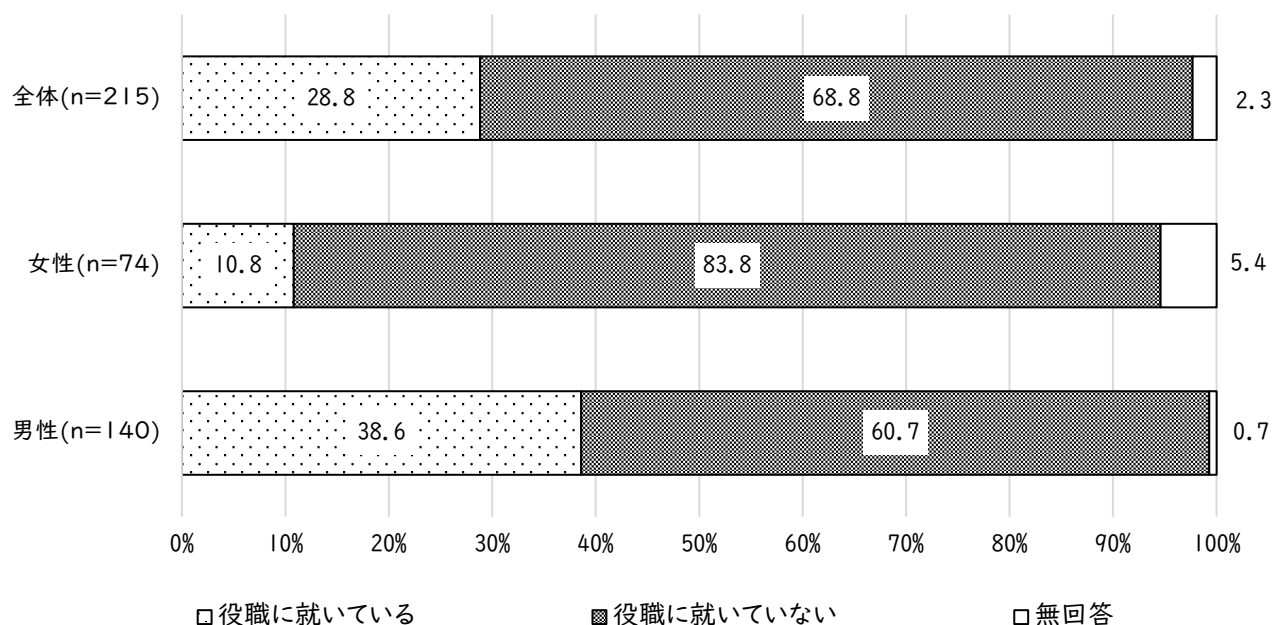
就業状況別をみると、農林水産業では、「いずれも参加してない」の割合が27.0%となっている一方、「自治会・住民自治協議会などの地域活動」の割合が37.8%となっています。また、自由業では、「自治会・住民自治協議会などの地域活動」が60.0%となっています。その他の就業状況別をみると「いずれも参加していない」の割合が最も高くなっています。

			員 県・市の審議会・委員会の委	自治会・住民自治協議会などの 地域活動	PTA・子ども会などの青少 年育成活動	青年団体・女性団体・高齢者 団体などの活動	消費者団体・生活協同組合な どの消費者活動	生涯学習活動 スポーツ活動 趣味や娯楽などのグループ活動	民生委員やボランティアな どの社会活動	その他の社会活動など	いずれも参加してない	無回答
年 齢	20～29歳 (n=52)	数	0	1	3	2	0	9	2	1	38	0
		%	0.0%	1.9%	5.8%	3.8%	0.0%	17.3%	3.8%	1.9%	73.1%	0.0%
	30～39歳 (n=88)	数	0	8	12	5	1	10	1	1	56	1
		%	0.0%	9.1%	13.6%	5.7%	1.1%	11.4%	1.1%	1.1%	63.6%	1.1%
	40～49歳 (n=108)	数	0	29	29	9	3	17	1	2	51	0
		%	0.0%	26.9%	26.9%	8.3%	2.8%	15.7%	0.9%	1.9%	47.2%	0.0%
	50～59歳 (n=144)	数	4	38	12	4	4	11	1	5	86	1
		%	2.8%	26.4%	8.3%	2.8%	2.8%	7.6%	0.7%	3.5%	59.7%	0.7%
	60～69歳 (n=248)	数	9	71	5	18	1	55	27	6	118	1
		%	3.6%	28.6%	2.0%	7.3%	0.4%	22.2%	10.9%	2.4%	47.6%	0.4%
	70歳以上 (n=268)	数	1	67	2	33	1	62	31	19	123	6
		%	0.4%	25.0%	0.7%	12.3%	0.4%	23.1%	11.6%	7.1%	45.9%	2.2%
就 業 状 況	正規雇用者 (n=247)	数	4	59	33	16	4	31	2	3	136	2
		%	1.6%	23.9%	13.4%	6.5%	1.6%	12.6%	0.8%	1.2%	55.1%	0.8%
	非正規雇用者 (n=174)	数	1	48	14	8	2	34	10	2	93	2
		%	0.6%	27.6%	8.0%	4.6%	1.1%	19.5%	5.7%	1.1%	53.4%	1.1%
	派遣社員、契約社員 (n=39)	数	0	3	3	0	1	3	0	0	29	0
		%	0.0%	7.7%	7.7%	0.0%	2.6%	7.7%	0.0%	0.0%	74.4%	0.0%
	農林水産業 (n=37)	数	3	14	3	9	0	8	10	3	10	0
		%	8.1%	37.8%	8.1%	24.3%	0.0%	21.6%	27.0%	8.1%	27.0%	0.0%
	商工・サービス業 (n=56)	数	3	19	0	4	0	11	1	7	24	1
		%	5.4%	33.9%	0.0%	7.1%	0.0%	19.6%	1.8%	12.5%	42.9%	1.8%
	自由業 (n=5)	数	0	3	0	1	0	1	1	2	2	0
		%	0.0%	60.0%	0.0%	20.0%	0.0%	20.0%	20.0%	40.0%	40.0%	0.0%
	家事専業・家事手伝い (n=101)	数	1	16	6	13	1	26	11	5	47	0
		%	1.0%	15.8%	5.9%	12.9%	1.0%	25.7%	10.9%	5.0%	46.5%	0.0%
	学生 (n=11)	数	0	0	0	0	0	2	1	0	8	0
		%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	18.2%	9.1%	0.0%	72.7%	0.0%
	無職 (n=217)	数	1	46	3	19	1	44	24	11	112	4
		%	0.5%	21.2%	1.4%	8.8%	0.5%	20.3%	11.1%	5.1%	51.6%	1.8%
	その他 (n=19)	数	1	7	1	1	1	4	2	2	8	0
		%	5.3%	36.8%	5.3%	5.3%	5.3%	21.1%	10.5%	10.5%	42.1%	0.0%

問17 問16で「2.自治会・住民自治協議会などの地域活動」に○印をつけた方におたずねします。その組織内で、意思決定に関わる役職(会長・役員など)に就いていますか。(n=215)

問16で「2.自治会・住民自治協議会などの地域活動」に○印をつけた215人(女性74人、男性140人、性別無回答1人)に、役職に就いているのか聞いています。全体では「役職に就いている」の割合が28.8%、「役職に就いていない」の割合が68.8%となっています。

性別でみると、「役職に就いている」について、女性は10.8%と男性38.6%より27.8ポイント低くなっています。

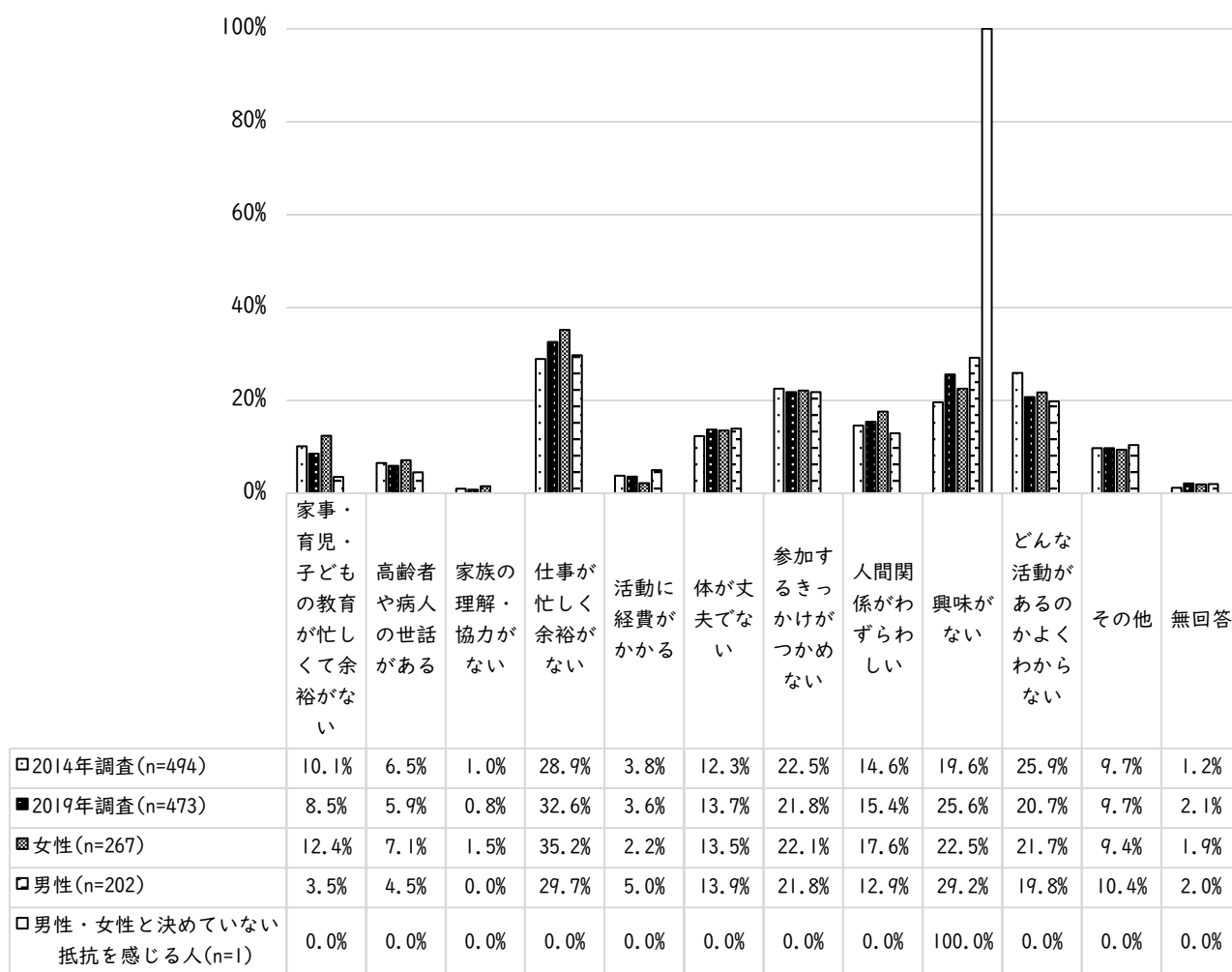


問18 問16で「9.いずれも参加していない」に○印をつけた方におたずねします。その理由は何ですか。(○はいくつでも) (n=473)

問16で「9.いずれも参加していない」に○印をつけた473人(女性269人、男性200人、男性・女性と決めていない、抵抗を感じる人1人、性別無回答3人)に、その理由を聞いています。全体で最も割合が高いのは、「仕事が忙しく余裕がない」が32.6%、次いで「興味がない」が25.6%、「どんな活動があるのかよくわからない」20.7%となっています。

前回調査との比較では、「興味がない」について、2019年調査が25.6%と2014年調査19.6%より6.0ポイント高くなっています。「どんな活動があるのかよくわからない」について、2019年調査が20.7%と2014年調査25.9%より5.2ポイント低くなっています。

性別でみると、女性・男性ともに「仕事が忙しく余裕がない」が最も割合が高く、女性は34.9%、男性は30.0%となっています。また、「家事・育児・子どもの教育が忙しくて余裕がない」について、女性は12.4%と男性3.5%より、8.9ポイント高くなっています。



年齢別では、20歳代で「興味がない」が最も割合が高く44.7%となっています。50歳以上と比べると20ポイント以上高くなっています。また、30歳代から50歳代では、「仕事が忙しく余裕がない」が4割を超えています。

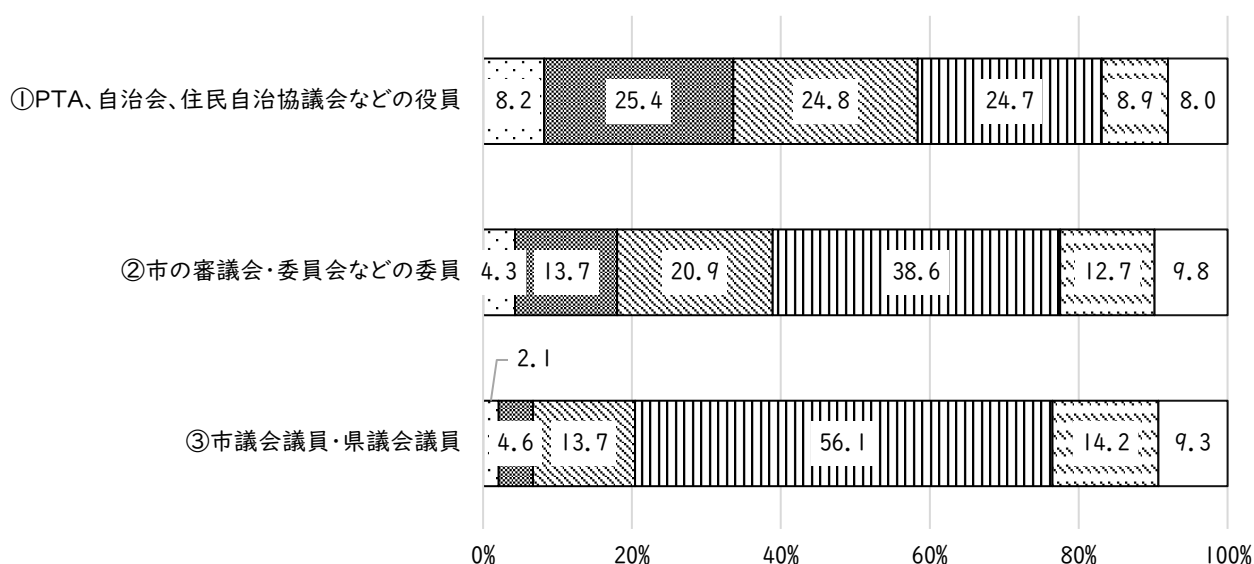
就業状況別をみると、正規雇用者では、「仕事が忙しく余裕がない」の割合が60.3%となっており、非正規雇用者(39.8%)より20.5ポイント高くなっています。

			家事・育児・子どもの教育が忙しくて余裕がない	高齢者や病人の世話がある	家族の理解協力がでない	仕事が忙しく余裕がない	活動に経費がかかる	体が丈夫でない	参加するきっかけがつかめない	人間関係がわずらわしい	興味がない	どんな活動があるのかよくわからない	その他	無回答
年齢	20～29歳 (n=38)	数	4	0	0	13	2	2	10	5	17	12	4	0
		%	10.5%	0.0%	0.0%	34.2%	5.3%	5.3%	26.3%	13.2%	44.7%	31.6%	10.5%	0.0%
	30～39歳 (n=56)	数	17	1	1	23	4	4	16	11	20	19	6	1
		%	30.4%	1.8%	1.8%	41.1%	7.1%	7.1%	28.6%	19.6%	35.7%	33.9%	10.7%	1.8%
	40～49歳 (n=51)	数	10	1	0	22	1	4	9	8	17	9	2	0
		%	19.6%	2.0%	0.0%	43.1%	2.0%	7.8%	17.6%	15.7%	33.3%	17.6%	3.9%	0.0%
	50～59歳 (n=86)	数	7	8	2	44	4	3	20	12	19	21	7	3
		%	8.1%	9.3%	2.3%	51.2%	4.7%	3.5%	23.3%	14.0%	22.1%	24.4%	8.1%	3.5%
	60～69歳 (n=118)	数	0	3	1	36	2	18	35	18	29	22	9	1
		%	0.0%	2.5%	0.8%	30.5%	1.7%	15.3%	29.7%	15.3%	24.6%	18.6%	7.6%	0.8%
	70歳以上 (n=123)	数	2	15	0	16	4	33	13	19	19	15	18	5
		%	1.6%	12.2%	0.0%	13.0%	3.3%	26.8%	10.6%	15.4%	15.4%	12.2%	14.6%	4.1%
職業	正規雇用者 (n=136)	数	18	1	2	82	3	4	40	16	42	35	8	2
		%	13.2%	0.7%	1.5%	60.3%	2.2%	2.9%	29.4%	11.8%	30.9%	25.7%	5.9%	1.5%
	非正規雇用者 (n=93)	数	11	6	1	37	2	4	25	14	24	20	5	0
		%	11.8%	6.5%	1.1%	39.8%	2.2%	4.3%	26.9%	15.1%	25.8%	21.5%	5.4%	0.0%
	派遣社員、契約社員 (n=29)	数	1	1	0	7	2	3	6	5	12	9	3	1
		%	3.4%	3.4%	0.0%	24.1%	6.9%	10.3%	20.7%	17.2%	41.4%	31.0%	10.3%	3.4%
	農林水産業 (n=10)	数	1	1	0	3	1	2	2	0	2	1	0	0
		%	10.0%	10.0%	0.0%	30.0%	10.0%	20.0%	20.0%	0.0%	20.0%	10.0%	0.0%	0.0%
	商工・サービス業 (n=24)	数	1	2	0	13	2	4	3	3	2	3	1	1
		%	4.2%	8.3%	0.0%	54.2%	8.3%	16.7%	12.5%	12.5%	8.3%	12.5%	4.2%	4.2%
	自由業 (n=2)	数	0	0	0	1	1	1	1	1	1	2	0	0
		%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%	50.0%	50.0%	50.0%	50.0%	100.0%	0.0%	0.0%
	家事専業・家事手伝い (n=47)	数	6	5	1	3	2	16	8	11	7	6	6	1
		%	12.8%	10.6%	2.1%	6.4%	4.3%	34.0%	17.0%	23.4%	14.9%	12.8%	12.8%	2.1%
	学生 (n=8)	数	0	0	0	1	0	0	0	0	4	2	3	0
		%	0.0%	0.0%	0.0%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	25.0%	37.5%	0.0%
	無職 (n=112)	数	2	12	0	4	3	29	16	21	26	17	18	4
		%	1.8%	10.7%	0.0%	3.6%	2.7%	25.9%	14.3%	18.8%	23.2%	15.2%	16.1%	3.6%
	その他 (n=8)	数	0	0	0	2	0	1	2	2	1	2	2	1
		%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	12.5%	25.0%	25.0%	12.5%	25.0%	25.0%	12.5%

問19 女性の場合はあなたが、男性の場合は妻・母親など身近な女性が、次のような役職に就く(立候補する)ことを依頼された場合はどうしますか。

女性が役職に就く(立候補する)ことについて、「分野や時間的余裕など条件によって引き受ける(条件によって引き受けるよう勧める)」で最も割合が高かったのは、「①PTA、自治会、住民自治協議会などの役員」25.4%、次いで「②市の審議会・委員会などの委員」13.7%となっています。

「断る(断るよう勧める)」で最も割合が高かったのは、「③市議会議員・県議会議員」56.1%となっています。



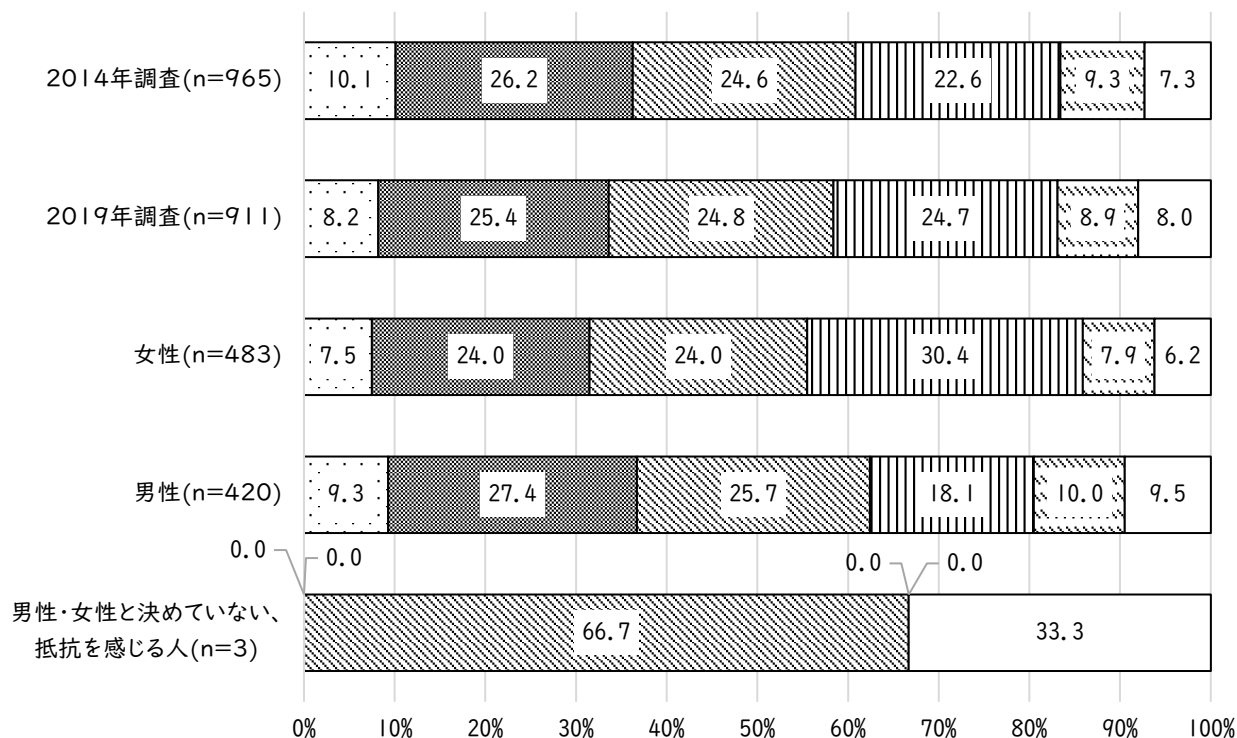
- ☐ 引き受ける(引き受けるよう勧める)
- ☒ 分野や時間的余裕など条件によって引き受ける(条件によって引き受けるよう勧める)
- ☒ 家族など身近な者に相談してから(相談してから、決めるよう勧める)
- ☐ 断る(断るよう勧める)
- ☐ わからない
- ☐ 無回答

「①PTA、自治会、住民自治協議会などの役員」

全体で最も割合が高いのは「分野や時間的余裕など条件によって引き受ける(条件によって引き受けるよう勧める)」が 25.4%、次いで「家族など身近な者に相談してから決める(相談してから、決めるよう勧める)」が 24.8%となっています。

前回調査との差はありません。

性別でみると、「断る(断るよう勧める)」について、女性は 30.4%と男性 18.1%より、12.3 ポイント高くなっています。



□引き受ける(引き受けるよう勧める)

■分野や時間的余裕など条件によって引き受ける(条件によって引き受けるよう勧める)

▣家族など身近な者に相談してから(相談してから、決めるよう勧める)

▤断る(断るよう勧める)

▥わからない

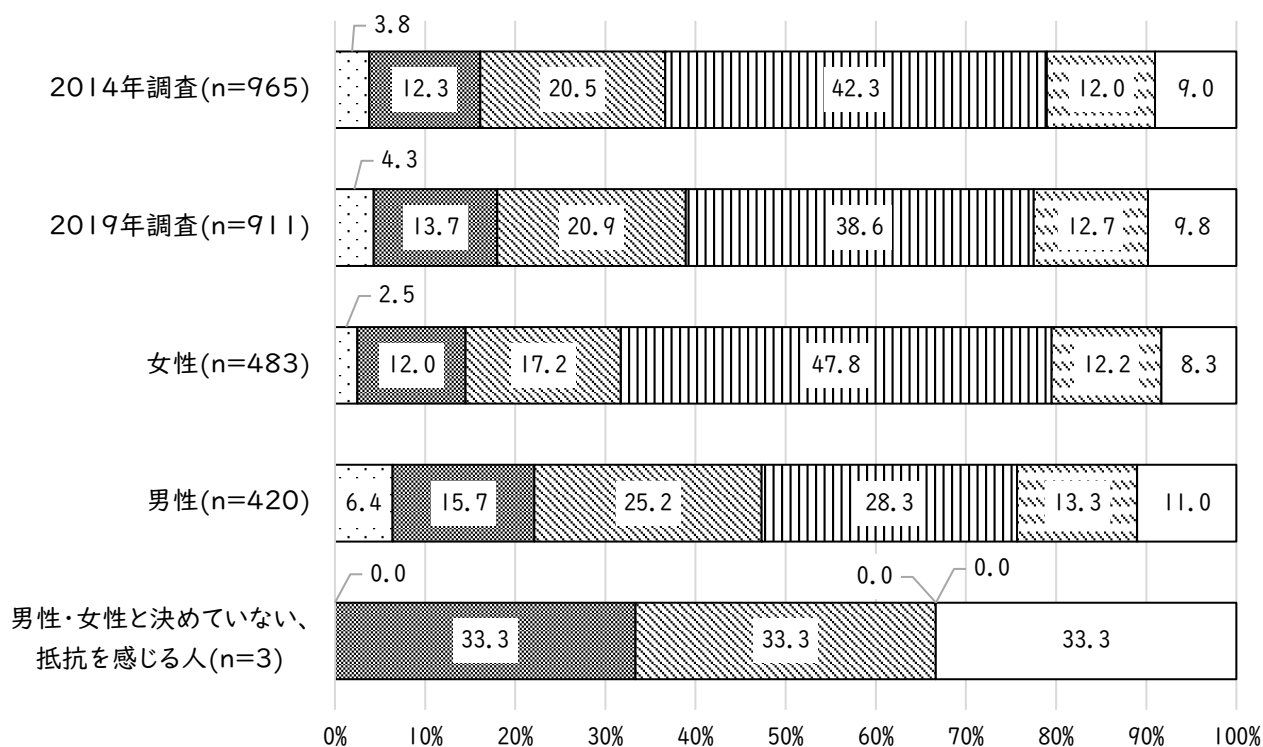
□無回答

「②市の審議会・委員会などの委員」

全体で最も高い割合は「断る(断るよう勧める)」が 38.6%、次いで「家族など身近な者に相談してから決める(相談してから、決めるよう勧める)」が 20.9%となっています。

前回調査との差はありません。

性別でみると、「断る(断るよう勧める)」について、女性は 47.8%と男性 28.3%より、19.5 ポイント高くなっています。



□引き受ける(引き受けるよう勧める)

■分野や時間的余裕など条件によって引き受ける(条件によって引き受けるよう勧める)

▨家族など身近な者に相談してから(相談してから、決めるよう勧める)

▣断る(断るよう勧める)

□わからない

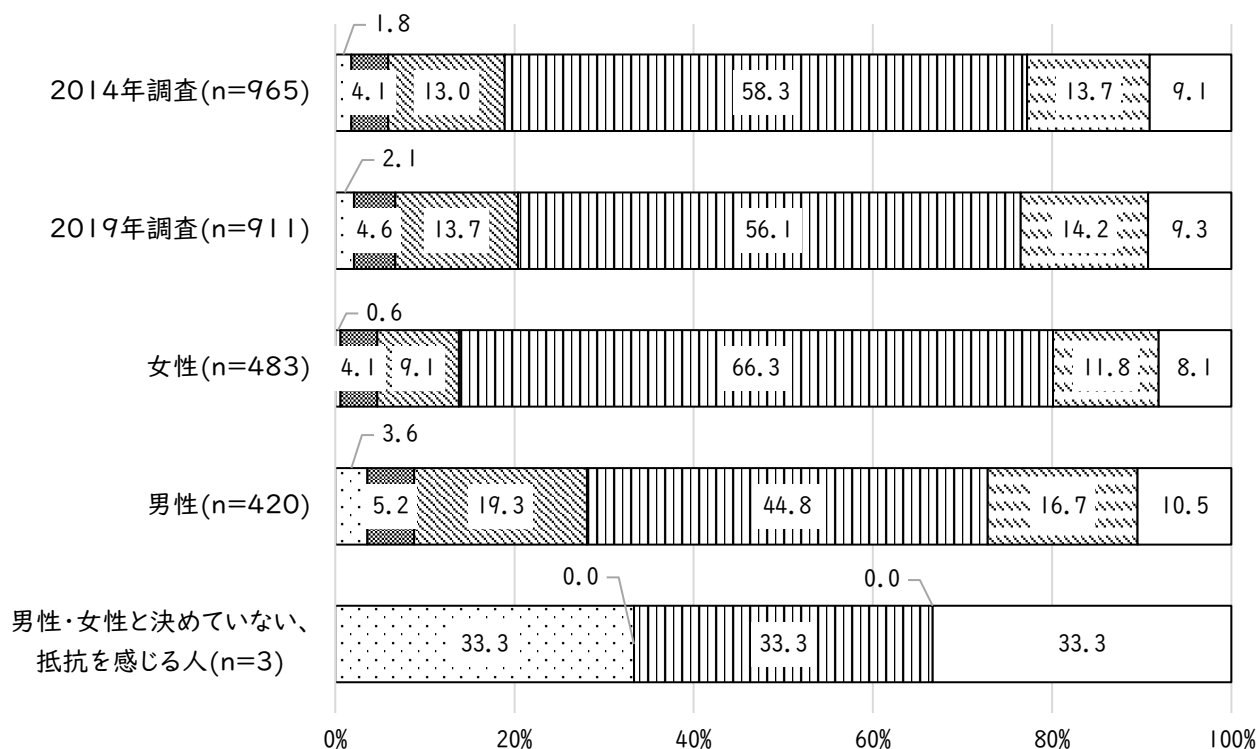
□無回答

「③市議会議員・県議会議員」

全体で最も高い割合は「断る(断るよう勧める)」が56.1%、次いで「わからない」が14.2%となっています。

前回調査との差はありません。

性別でみると、「断る(断るよう勧める)」について、女性は66.3%と男性44.8%より21.5ポイント高くなっています。一方、「家族など身近な者に相談してから決める(相談してから、決めるよう勧める)」について、女性は9.1%と男性19.3%より10.2ポイント低くなっています。



□引き受ける(引き受けるよう勧める)

■分野や時間的余裕など条件によって引き受ける(条件によって引き受けるよう勧める)

▨家族など身近な者に相談してから(相談してから、決めるよう勧める)

▣断る(断るよう勧める)

□わからない

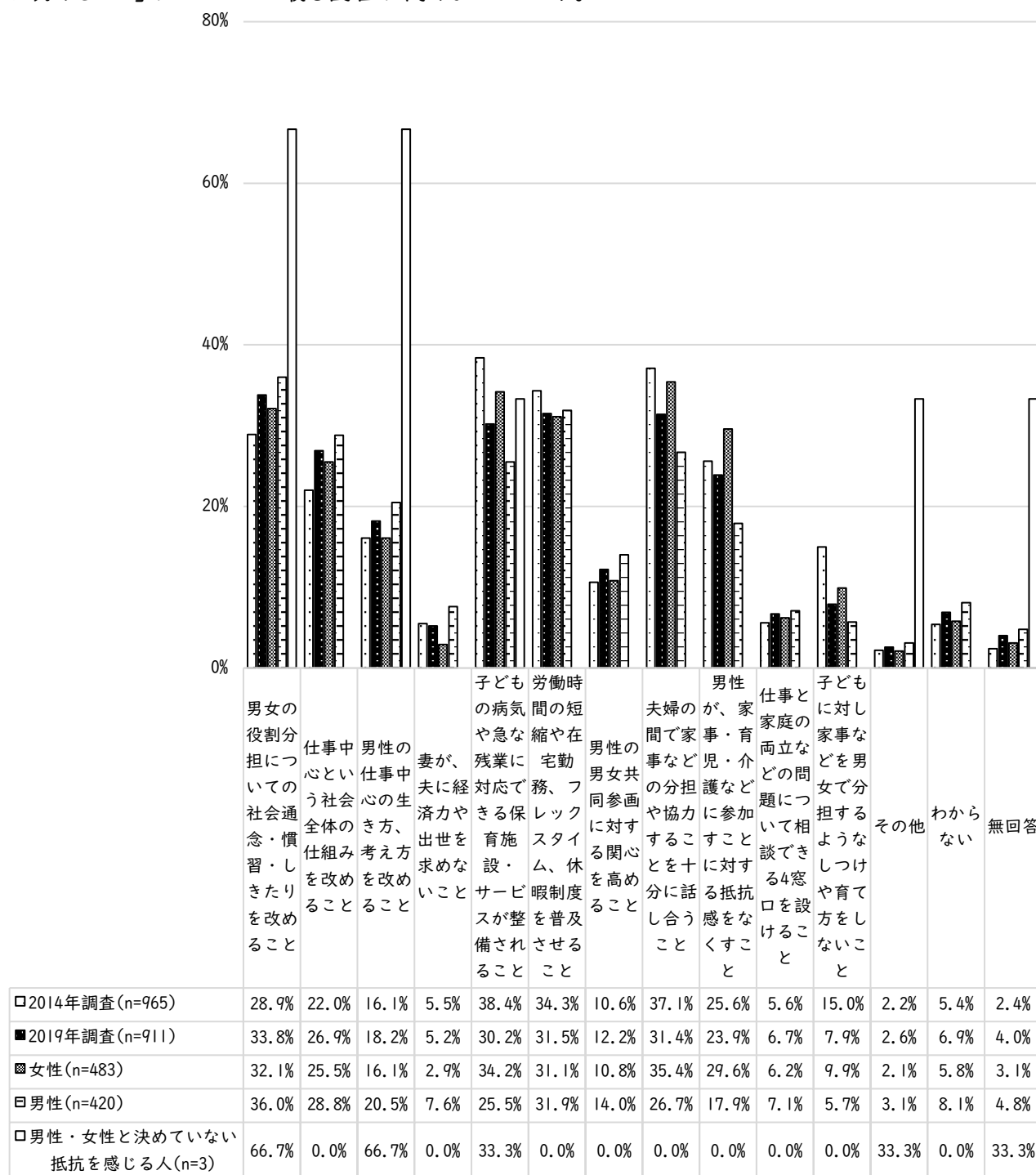
□無回答

問20 今後、女性・男性関係なく家事、子育てや教育、介護および地域活動などに積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

全体で最も割合が高いのは、「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」が33.8%、次いで「労働時間の短縮や在宅勤務、フレックスタイム、休暇制度を普及させること」が31.5%となっています。

前回調査との比較では、「子どもに対し家事などを男女で分担するようしつけや育て方をしないこと」について、2019年調査が7.9%と2014年調査15.0%より、7.1ポイント低くなっています。

性別でみると、女性では「夫婦の間で家事などの分担や協力することを十分に話し合うこと」が35.4%と最も割合が高くなっています。男性では「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」が36.0%と最も割合が高くなっています。

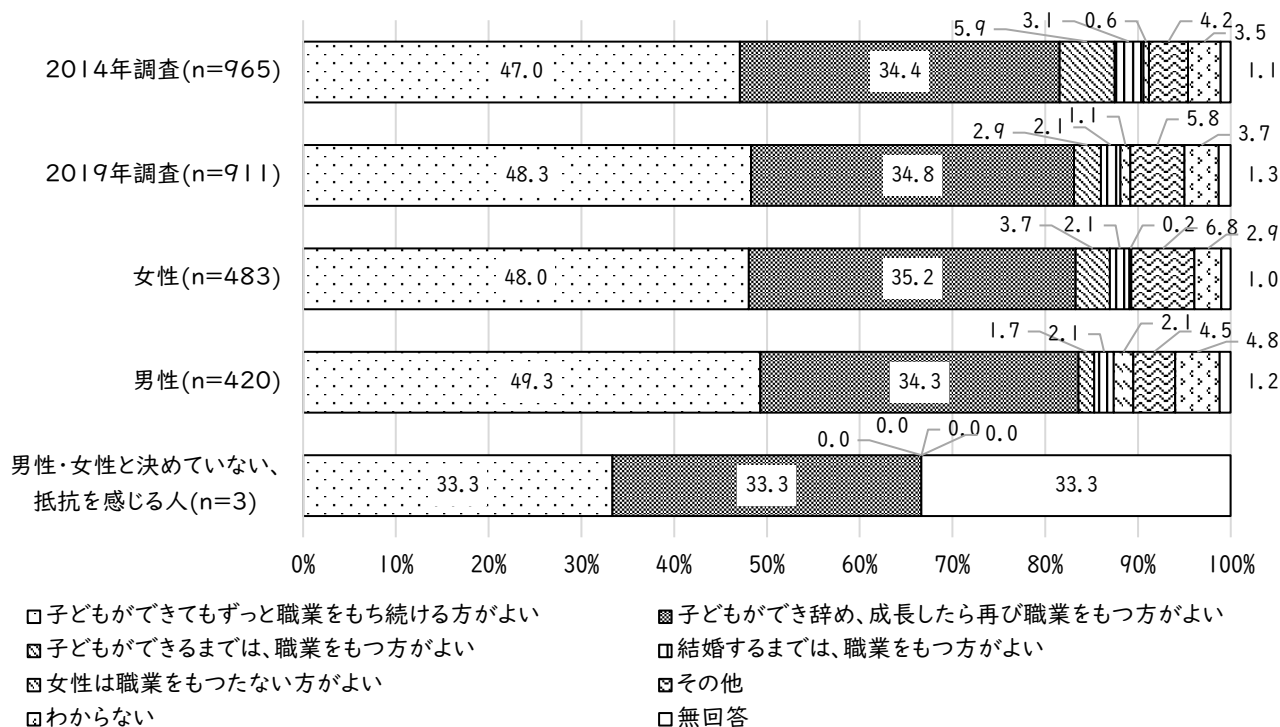


5.職業生活について

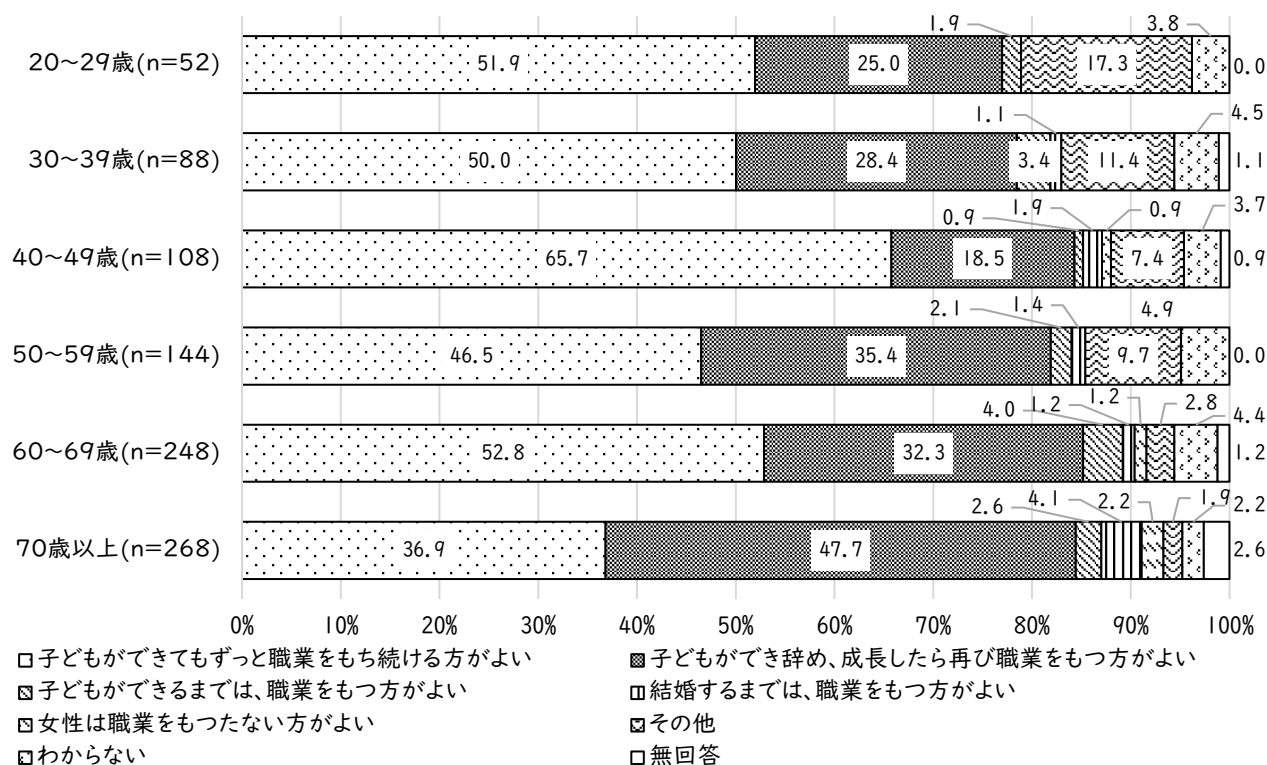
問21 女性が職業をもつことについてあなたはどのように思いますか。

全体で最も割合が高いのは「子どもができてもずっと職業をもち続ける方がよい」が 48.3%、次いで「子どもができ辞め、成長したら再び職業をもつ方がよい」が 34.8%となっています。

前回調査、性別による差はありません。



年齢別でみると、「子どもができてもずっと職業をもち続ける方がよい」について、40 歳代は 65.7%と 70 歳以上より 28.8 ポイント高くなっています。



性別・年齢別では、男性の40歳代、女性の20歳代・40歳代は「子どもができてずっと職業をもち続ける方がよい」が6割を超えています。男性の70歳以上、女性の70歳以上は「子どもができ辞め、成長したら再び職業をもつ方がよい」が4割を超えています。

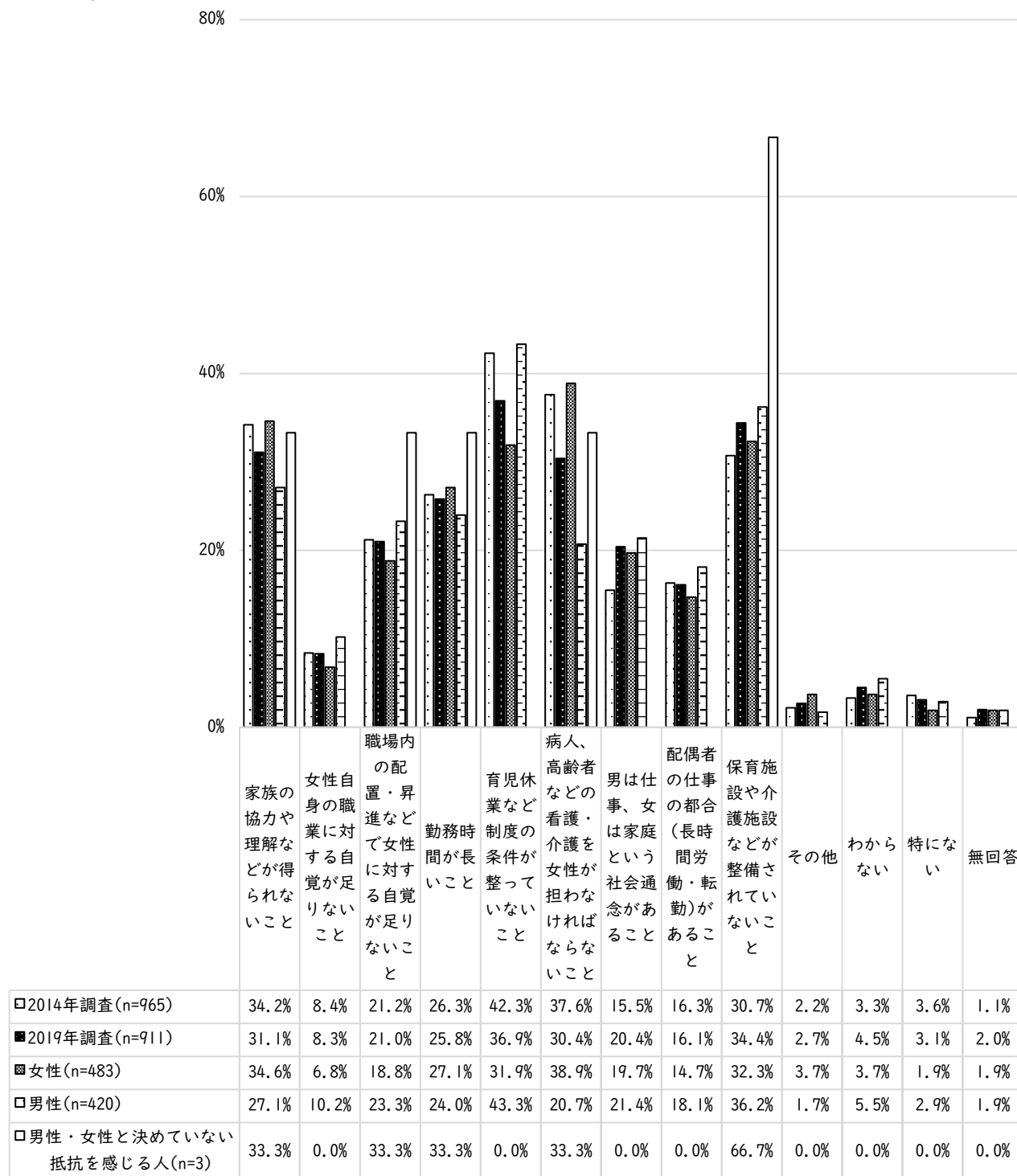
		子どもができて もずっと 職業をもち 続ける方が よい	子どもがで き辞め、成 長したら再 び職業をも つ方がよい	子どもがで きるまでは 職業をもつ 方がよい	結婚するま では、職業 をもつ方が よい	女 性 は 職業をも たない方 がよい	その他	わからな い
全体		48.3%	34.8%	2.9%	2.1%	1.1%	5.8%	3.7%
女性 (n=483)	20～29 歳	60.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%
	30～39 歳	58.3%	22.9%	4.2%	0.0%	0.0%	14.6%	0.0%
	40～49 歳	64.9%	15.8%	0.0%	3.5%	0.0%	8.8%	5.3%
	50～59 歳	39.1%	39.1%	2.3%	1.1%	0.0%	11.5%	6.9%
	60～69 歳	51.1%	37.6%	6.0%	0.8%	0.0%	2.3%	1.5%
	70 歳以上	37.6%	45.9%	4.5%	4.5%	0.8%	2.3%	2.3%
男性 (n=420)	20～29 歳	44.4%	29.6%	3.7%	0.0%	0.0%	14.8%	7.4%
	30～39 歳	41.0%	33.3%	2.6%	2.6%	0.0%	7.7%	10.3%
	40～49 歳	66.7%	21.6%	2.0%	0.0%	2.0%	5.9%	2.0%
	50～59 歳	58.9%	30.4%	1.8%	1.8%	0.0%	5.4%	1.8%
	60～69 歳	54.4%	26.3%	1.8%	1.8%	2.6%	3.5%	7.9%
	70 歳以上	37.4%	48.9%	0.8%	3.8%	3.8%	1.5%	2.3%
男性・女性 決めていな い、抵抗を 感じる人 (n=3)	20～29 歳	-	-	-	-	-	-	-
	30～39 歳	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	40～49 歳	-	-	-	-	-	-	-
	50～59 歳	-	-	-	-	-	-	-
	60～69 歳	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	70 歳以上	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

問22 女性が働き続けていくうえで障壁になっているのは何だと思いますか、(〇は3つまで)

全体で最も割合が高いのは「育児休業など制度の条件が整っていないこと」が36.9%、次いで「保育施設や介護施設などが整備されていないこと」が34.4%となっています。

前回調査との差はありません。

性別でみると、女性では「病人、高齢者など看護・介護を女性が担わなければならないこと」が38.9%と最も割合が高くなっています。男性では「育児休業など制度の条件が整っていないこと」が43.3%と最も割合が高くなっています。



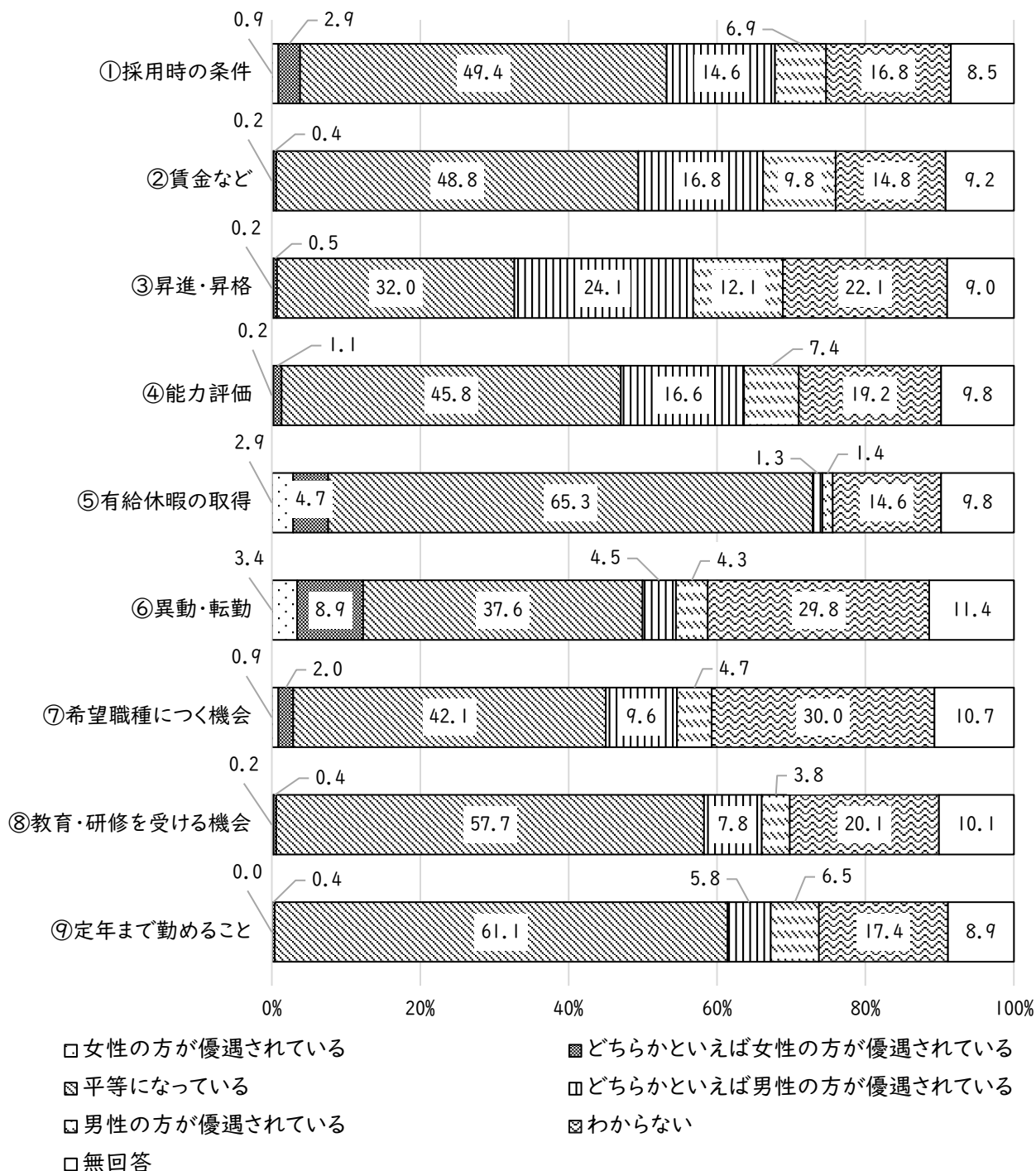
年齢別では、20 歳代、30 歳代、70 歳以上では「育児休業など制度の条件が整っていないこと」が最も割合が高く、20 歳代では 48.1%、30 歳代では 38.6%、70 歳以上では 36.6%となっています。また、40 歳代では「勤務時間が長いこと」が最も割合が高く 37.0%、50 歳代と 60 歳代では「保育施設や介護施設などが整備されていないこと」が最も割合が高く、50 歳代では 34.0%、60 歳代では 41.5%となっています。

就業状況別をみると、農林水産業(自営・家族従業者)と学生では、「育児休業など制度の条件が整っていない」の割合が 5 割を超えています。正規雇用者では、「育児休業など制度の条件が整っていないこと」37.7%、「勤務時間が長いこと」35.2%と高い割合となっています。非正規雇用者では、「家族の協力や理解などが得られないこと」39.1%、「病人、高齢者などの看護・介護を女性が担わなければならないこと」36.8%と高い割合となっています。

			家族の協力や理解などが得られないこと	女性自身の職業に対する自覚が足りないこと	職場内の配置・昇進などで女性に対する偏見があること	勤務時間が長いこと	育児休業など制度の条件が整っていないこと	病人、高齢者などの看護・介護を女性が担わなければならないこと	念があること 男は仕事、女は家庭という社会通念があること	配偶者の仕事の都合(長時間労働・転勤があること)	保育施設や介護施設などが整備されていないこと	その他	わからない	特になし	無回答
年齢	20～29歳	数	14	5	8	20	25	10	16	9	17	1	3	0	0
		%	26.9%	9.6%	15.4%	38.5%	48.1%	19.2%	30.8%	17.3%	32.7%	1.9%	5.8%	0.0%	0.0%
	30～39歳	数	23	10	21	25	34	9	18	22	31	8	4	1	0
		%	26.1%	11.4%	23.9%	28.4%	38.6%	10.2%	20.5%	25.0%	35.2%	9.1%	4.5%	1.1%	0.0%
	40～49歳	数	34	5	20	40	35	33	24	23	28	3	5	3	2
		%	31.5%	4.6%	18.5%	37.0%	32.4%	30.6%	22.2%	21.3%	25.9%	2.8%	4.6%	2.8%	1.9%
	50～59歳	数	43	6	34	40	47	60	28	13	49	6	7	6	3
		%	29.9%	4.2%	23.6%	27.8%	32.6%	41.7%	19.4%	9.0%	34.0%	4.2%	4.9%	4.2%	2.1%
	60～69歳	数	88	24	57	49	97	83	47	32	103	3	9	4	3
		%	35.5%	9.7%	23.0%	19.8%	39.1%	33.5%	19.0%	12.9%	41.5%	1.2%	3.6%	1.6%	1.2%
	70歳以上	数	80	26	50	61	98	80	52	47	83	4	13	14	10
		%	29.9%	9.7%	18.7%	22.8%	36.6%	29.9%	19.4%	17.5%	31.0%	1.5%	4.9%	5.2%	3.7%
職業	正規雇用者(正職員・正社員)	数	68	19	47	87	93	63	53	50	85	8	9	3	3
		%	27.5%	7.7%	19.0%	35.2%	37.7%	25.5%	21.5%	20.2%	34.4%	3.2%	3.6%	1.2%	1.2%
	非正規雇用者(パート・アルバイト・嘱託)	数	68	20	37	51	61	64	31	29	57	8	3	3	3
		%	39.1%	11.5%	21.3%	29.3%	35.1%	36.8%	17.8%	16.7%	32.8%	4.6%	1.7%	1.7%	1.7%
	派遣社員、契約社員	数	11	2	12	9	11	12	9	6	8	2	4	4	0
		%	28.2%	5.1%	30.8%	23.1%	28.2%	30.8%	23.1%	15.4%	20.5%	5.1%	10.3%	10.3%	0.0%
	農林水産業(自営・家族従業者)	数	10	2	10	9	19	9	8	2	19	2	2	1	0
		%	27.0%	5.4%	27.0%	24.3%	51.4%	24.3%	21.6%	5.4%	51.4%	5.4%	5.4%	2.7%	0.0%
	商工・サービス業(自営・家族従業者)	数	19	5	8	10	26	16	7	9	26	1	0	1	1
		%	33.9%	8.9%	14.3%	17.9%	46.4%	28.6%	12.5%	16.1%	46.4%	1.8%	0.0%	1.8%	1.8%
	自由業	数	1	1	1	1	1	0	2	0	2	0	0	1	0
		%	20.0%	20.0%	20.0%	20.0%	20.0%	0.0%	40.0%	0.0%	40.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%
	家事専業・家事手伝い	数	31	5	21	16	28	44	18	16	29	1	6	6	4
		%	30.7%	5.0%	20.8%	15.8%	27.7%	43.6%	17.8%	15.8%	28.7%	1.0%	5.9%	5.9%	4.0%
	学生	数	5	2	3	3	6	0	5	2	3	0	0	0	0
		%	45.5%	18.2%	27.3%	27.3%	54.5%	0.0%	45.5%	18.2%	27.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	無職	数	64	16	48	47	84	63	47	30	75	3	15	9	6
		%	29.5%	7.4%	22.1%	21.7%	38.7%	29.0%	21.7%	13.8%	34.6%	1.4%	6.9%	4.1%	2.8%
	その他	数	6	3	1	2	6	5	5	3	6	0	1	0	1
		%	31.6%	15.8%	5.3%	10.5%	31.6%	26.3%	26.3%	15.8%	31.6%	0.0%	5.3%	0.0%	5.3%

問23 問4で「1」～「5」のいずれかに○印をつけた方におたずねします。あなたが働いているところでは、①～⑨の項目について、女性と男性は平等だと思いますか。(n=553)

問4で「1」～「5」のいずれかに○印をつけた553人(女性271人、男性277人、男性・女性と決めていない、抵抗を感じる人3人、性別無回答2人)に、職場での男女の地位の平等について聞きました。①～⑨すべてにおいて「平等になっている」が最も割合が高くなっています。



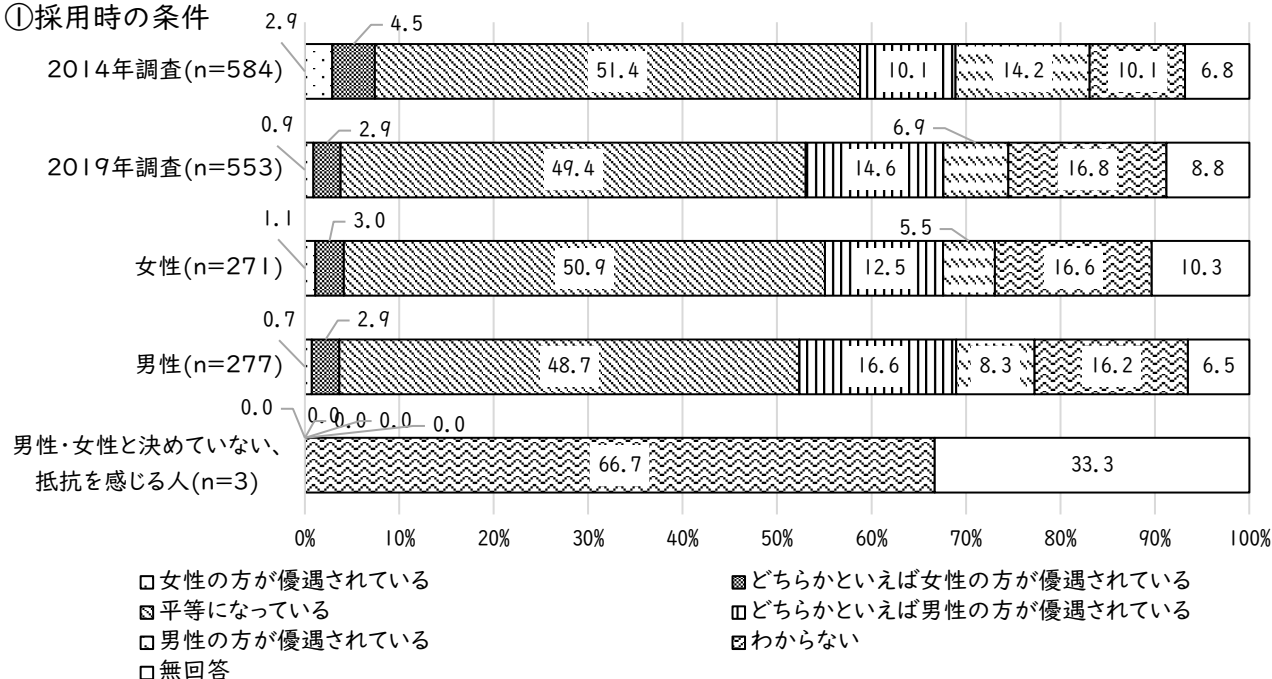
「どちらかといえば女性の方が優遇されている」「女性の方が優遇されている」を合わせる場合は、『女性の方が優遇』と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」「男性の方が優遇されている」を合わせる場合は、『男性の方が優遇』と記載します。

「①採用時の条件」

前回調査との比較では、「平等になっている」について、2019年調査が49.4%と2014年調査51.4%より2.0ポイント低くなっています。

性別でみると、『男性の方が優遇』について、女性は18.0%と男性24.9%より6.9ポイント低くなっています。

①採用時の条件

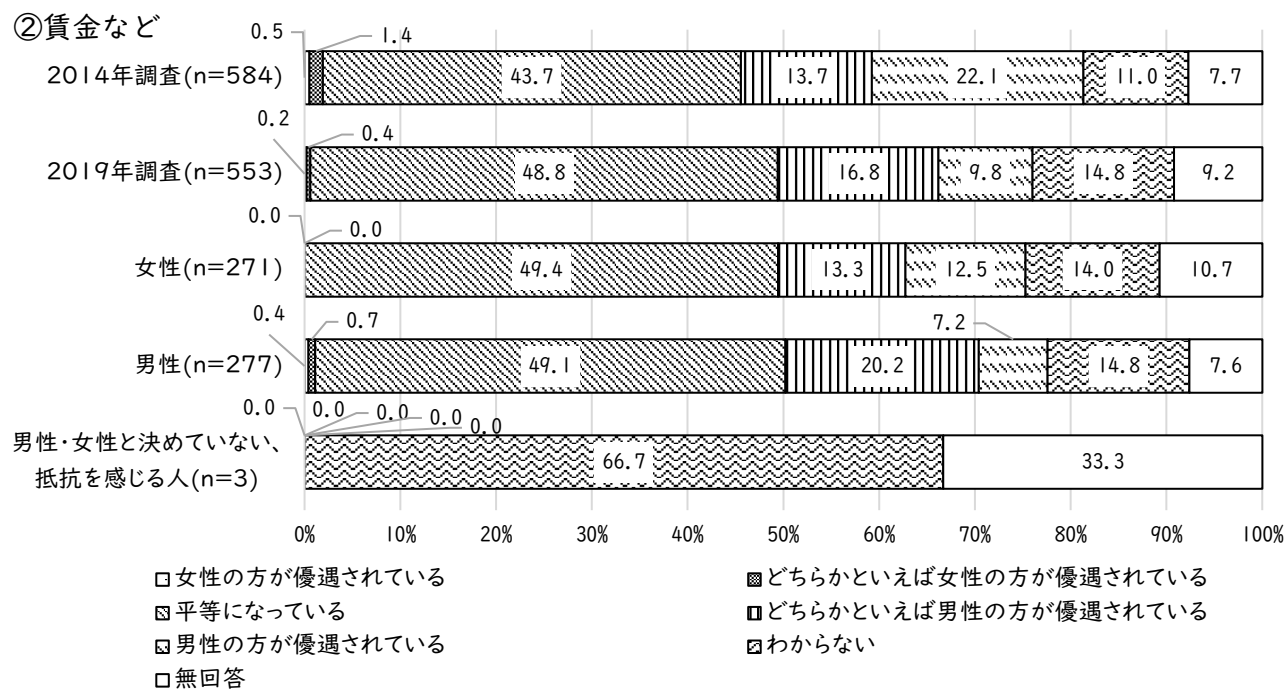


「②賃金など」

前回調査との比較では、『男性の方が優遇』について、2019年調査が26.6%と2014年調査35.8%より9.2ポイント低くなっています。

性別でみると、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」について、女性は13.3%と男性20.2%より6.9ポイント低くなっています。

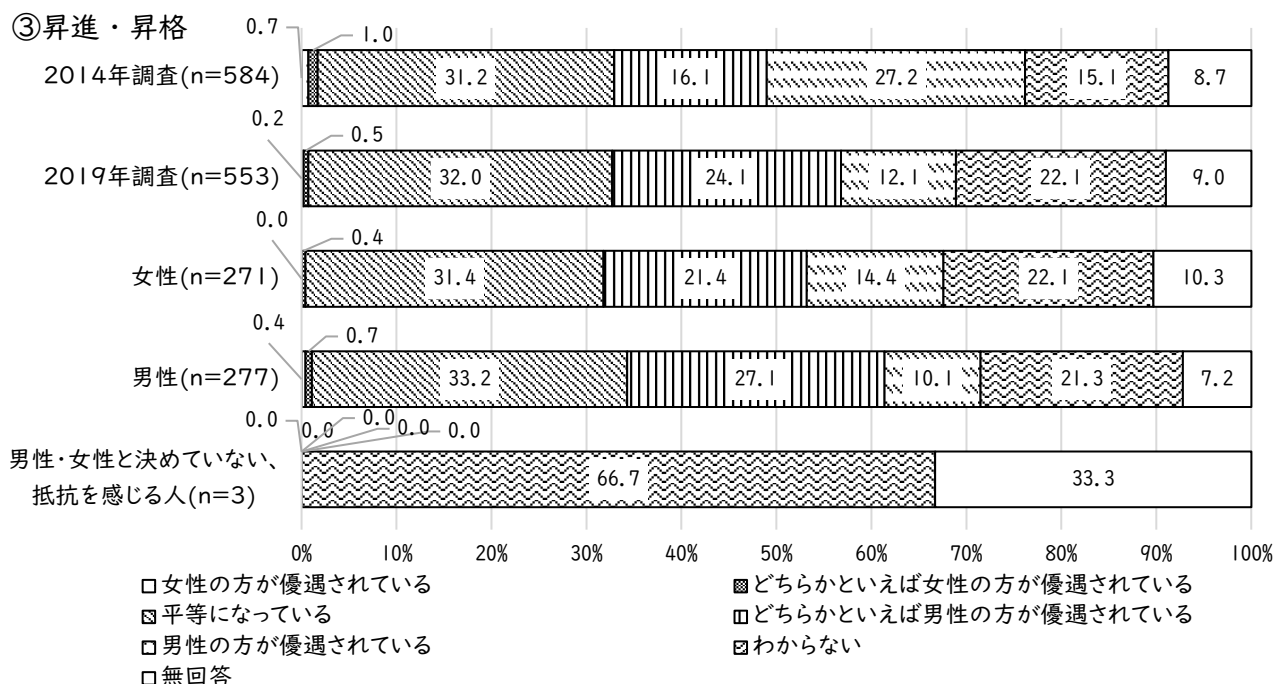
②賃金など



「③昇進・昇格」

前回調査との比較では、『男性の方が優遇』について、2019 年調査が 36.2%と 2014 年調査 43.3%より 7.1 ポイント低くなっています。

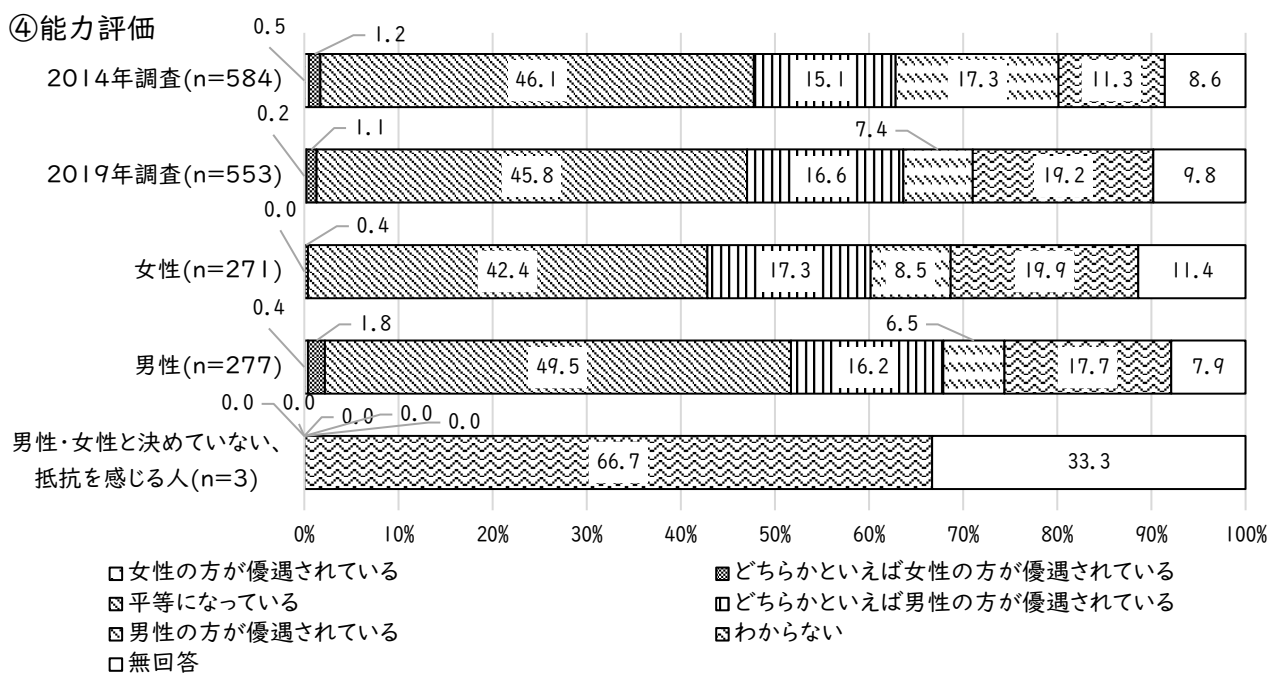
性別でみると、大きな差は見られない。



「④能力評価」

前回調査との比較では、『男性の方が優遇』について、2019 年調査が 24.0%と 2014 年調査 32.4%より 8.4 ポイント低くなっています。

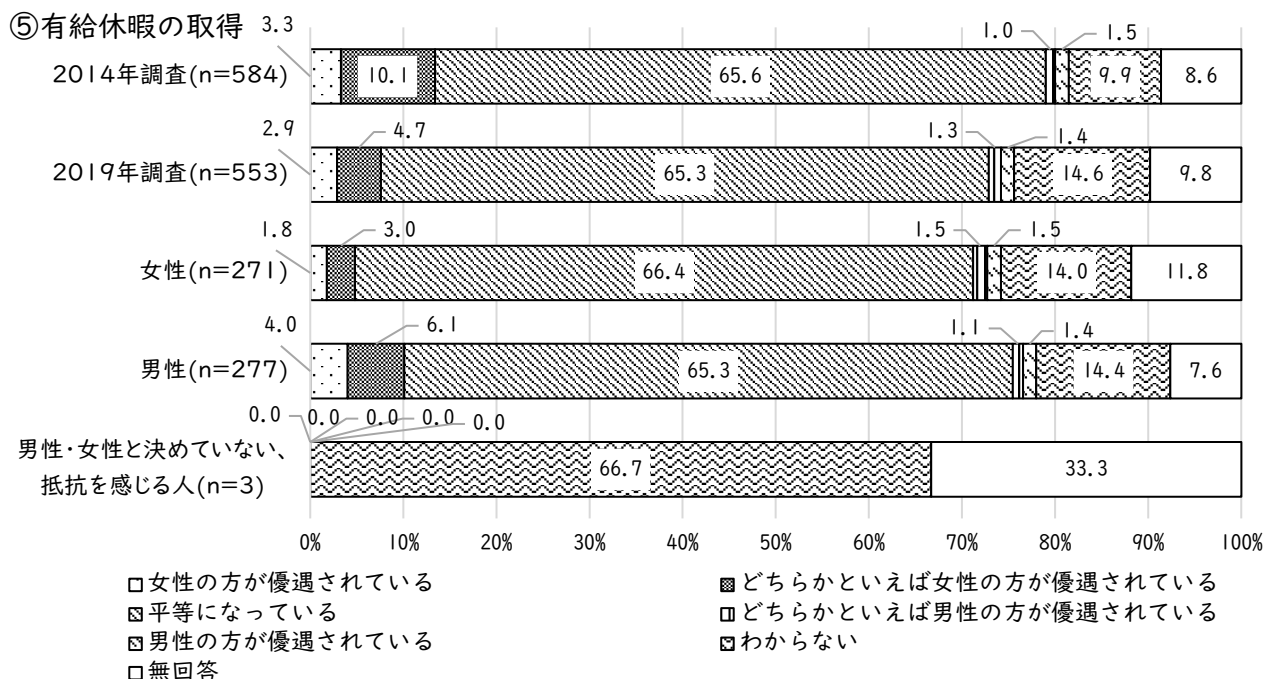
性別でみると、「平等になっている」について、女性は 42.4%と男性 49.5%より、7.1 ポイント低くなっています。



「⑤有給休暇の取得」

前回調査との比較では、『女性の方が優遇』について、2019 年調査が 7.6%と 2014 年調査 13.4%より 5.8 ポイント低くなっています。

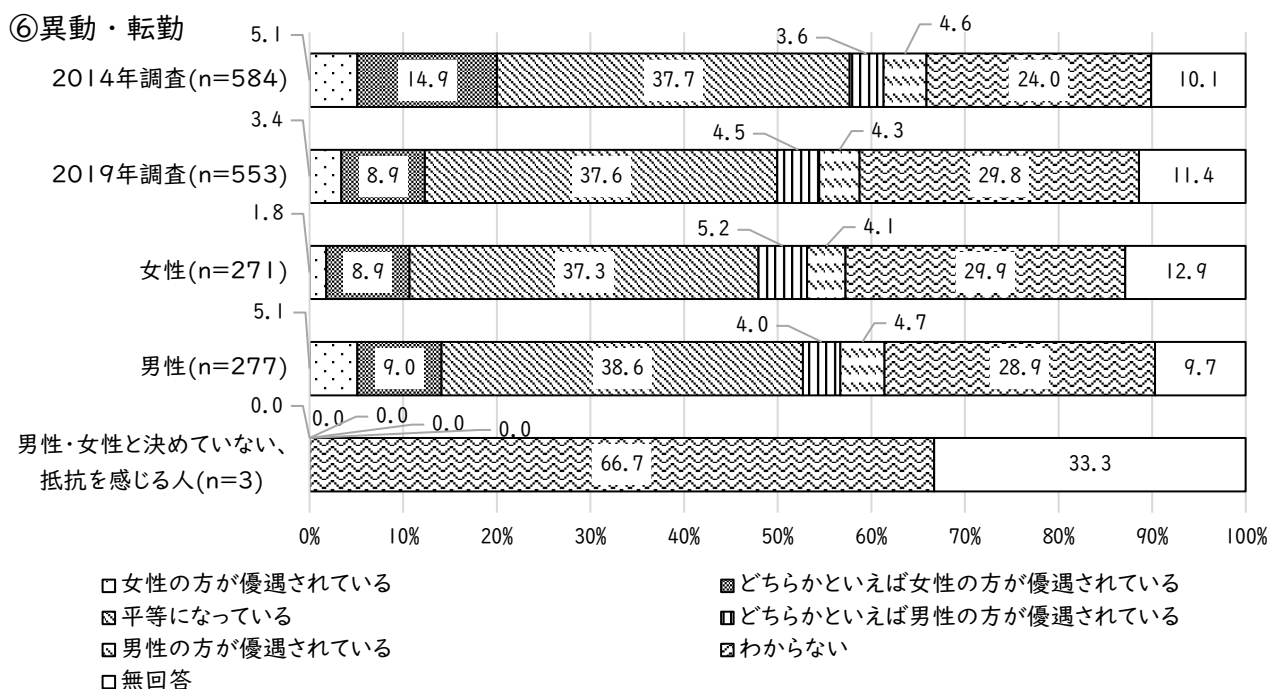
性別でみると、『女性の方が優遇』について、女性は 4.8%と男性 10.1%より、5.3 ポイント低くなっています。



「⑥異動・転勤」

前回調査との比較では、『女性の方が優遇』について、2019 年調査が 12.3%と 2014 年調査 20.0%より 7.7 ポイント低くなっています。

性別でみると、『女性の方が優遇』について、女性は 10.7%と男性 14.1%より、3.4 ポイント低くなっています。

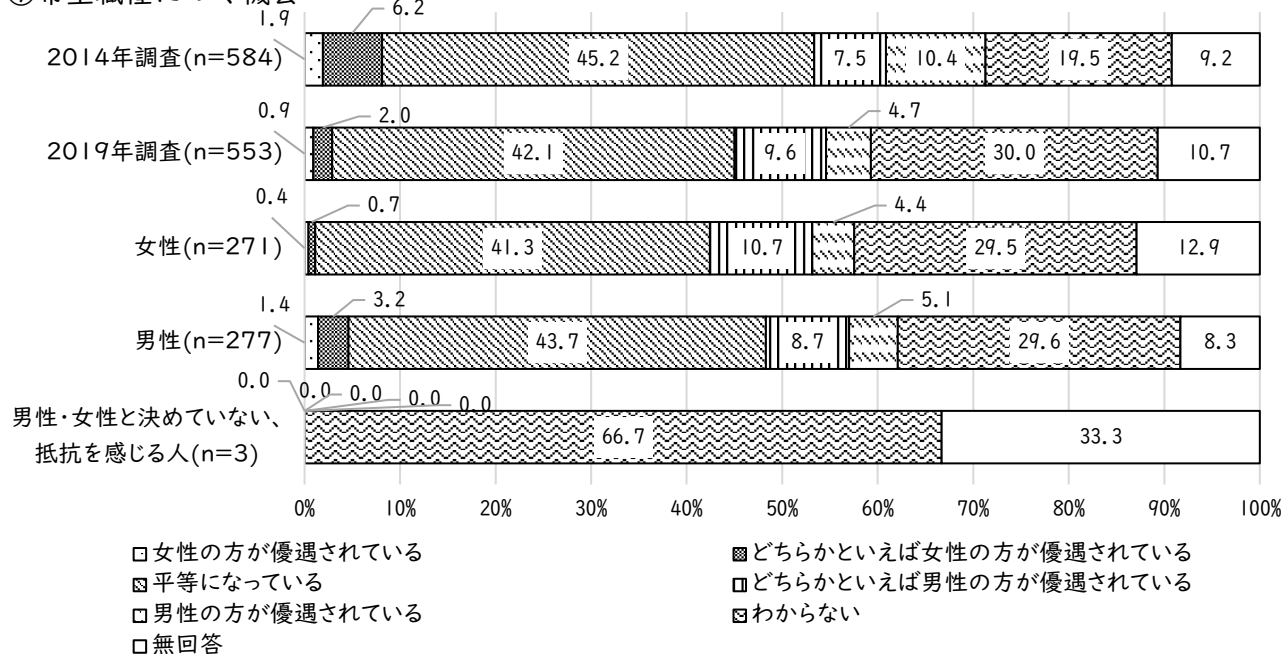


「⑦希望職種につく機会」

前回調査との比較では、『女性の方が優遇』について、2019 年調査が 2.9%と 2014 年調査 8.1%より 5.2 ポイント低くなっています。

性別でみると、『女性の方が優遇』について、女性は 1.1%と男性 4.6%より 3.5 ポイント低くなっています。

⑦希望職種につく機会

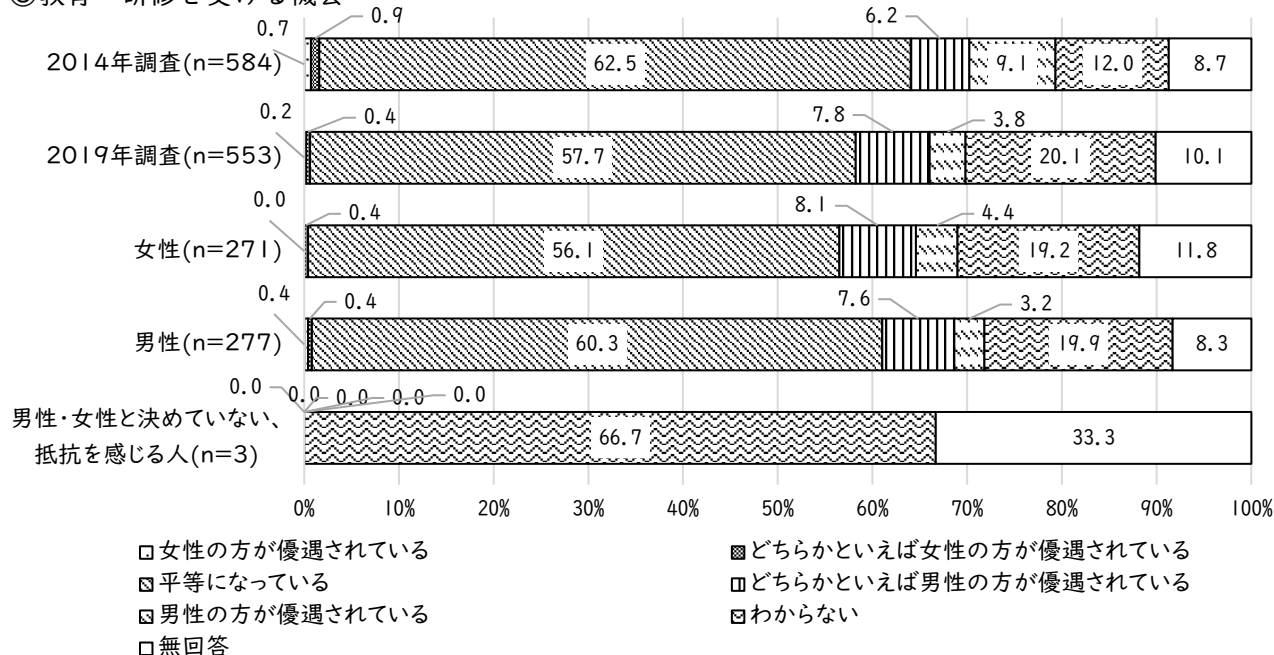


「⑧教育・研修を受ける機会」

前回調査との比較では、「平等になっている」について、2019 年調査が 57.7%と 2014 年調査 62.5%より 4.8 ポイント低くなっています。

性別でみると、「平等になっている」について、女性は 56.1%と男性 60.3%より、4.2 ポイント低くなっています。

⑧教育・研修を受ける機会

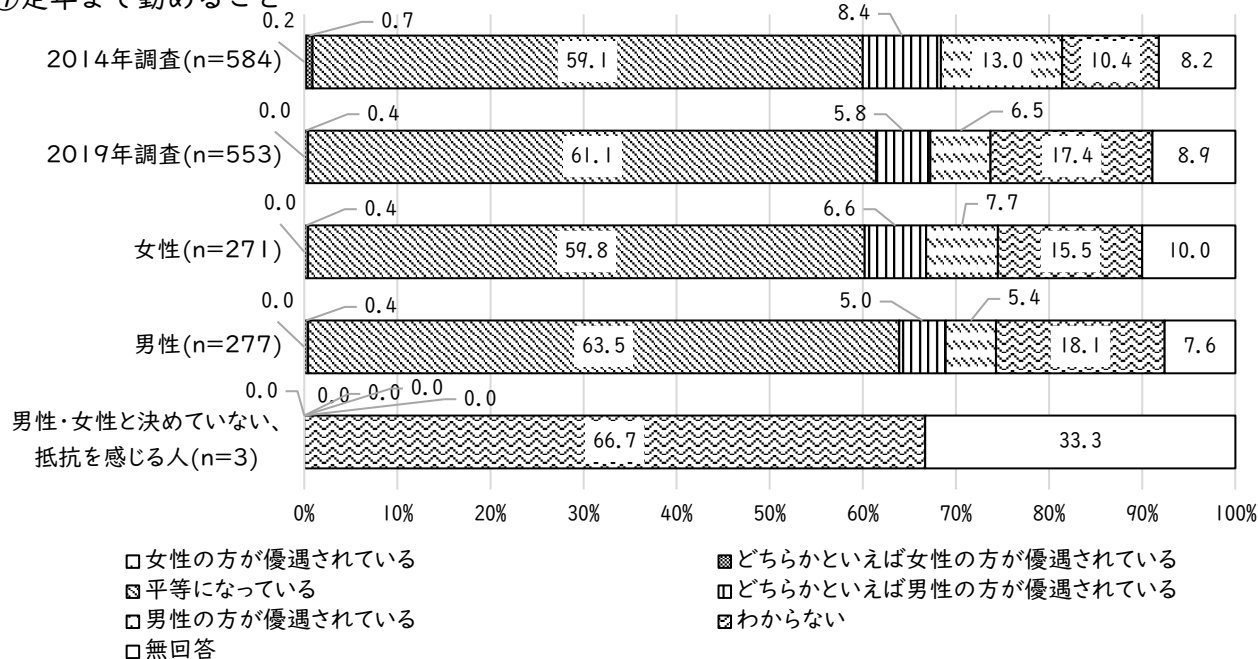


「⑨定年まで勤めること」

前回調査との比較では、『男性の方が優遇』について、2019 年調査が 12.3%と 2014 年調査 21.4%より 9.1 ポイント低くなっています。

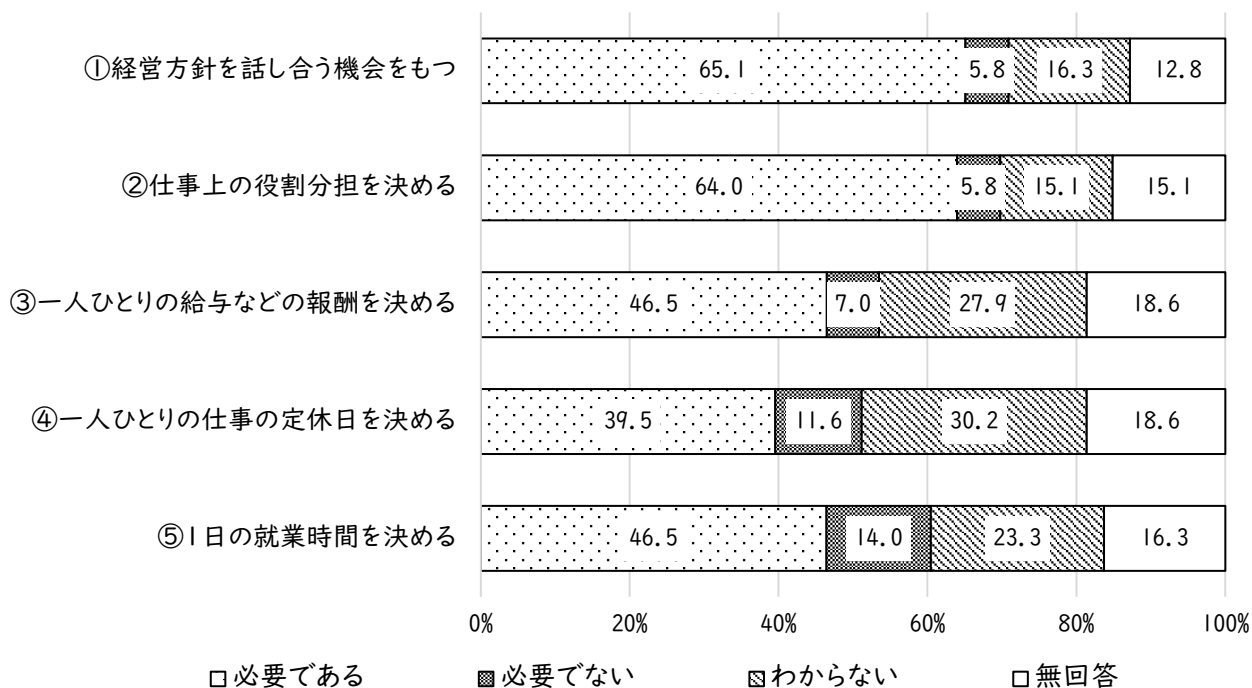
性別でみると、「平等になっている」について、女性は 59.8%と男性 63.5%より 3.7 ポイント低くなっています。

⑨定年まで勤めること



問24 問4で「4」または「5」に○印をつけた方のうち、家族で経営している方におたずねします。あなたは、家族間で①～⑤の項目について必要だと思いますか。(n=86)

問4で「4」または「5」のいずれかに○印をつけた方のうち、家族で経営している86人(農林水産業36人、商工・サービス業50人)に聞きました。①～⑤すべての項目で「必要である」が最も割合が高くなっています。

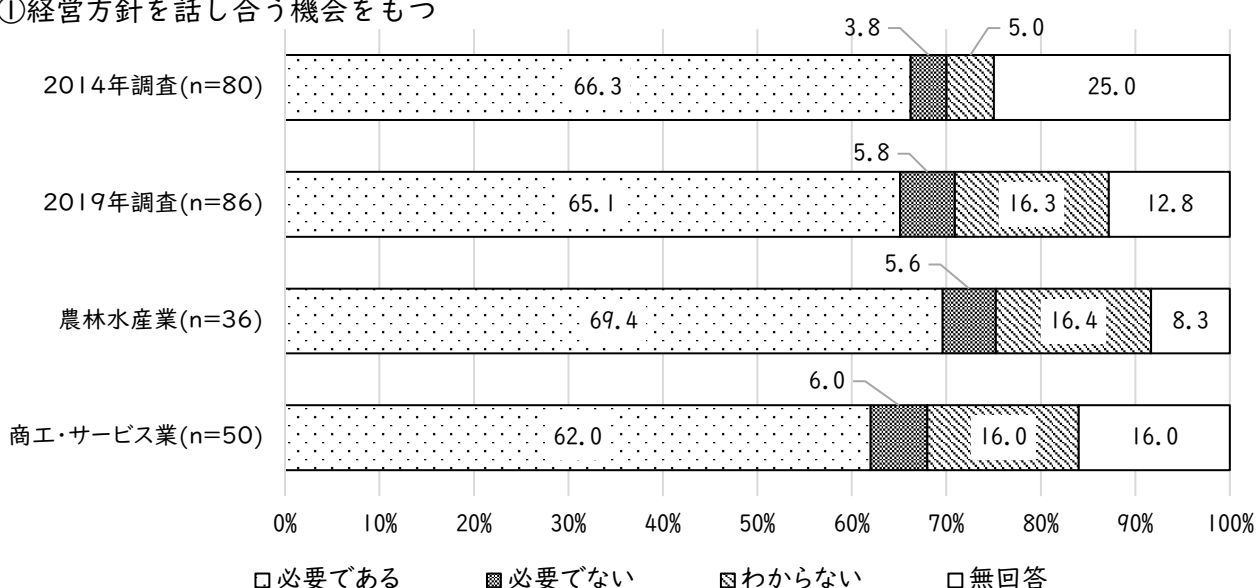


「①経営方針を話し合う機会をもつ」

前回調査との比較では、「わからない」について、2019年調査16.3%と2014年調査5.0%より11.3ポイント高くなっています。

就業状況別でみると、「必要である」について、農林水産業は69.4%と商工・サービス業62.0%より、7.4ポイント高くなっています。

①経営方針を話し合う機会をもつ

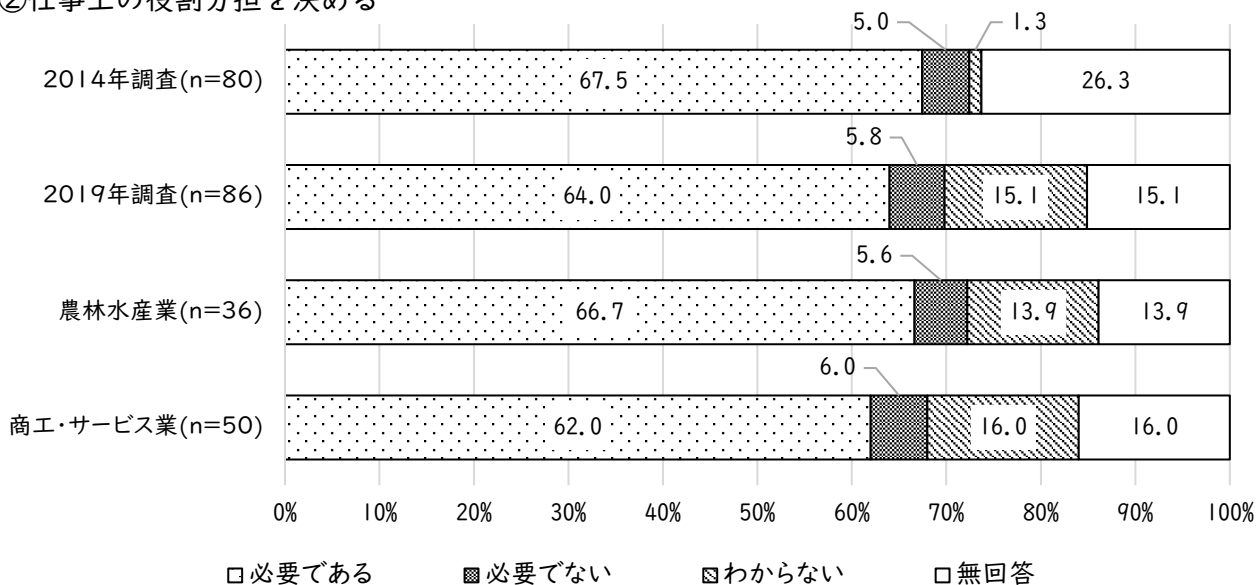


「②仕事上の役割分担を決める」

前回調査との比較では、「必要である」について、2019年調査が64.0%と2014年調査67.5%より3.5ポイント低くなっています。

就業状況別でみると、「必要である」について、農林水産業は66.7%と商工・サービス業62.0%より4.7ポイント高くなっています。

②仕事上の役割分担を決める

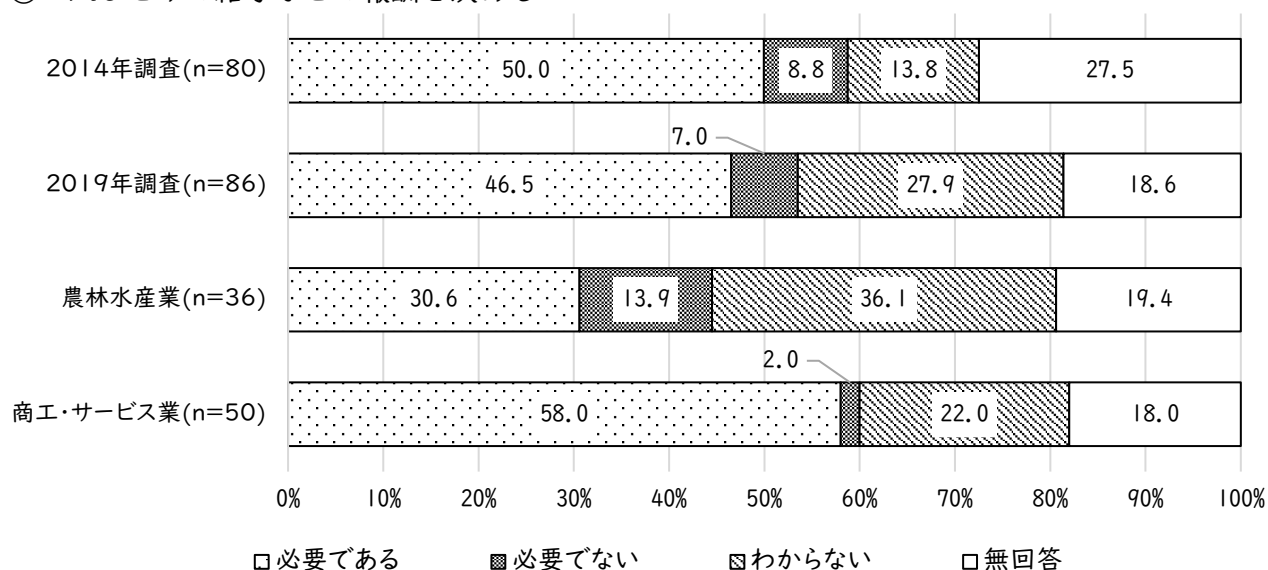


「③一人ひとりの給与などの報酬を決める」

前回調査との比較では、「必要である」について、2019年調査が46.5%と2014年調査50.0%より3.5ポイント低くなっています。

就業状況別でみると、「必要である」について、農林水産業は30.6%と商工・サービス業58.0%より27.4ポイント低くなっています。

③一人ひとりの給与などの報酬を決める

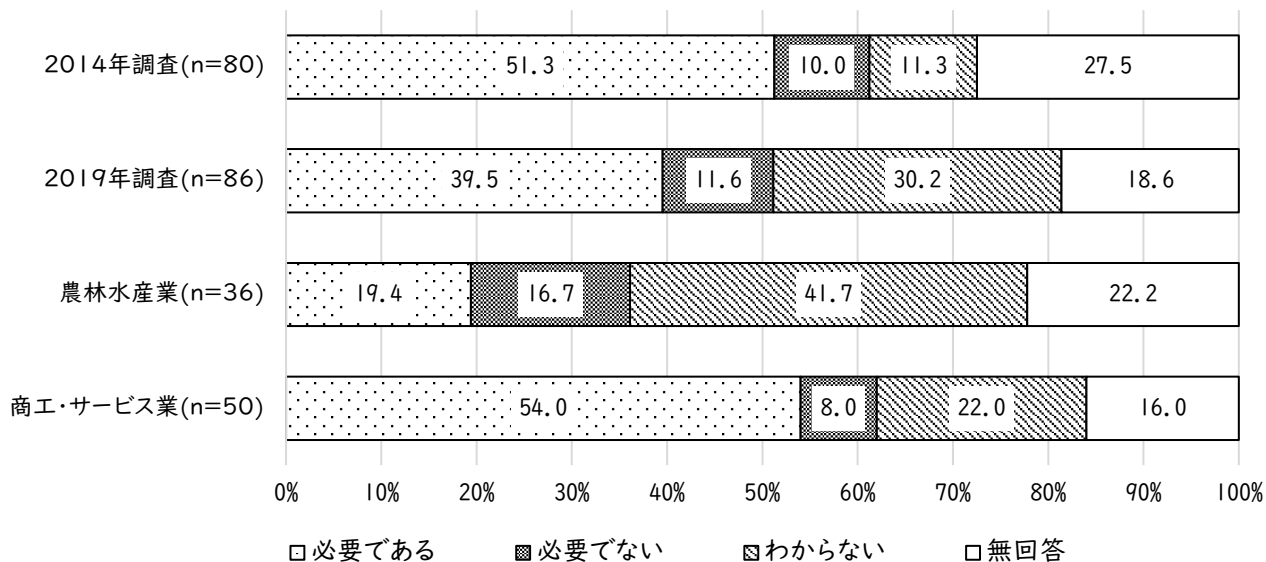


「④一人ひとりの仕事の定休日を定める」

前回調査との比較では、「必要である」について、2019年調査が39.5%と2014年調査51.3%より11.8ポイント低くなっています。

就業状況別でみると、「必要である」について、農林水産業は19.4%と商工・サービス業54.0%より、34.6ポイント低くなっています。

④一人ひとり仕事の定休日を定める

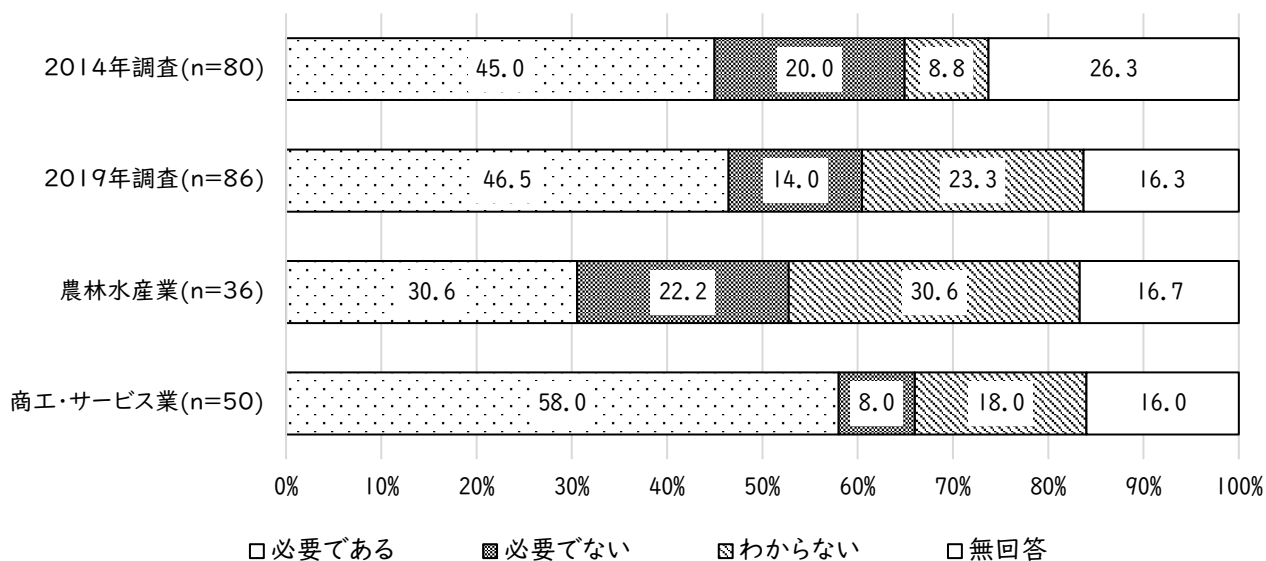


「⑤1日の就業時間を定める」

前回調査との比較では、「必要でない」について、2019年調査が14.0%と2014年調査20.0%より6.0ポイント低くなっています。

就業状況別でみると、「必要である」について、農林水産業は30.6%と商工・サービス業58.0%より、27.4ポイント低くなっています。

⑤1日の就業時間を定める

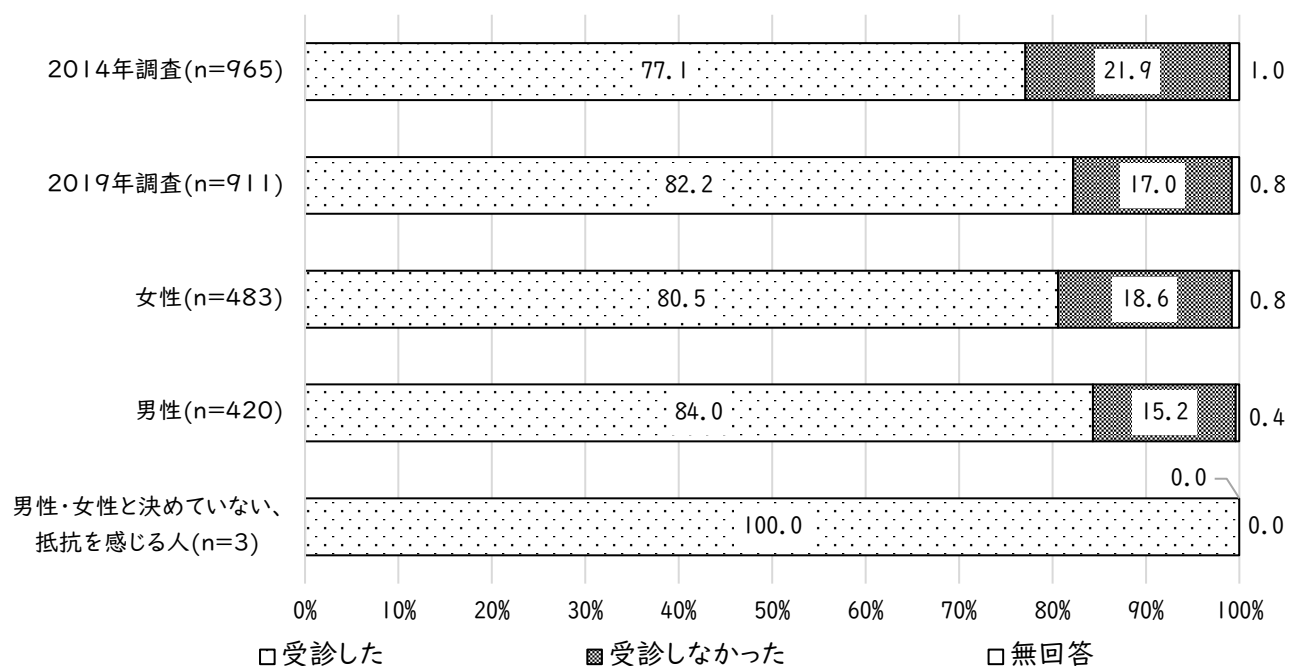


6.心とからだについて

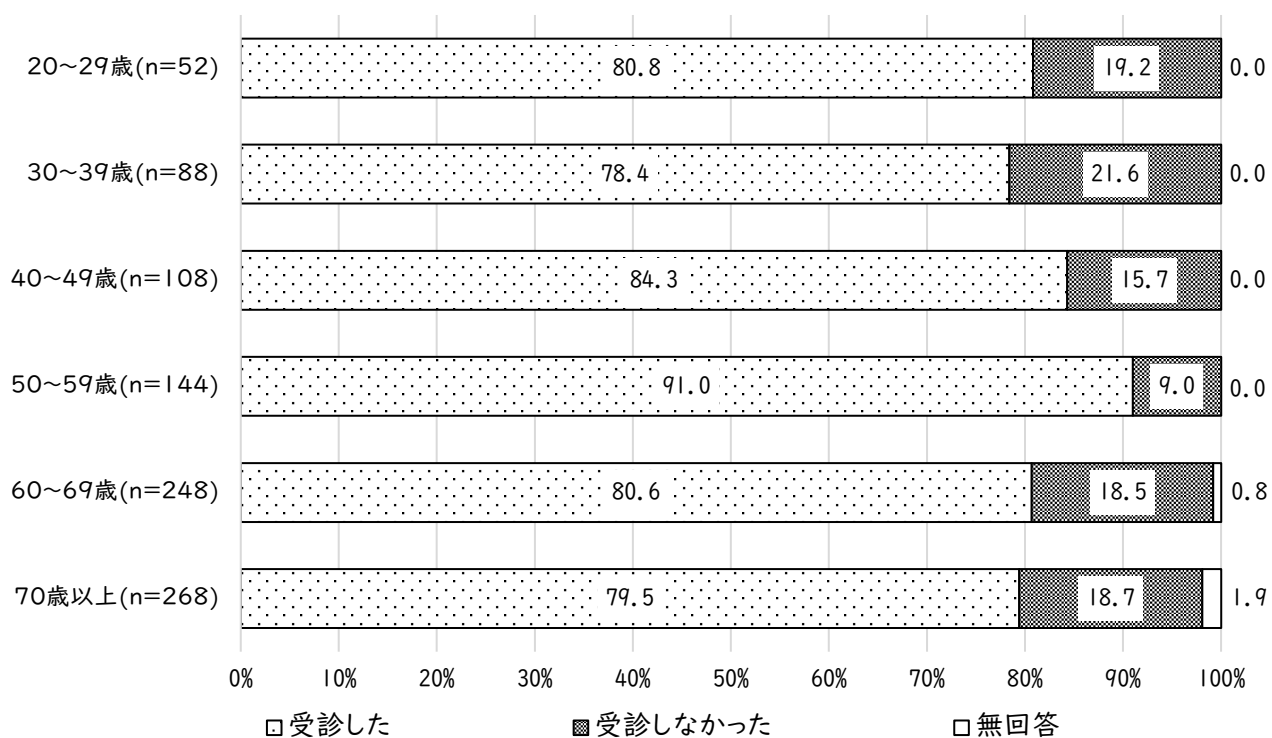
問25 あなたは2018(平成30)年度[2018(平成30)年4月～2019(平成31)年3月]の1年間で、健康診断を受診しましたか。

全体では、「受診した」の割合が82.2%、「受診しなかった」の割合が17.0%となっています。

前回調査との比較では「受診した」について、2019年調査が82.2%と2014年調査77.1%より5.1ポイント高くなっています。



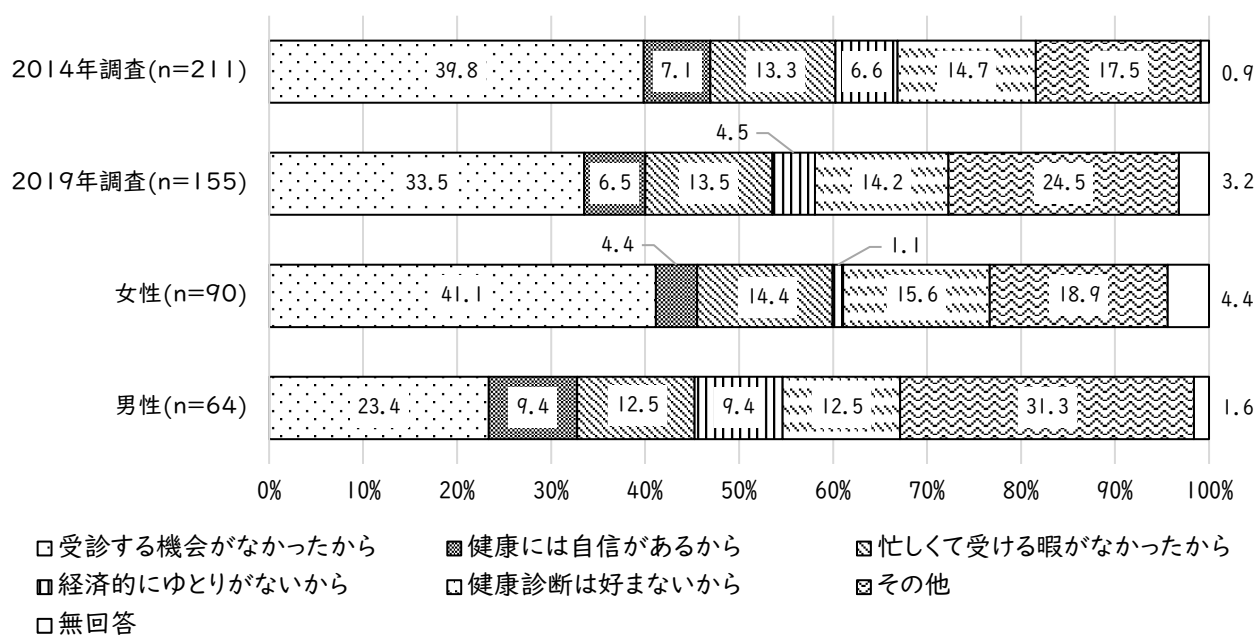
年齢別でみると、「受診した」の割合が50歳代で9割を超えています。一方、30歳代で「受診しなかった」が2割を超えています。



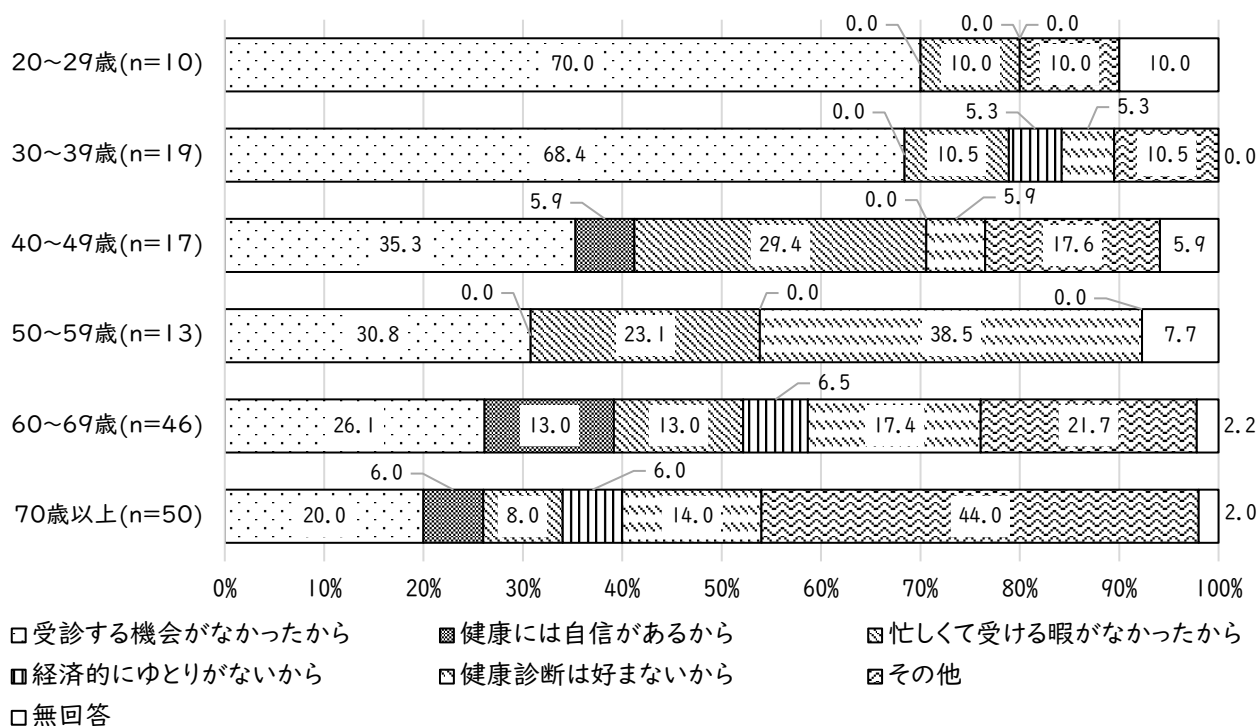
問26 問25で「2.受診しなかった」に○印をつけた方におたずねします。なぜ、受診しなかったのですか。(n=155)

問25で「2.受診しなかった」に○印をつけた155人(女性90人、男性64人、性別無回答1人)に、理由を聞きました。全体で最も割合が高いのは「受診する機会がなかったから」が33.5%となっています。

性別でみると、女性では「受診する機会がなかったから」が41.1%と最も割合が高くなっています。男性では「その他」が31.3%と最も割合が高くなっています。



年齢別でみると、「受診する機会がなかったから」について、20歳代が70.0%と最も高く、70歳以上20.0%より50.0ポイント高くなっています。40歳代と50歳代は「忙しくて受ける暇がなかったから」が2割を超えています。

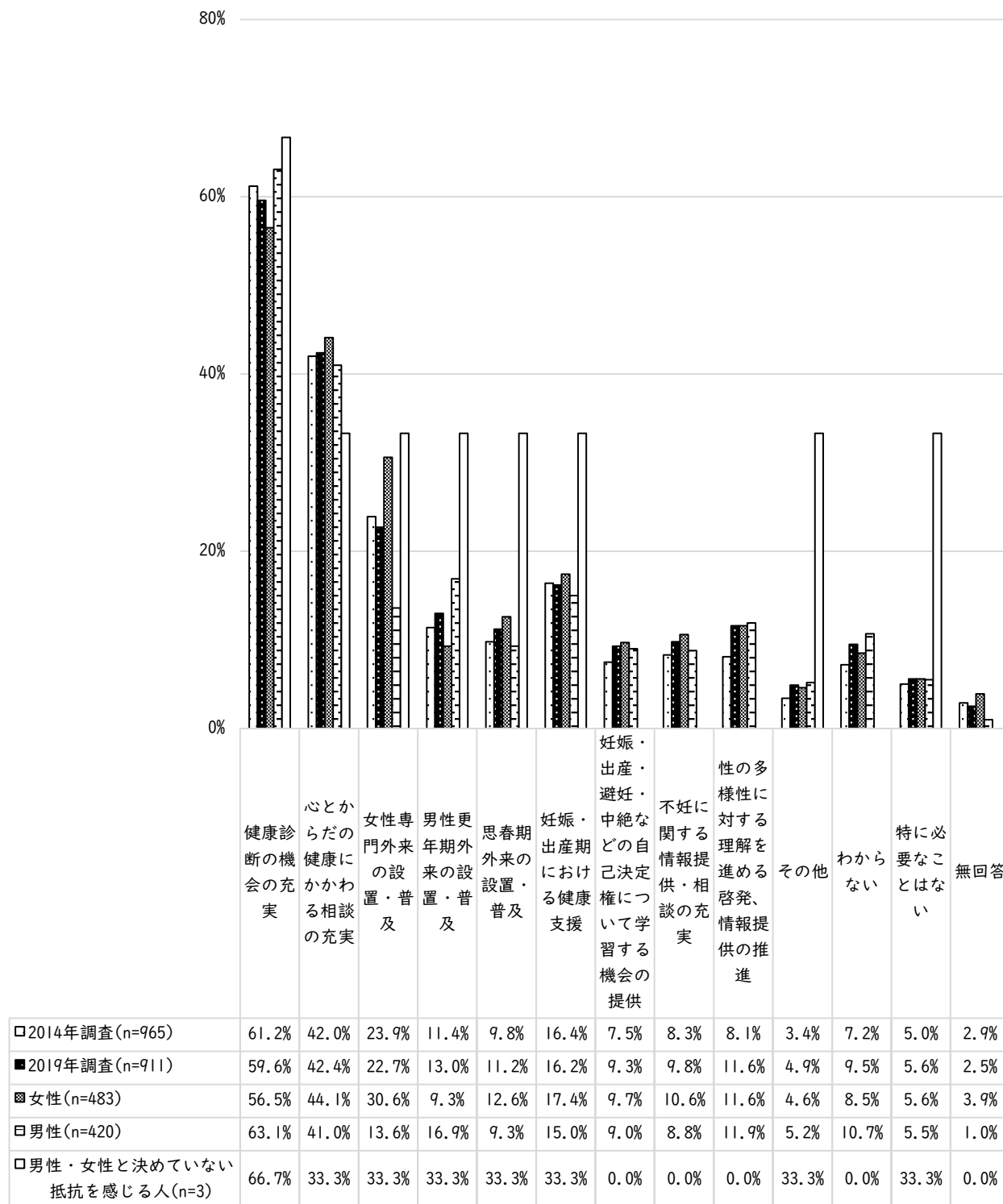


問27 あなたは、心とからだの健康のために、どのような取り組みが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

全体で最も割合が高いのは「健康診断の機会の充実」が 59.6%、次いで「心とからだの健康にかかわる相談の充実」が 42.4%となっています。

前回調査との差はありません。

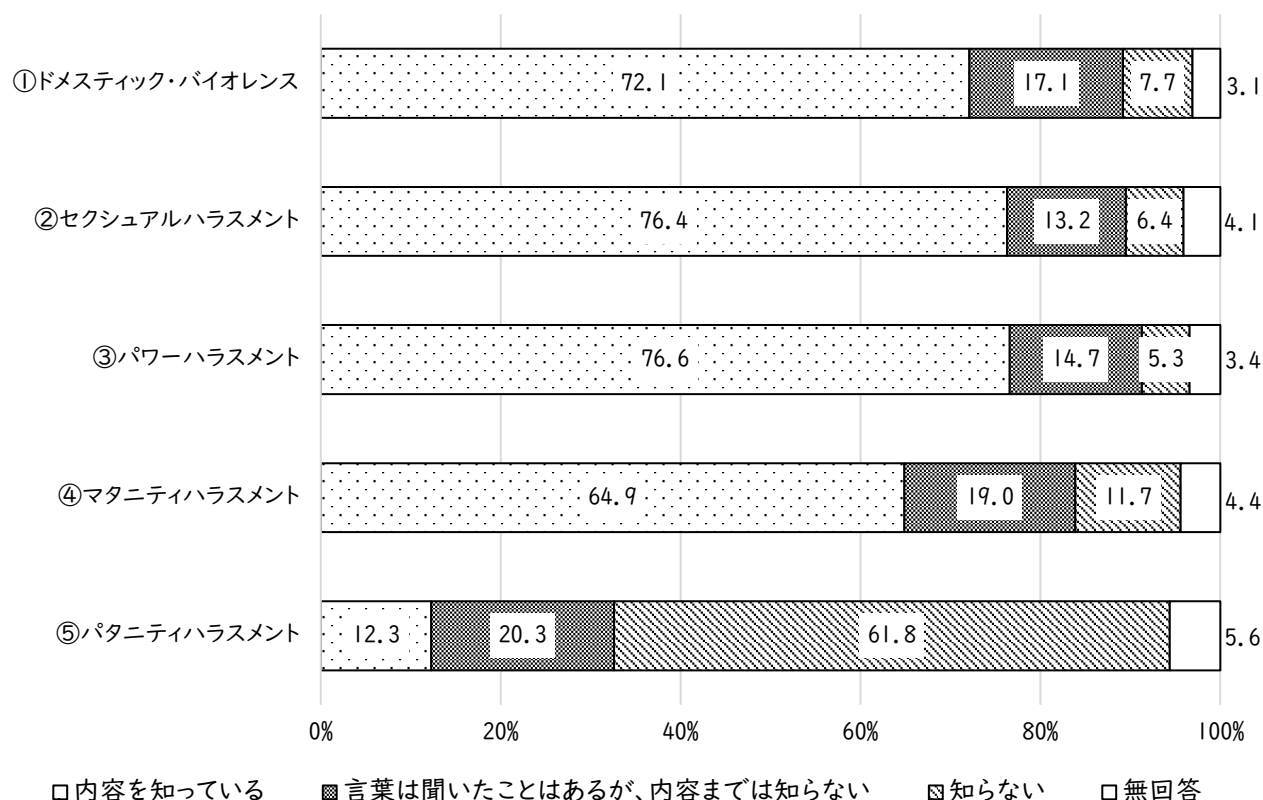
性別でみると、女性・男性とも「健康診断の機会の充実」が最も割合が高く、女性は 56.5%、男性は 63.1%となっています。さらに「女性専門外来の設置・普及」について、女性は 30.6%と男性 13.6%より 17.0 ポイント高くなっています。



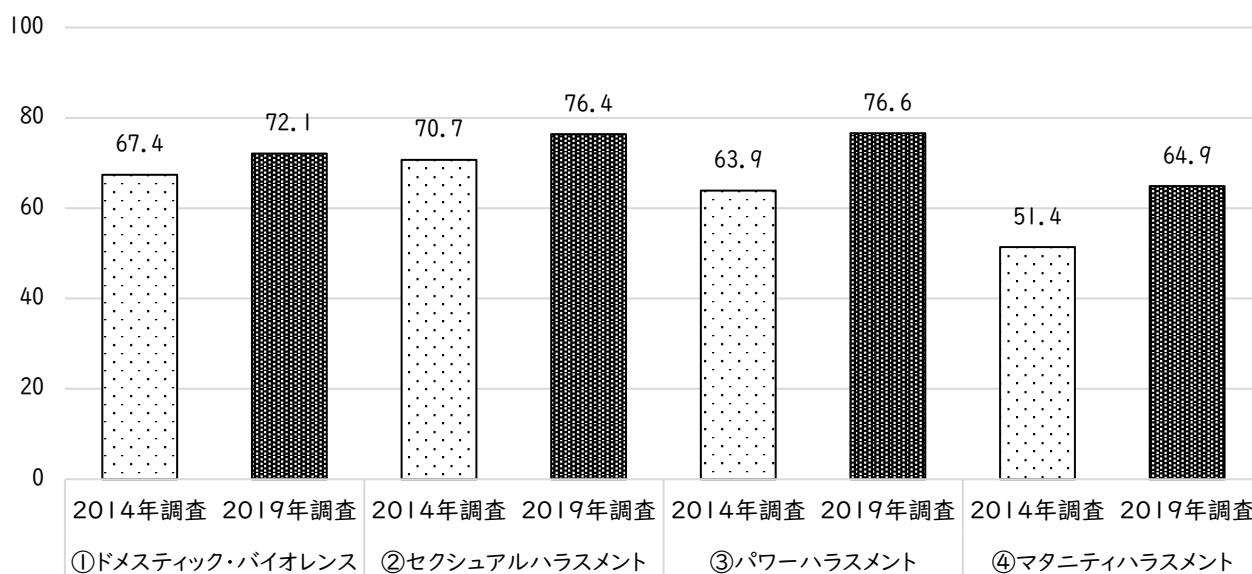
7.ドメスティック・バイオレンス(配偶者・恋人からの暴力)について

問28 あなたは、次の言葉についてご存じですか。

言葉の認知度について、①ドメスティック・バイオレンス、②セクシュアルハラスメント、③パワーハラスメントでは、「内容を知っている」が最も割合が高く7割を超えています。一方、⑤パタニティハラスメントは、「知らない」が最も割合が高く61.8%となっています。



前回調査との比較では、①～④の項目での「内容を知っている」について、2019年調査が2014年調査よりすべて割合が高くなっています。③パワーハラスメントと④マタニティハラスメントは10ポイント以上認知度が高くなっています。なお、⑤パタニティハラスメントは2019年調査より新たに追加した項目のため比較していません。

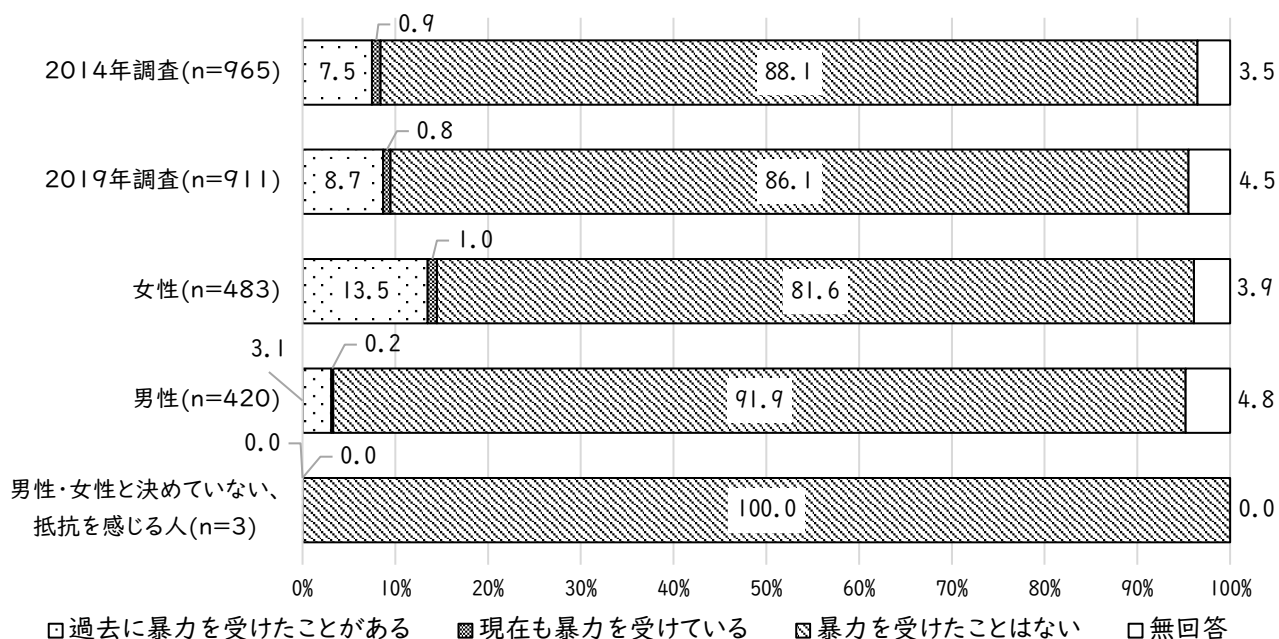


問29 あなたはドメスティック・バイオレンス(配偶者や恋人など親密な関係にある、又はあった者から振るわれる暴力)を受けた経験がありますか。

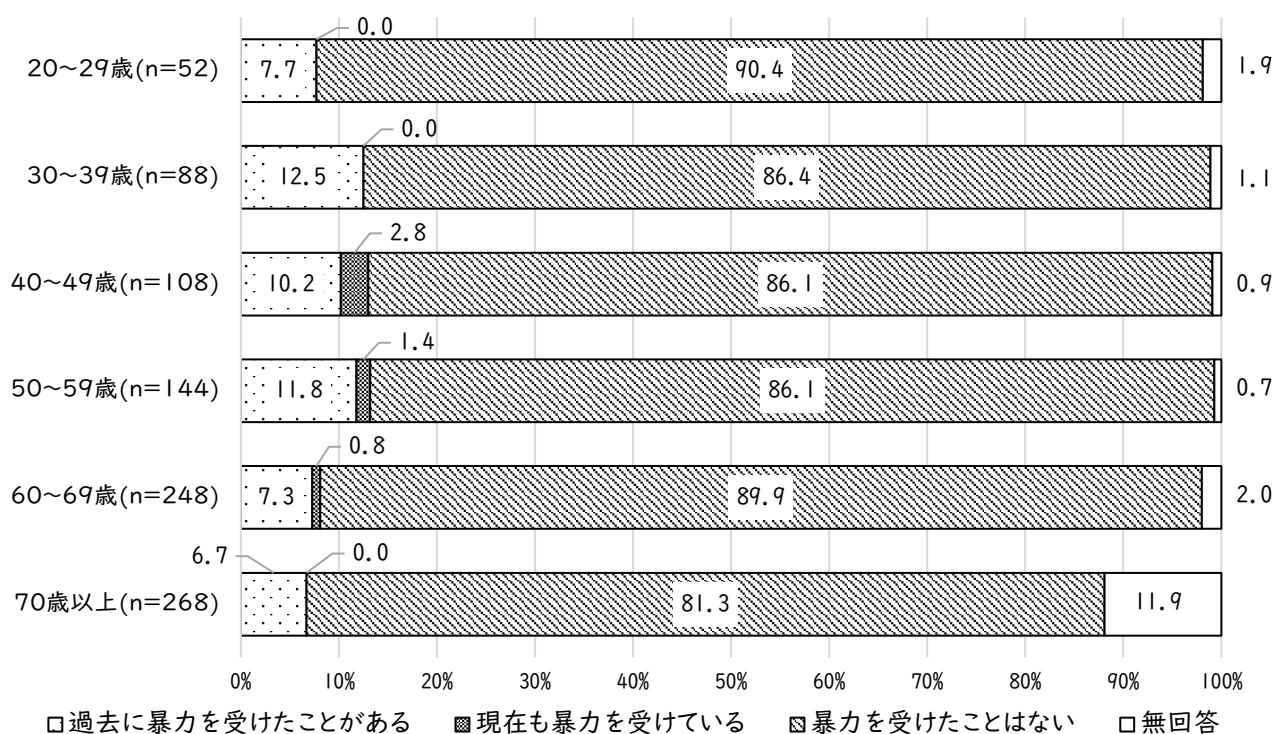
全体で最も割合が高いのは「暴力を受けたことはない」が 86.1%、次いで「過去に暴力を受けたことがある」が 8.7%となっています。

前回調査との差はありません。

性別でみると、「過去に暴力を受けたことがある」について、女性は 13.5%と男性 3.1%より 10.4 ポイント高くなっています。



年齢別でみると、すべての年代で「過去に暴力を受けたことがある」としており、30歳代から50歳代で1割を超えています。

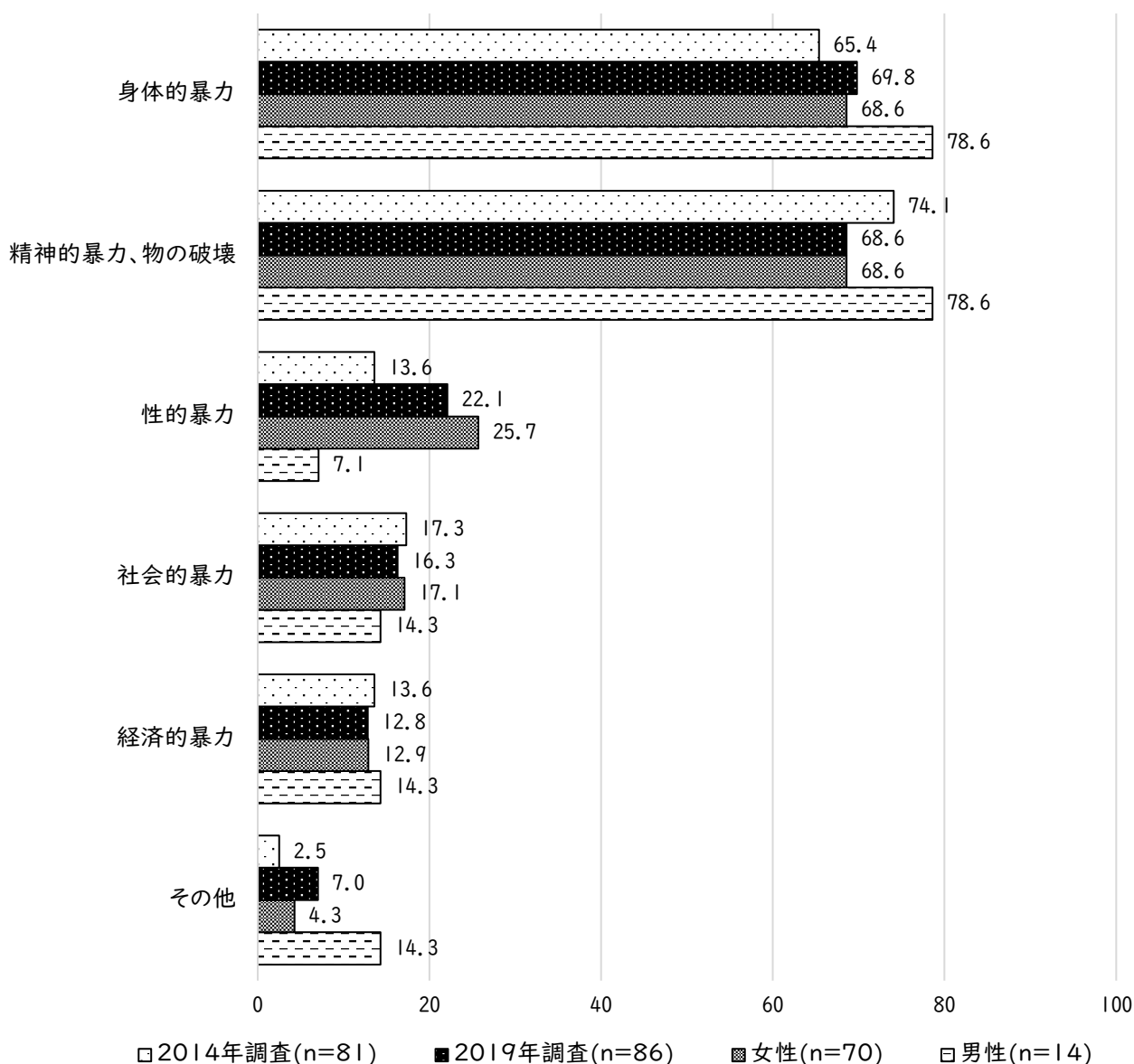


問30 問29で「1」または「2」に○印をつけた方におたずねします。あなたは、どんな暴力を受けましたか。(○はいくつでも) (n=86)

問29で「1」または「2」に○印をつけた86人(女性70人、男性14人、性別無回答2人)に、理由を聞きました。全体で最も割合が高いのは「身体的暴力」が69.8%、次いで「精神的暴力、物の破壊」が68.6%となっています。

前回調査との比較では、「性的暴力」について、2019年調査が22.1%と2014年調査13.6%より8.5ポイント高くなっています。

性別でみると、女性・男性とも「身体的暴力」「精神的暴力、物の破壊」が最も割合が高くなっています。また、「性的暴力」について、女性が25.7%と男性7.1%より、18.6ポイント高くなっています。

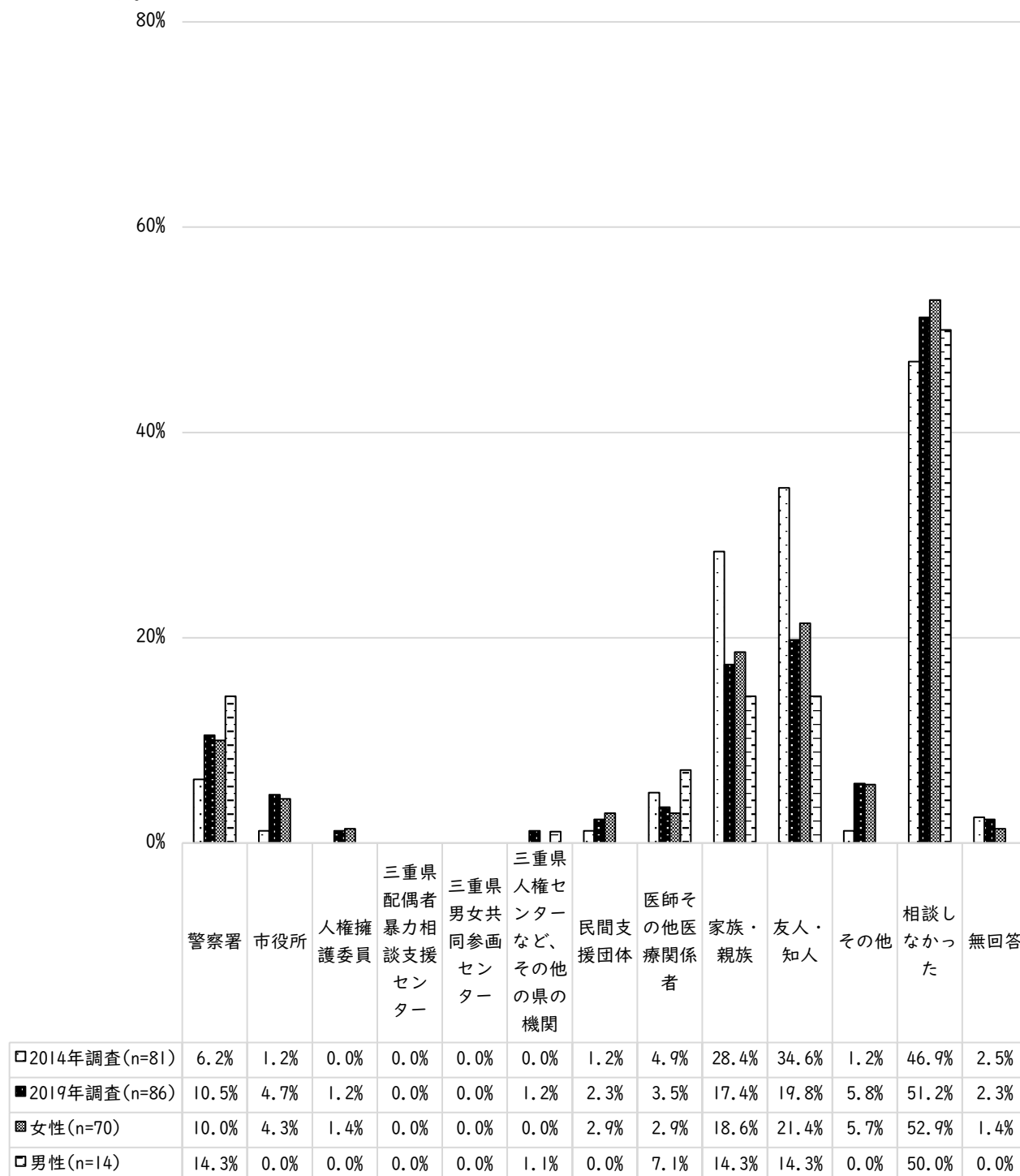


問31 問29で「1」または「2」に○印をつけた方におたずねします。あなたは、暴力を受けたとき誰に相談しましたか。(○はいくつでも) (n=86)

問29で「1」または「2」に○印をつけた86人(女性70人、男性14人、性別無回答2人)に、理由を聞きました。全体で最も割合が高いのは「相談しなかった」が51.2%、次いで「友人・知人」が19.8%となっています。

前回調査との比較では、「家族・親族」について、2019年調査が17.4%と2014年調査28.4%より11.0ポイント低くなっています。

性別でみると、女性・男性とも「相談しなかった」が最も割合が高く、女性は52.9%、男性は50.0%となっています。

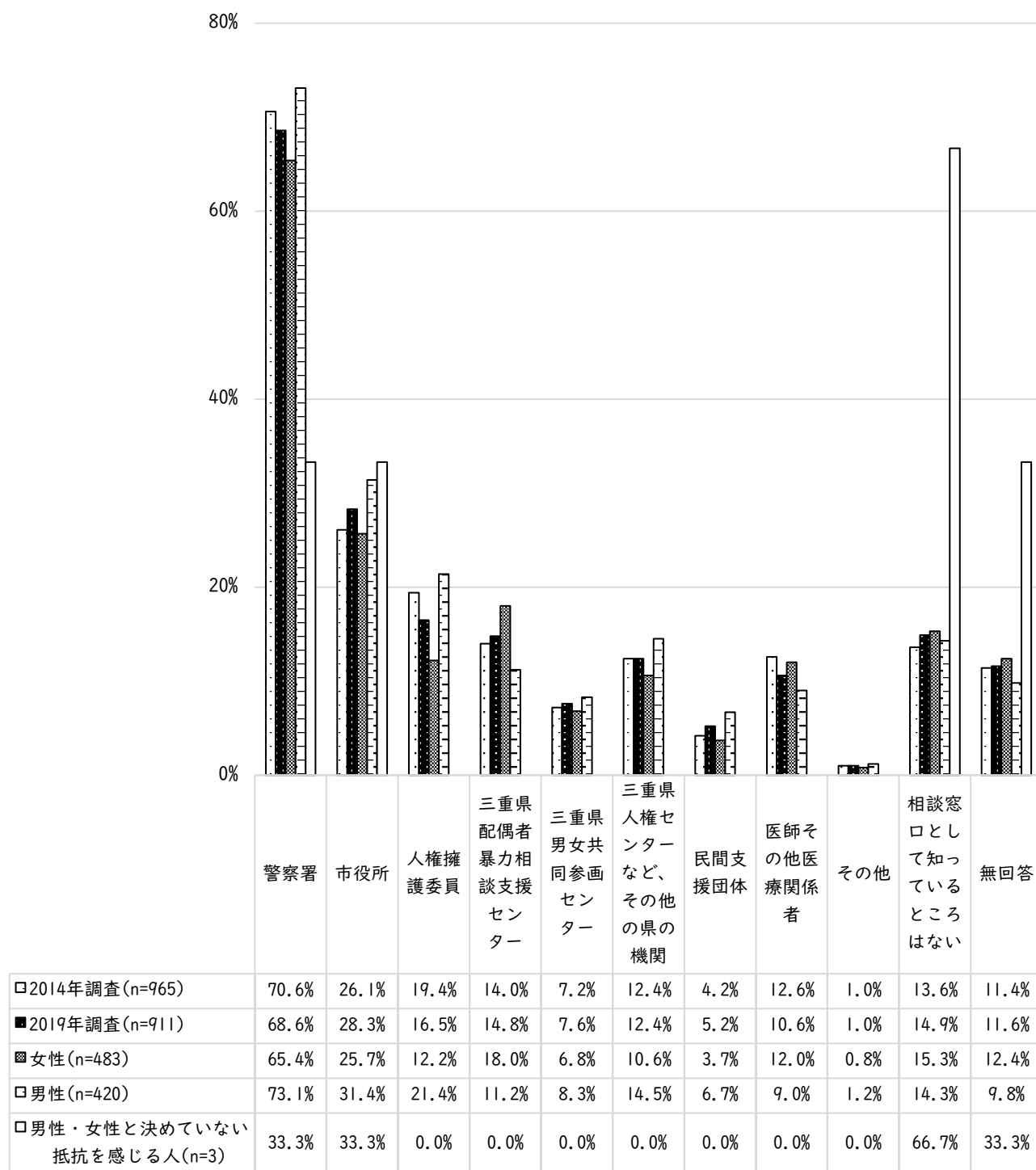


問32 ドメスティック・バイオレンス(配偶者や恋人など親密な関係にある、又はあった者から振るわれる暴力)を受けたとき相談できる機関や関係者のうち知っているものを次の中から選んでください。
(〇はいくつでも)

全体で最も割合が高いのは、「警察署」が68.6%、次いで「市役所」が28.3%となっています。

前回調査との差はありません。

性別でみると、女性・男性とも「警察署」が最も割合が高く、女性は65.4%、男性は73.1%となっています。

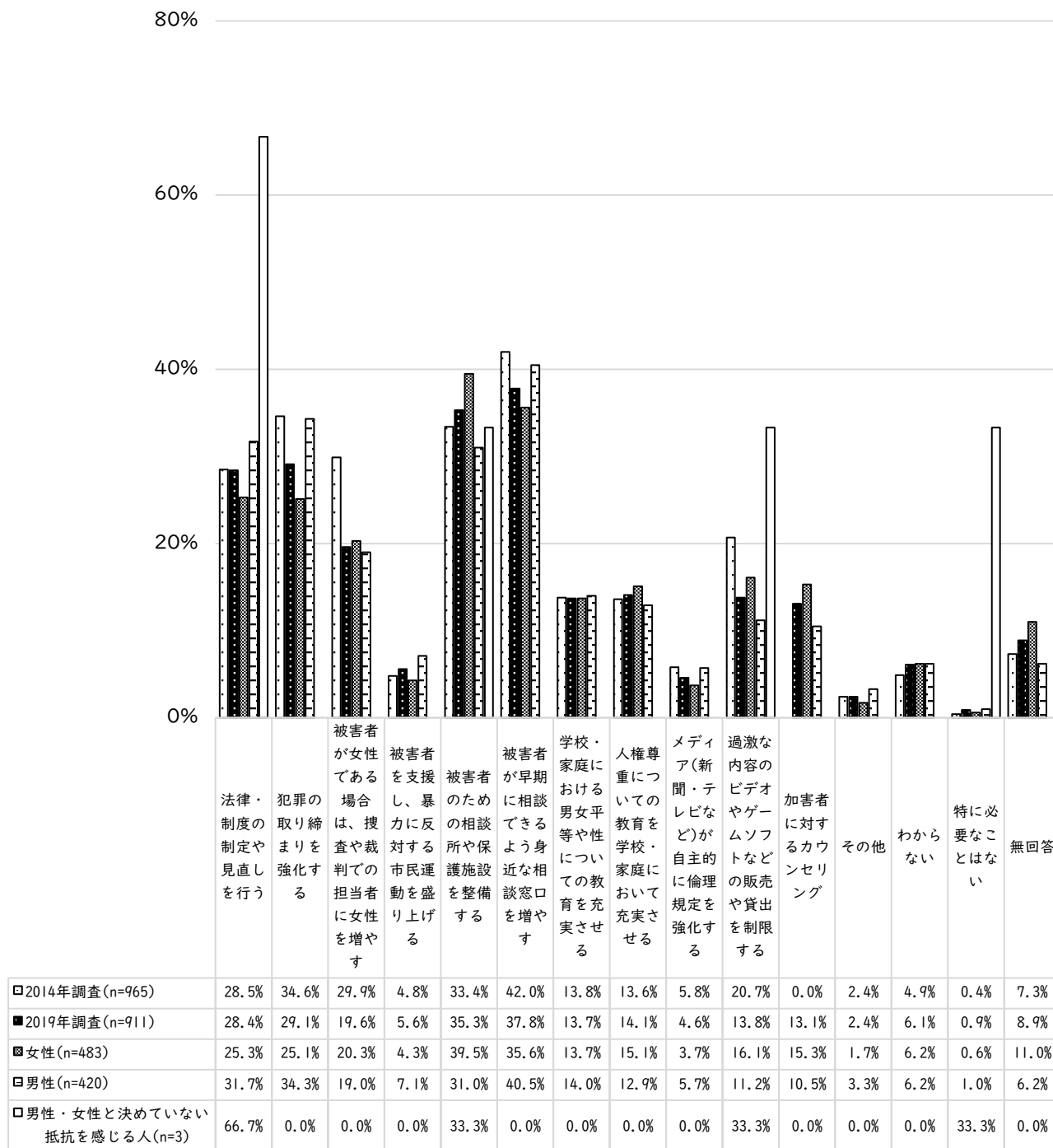


問33 性犯罪や売買春(いわゆる「援助交際」を含む)、ドメスティック・バイオレンス(配偶者や恋人など親密な関係にある、又はあった者から振るわれる暴力)などをなくすためにはどうしたらよいと思いますか。(〇は3つまで)

全体で最も割合が高いのは「被害者が早期に相談できるよう身近な相談窓口を増やす」が37.8%、次いで「被害者のための相談所や保護施設を整備する」が35.3%となっています。

前回調査との差はありません。なお、「加害者に対するカウンセリング」の項目は2019年調査より新たに追加した項目のため比較していません。

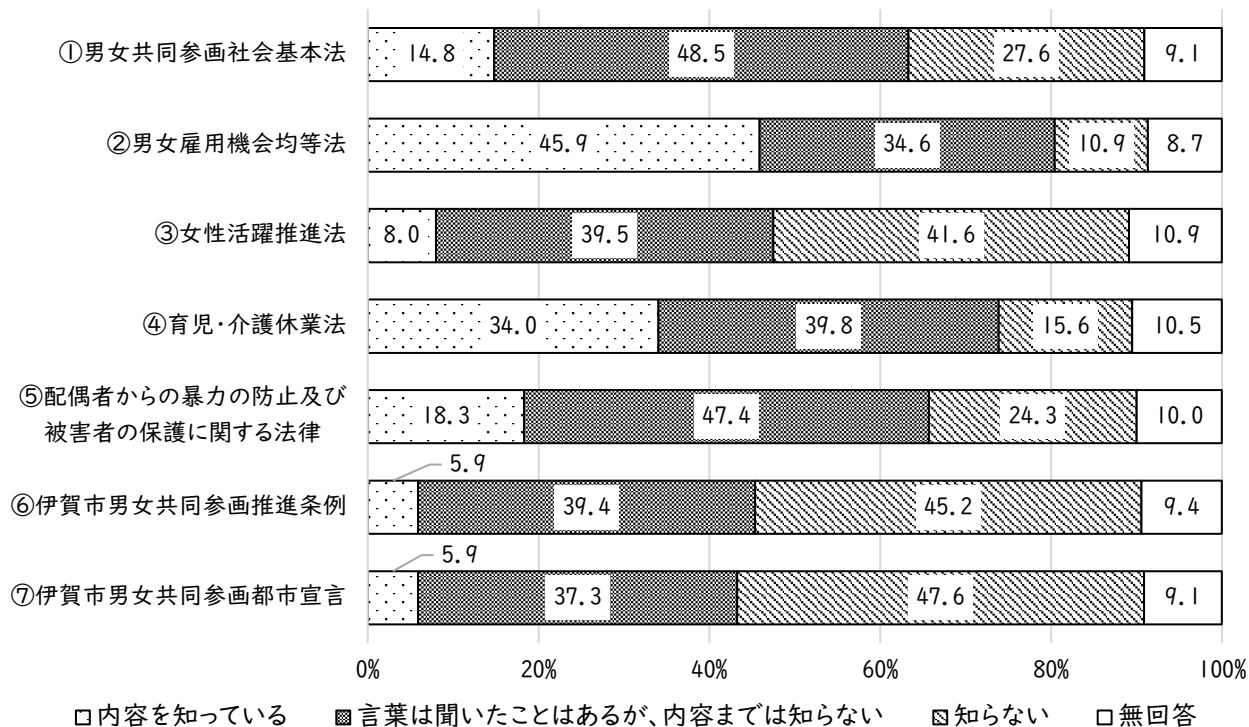
性別でみると、女性は「被害者のための相談所や保護施設を整備する」が39.5%と最も割合が高くなっています。男性では「被害者が早期に相談できるよう身近な相談窓口を増やす」が40.5%と最も割合が高くなっています。



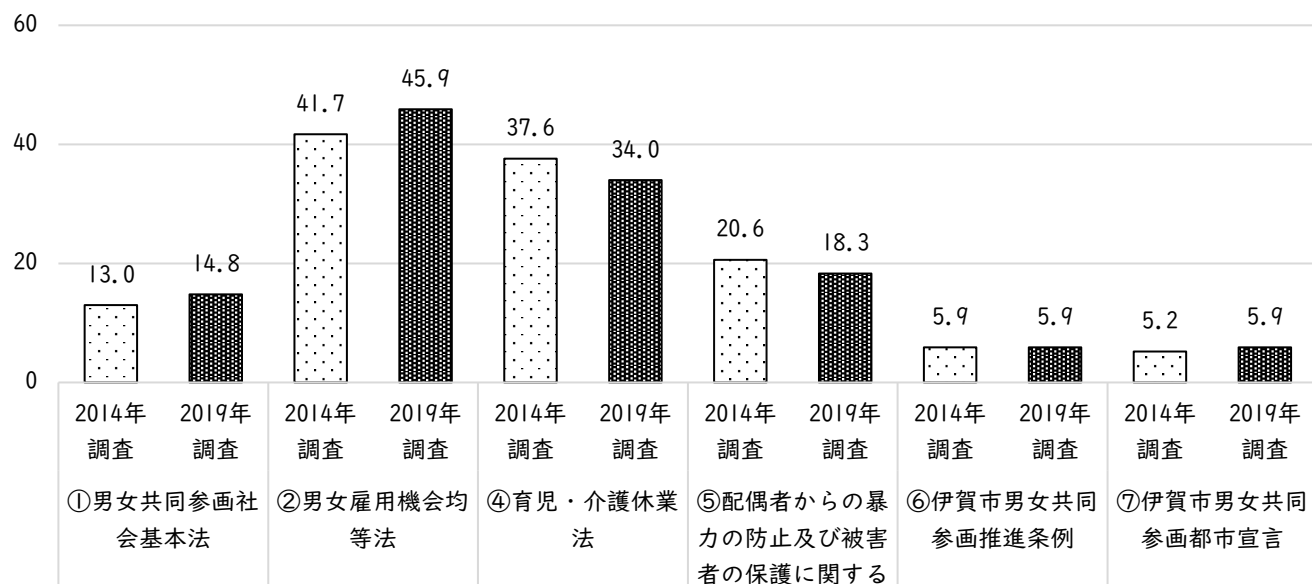
8.男女共同参画社会全般について

問34 あなたは、次の法律などについてご存じですか。

法律の認知度について、①男女共同参画社会基本法、④育児・介護休業法、⑤配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律は「言葉は聞いたことはあるが、内容までは知らない」が最も割合が高く、①48.5%、④39.8%、⑤47.4%となっています。②男女雇用機会均等法は「内容を知っている」が最も割合が高く45.9%となっています。③女性活躍推進法、⑥伊賀市男女共同参画推進条例、⑦伊賀市男女共同参画都市宣言は「知らない」が最も割合が高く、③41.6%、⑥45.2%、⑦47.6%と4割を超えています。

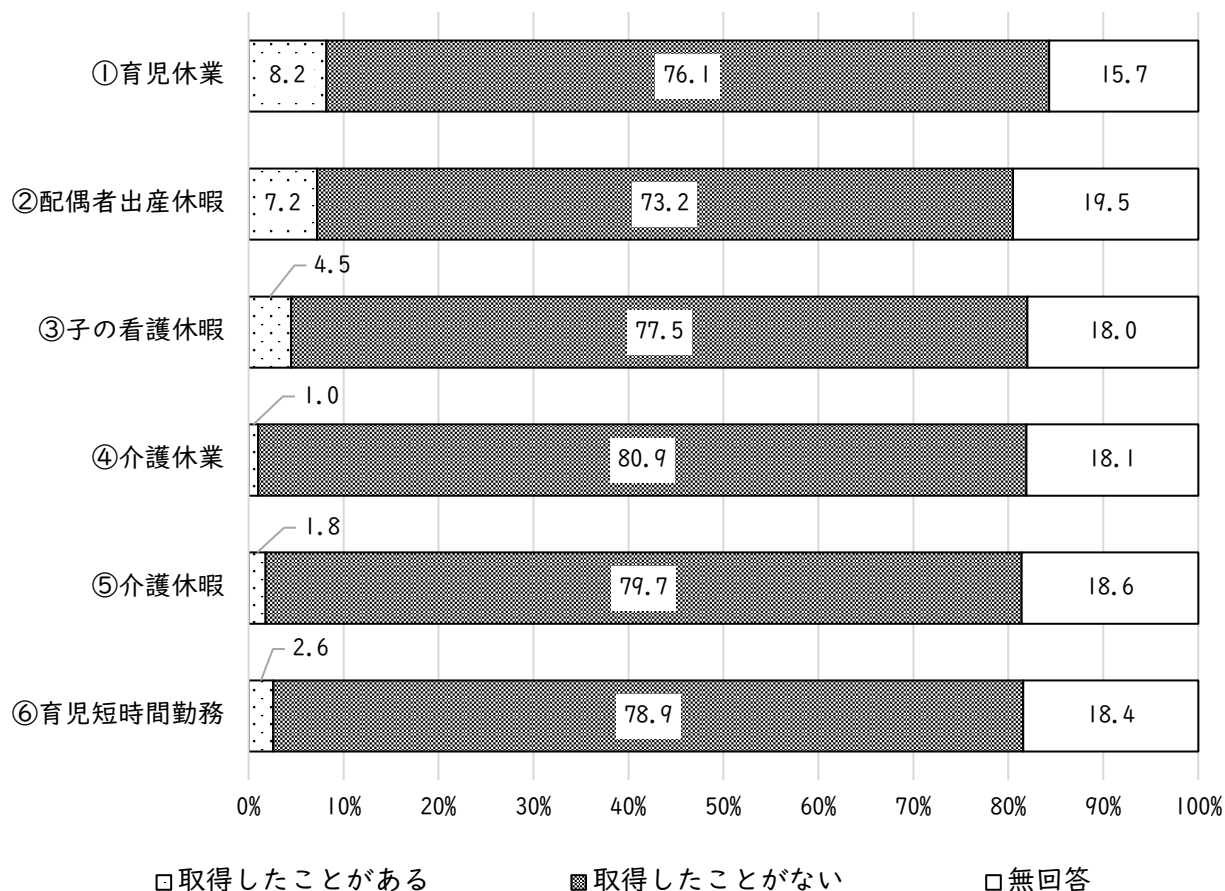


「内容を知っている」のみ前回調査と比較をすると、①②の項目について、2019年調査が2014年調査より若干割合が高くなっています。そのほかは大きな差はなく、法律の認知度は変化があまり見られません。なお、③女性活躍推進法は2019年調査より新たに追加した項目のため比較していません。

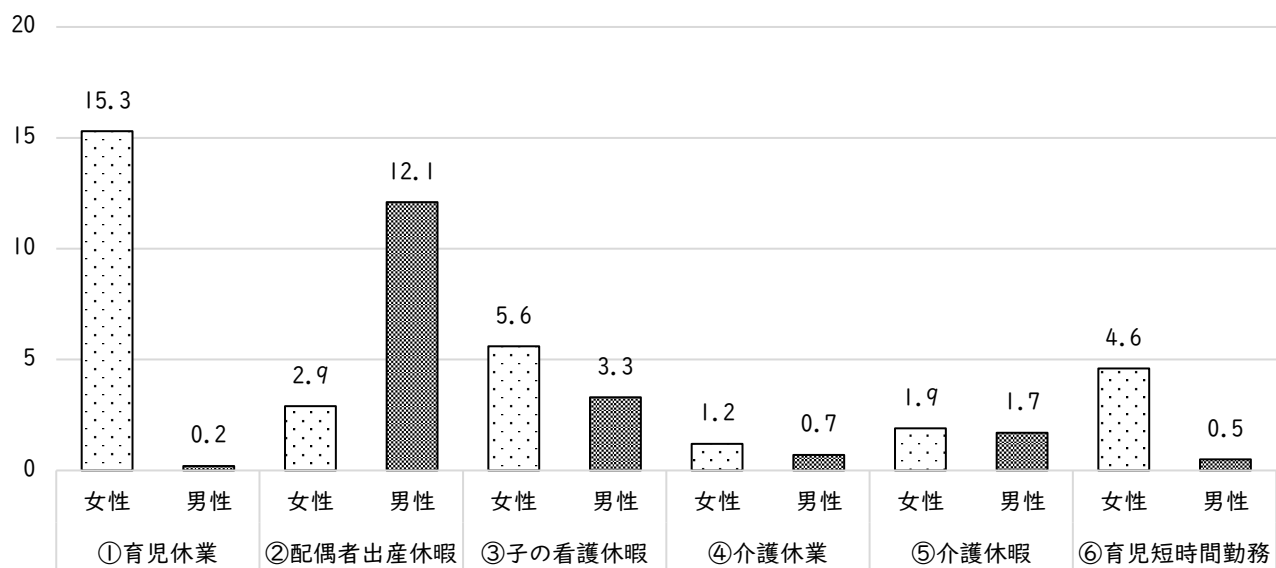


問35 あなたは、次の休暇・休業を取得したことがありますか。

休暇・休業を取得について、①～⑥の項目すべてにおいて「取得したことがない」が 7～8 割となっています。



「取得したことがある」を性別でみると、女性は、①育児休業の割合が 15.3%と、男性 0.2%より 15.1 ポイント高くなっています。また、③子の看護休暇、⑥育児短時間勤務の取得についても男性より女性のほうが高くなっています。



問35-1 問35で「①育児休業」および「④介護休業」いずれかを取得したことがある」に○印をつけた方におたずねします。それぞれの取得した期間はどれくらいですか。(記述)

①育児休業「取得したことがある」75名の内、65名が期間を記述、10名は無回答
最長は3年、最短は2週間となっています。

最も多く記述のあった期間は1年、次いで10か月となっています。

期間	～6か月	6か月 ～1年	1年 ～1年6か月	1年6か月 ～2年	2年 ～2年6か月	2年6か月 ～3年
回	19	45	1	5	1	2

④介護休業「取得したことがある」9名の内、7名が期間を記述、2名は無回答
最長は3か月、最短が2日となっています。

最も多く記述のあった期間は2か月となっています。

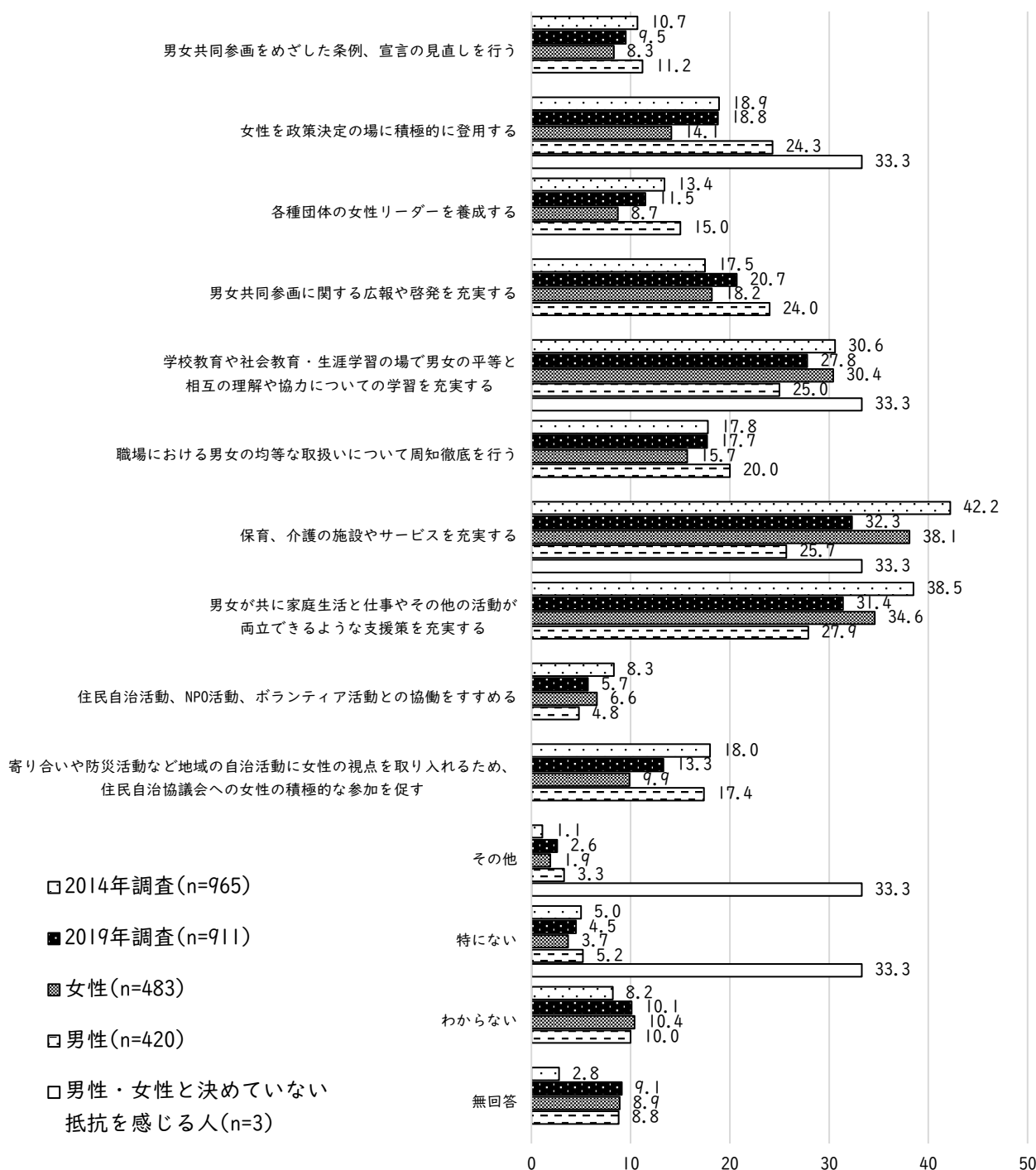
期間	～1週間	1週間 ～1か月	1か月 ～1か月半	1か月半 ～2か月	2か月～ ～3か月
回	2	0	1	3	1

問36 男女共同参画を推進していくために今後、伊賀市ではどのようなことに力を入れていけばよいと思いますか。(〇は3つまで)

全体で最も割合が高いのは、「保育、介護の施設やサービスを充実する」が32.3%、次いで「男女が共に家庭生活と仕事やその他の活動が両立できるような支援策を充実する」が31.4%となっています。

前回調査との比較では、「保育、介護の施設やサービスを充実する」について、2019年調査が32.3%と2014年調査42.2%より9.9ポイント低くなっています。

性別でみると、女性では「保育、介護の施設やサービスを充実する」が38.1%と最も割合が高くなっています。男性では「男女が共に家庭生活と仕事やその他の活動が両立できるような支援策を充実する」が27.9%と最も割合が高くなっています。



就業別でみると、正規雇用者で最も高い割合は「男女が共に家庭生活と仕事やその他の活動が両立できるような支援策を充実する」が 36.4%、次いで「保育、介護の施設やサービスを充実する」が 34.8%となっています。非正規雇用者で最も高い割合は「保育、介護の施設やサービスを充実する」が 37.4%となっています。学生で最も高い割合は「学校教育や社会教育・生涯学習の場で男女平等と相互の理解や協力についての学習を充実する」が 45.5%、次いで「女性を政策決定の場に積極的に登用する」「**保育、介護の施設やサービスを充実する**」各 36.4%となっています。

	男女共同参画をめざした条例、宣言の見直しを行う	女性を政策決定の場に積極的に登用する	各種団体の女性リーダーを養成する	男女共同参画に関する広報や啓発を充実する	学校教育や社会教育・生涯学習の場で男女平等と相互の理解や協力についての学習を充実する	職場における男女の均等な取扱いについて周知徹底を行う	保育、介護の施設やサービスを充実する	男女が共に家庭生活と仕事やその他の活動が両立できるような支援策を充実する	住民自治活動・NPO活動・ボランティア活動との協働をすすめる	寄り合いや防災活動など地域の自治活動に女性の視点を取り入れるため、住民自治協議会への女性の積極的な参加を促す	その他	特になし	わからない
正規雇用者	9.7%	17.4%	13.0%	21.9%	30.0%	19.0%	34.8%	36.4%	4.0%	8.9%	2.8%	5.3%	10.1%
非正規雇用者	8.6%	17.8%	10.9%	20.7%	29.3%	19.5%	37.4%	34.5%	5.2%	15.5%	2.9%	2.3%	8.0%
派遣社員、契約社員	10.3%	15.4%	17.9%	25.6%	25.6%	12.8%	17.9%	33.3%	2.6%	5.1%	2.6%	7.7%	23.1%
農林水産業	10.8%	24.3%	13.5%	35.1%	37.8%	24.3%	24.3%	21.6%	2.7%	24.3%	0.0%	5.4%	5.4%
商工・サービス業	5.4%	28.6%	19.6%	17.9%	21.4%	14.3%	39.3%	32.1%	1.8%	16.1%	3.6%	5.4%	5.4%
自由業	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	40.0%	40.0%	0.0%	20.0%	0.0%	20.0%	0.0%	20.0%
家事専業・家事手伝い	7.9%	14.9%	6.9%	12.9%	28.7%	13.9%	33.7%	28.7%	9.9%	13.9%	1.0%	6.9%	8.9%
学生	9.1%	36.4%	0.0%	18.2%	45.5%	9.1%	36.4%	27.3%	9.1%	9.1%	9.1%	0.0%	9.1%
無職	12.0%	21.2%	11.1%	22.6%	24.0%	17.1%	26.7%	26.7%	7.4%	16.6%	2.8%	3.2%	10.6%
その他	5.3%	5.3%	0.0%	0.0%	31.6%	15.8%	31.6%	31.6%	10.5%	5.3%	0.0%	10.5%	15.8%